Vol.76通巻874号　平成7年1月25日発行　毎月1回25日発行　昭和24年8月9日第3種郵便物認可　ISSN 0913-2708

建築と社会
Architecture and Society



特集

光がつくる風合の世界

1

日本建築協会



Kinden
CORPORATION

生まれて50年。

彼には理想の都市が見えていた。

レオナルド・ダ・ビンチ（1452-1519）
画家・彫刻家でありながら、1490年代後半には「理想都市」の手稿を遺し、その後は近代地図学の始原となる平面測量図を描くなど、建築・都市計画にも稀なる才能を発揮した。

人が、暮らしが息づく理想の都市を…。きんでんの変わらぬ原動力となるこの想いを、かの天才ダ・ビンチは40代後半に抱き、手稿に遺したと記録されます。きんでんもまた、これまで国内外の数多くのプロジェクトにこの熱い想いを託してきました。そして今、創業半世紀。これからの時代を動かす無限の領域「情報」への挑戦を主軸とし、エネルギー・環境分野へも、より創造的な総合設備エンジニアリングを推進してまいります。

情報通信分野で未来の都市を…。
きんでん、50年目の決意です。

総合設備エンジニアリング
情報
エネルギー
環境

株式会社 きんでん

本　店/〒531 大阪市北区本庄東2丁目3番41号　TEL. 06(375)6000
東京本社/〒141 東京都品川区東五反田5丁目25番12号　TEL.03(3447)3151

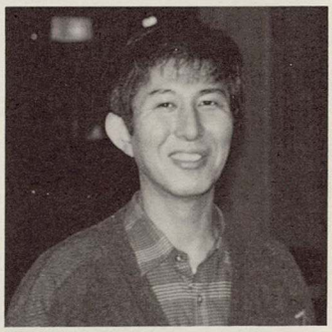
話題建築を聞く(22回)

アルザ泉大津
渡辺光弘氏
平野忠人氏

日　時　1995年1月26日㈭
18:30～20:30
会　場　日本建築協会サロン
＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　渡辺光弘／環境開発研究所
設計課長
平野忠人／環境開発研究所
構造課長
定　員　30人
＊申込者多数の場合は抽選
参加費　会員 2,000円、一般 3,000円
＊含、飲物、消費税
申　込　1月19日㈭までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
1)催し名（話題建築を聞く）
2)氏名
3)会員・一般の別
4)職場名
5)参加証郵送先
6)連絡先電話番号
をお知らせ願います。
＊参加証を1月20日㈮に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
大阪市北区梅田1-1-3-2100
大阪駅前第3ビル21階　〒530
FAX.348-0634　TEL.348-0633



渡辺光弘（わたなべ　みつひろ）
1948年岐阜県生まれ
72　北海道大学建築工学科卒業
現在　環境開発研究所設計課長



平野忠人（ひらの　ただと）
1948年北海道生まれ
72　北海道大学建築工学科卒業
74　同大学院修士課程修了
現在　環境開発研究所構造課長

魅力ある再開発ビルをめざして

都市近代化が急がれる今日、各所において多くの再開発が計画・実施されてきました。なかでも公的助成を受けた再開発は住宅を附帯した複合商業施設が主流であり、それら既存の多くは、性格上多くの制約によって、あるいは住宅施設と商業施設の明らかな構造計画上の違い等によって、建築計画的に見て形態・空間構成を問わず魅力に欠けるものとなっている場合が多々見うけられました。

当計画では、あえて公的開発という特異性を極力意識からはずし、純粋に各商業施設の構成のあり方と都市型集合住宅の居住性、そして自由度の可能性を追求しました。その結果、当初の目的であった本来都市施設の持つべき魅力を生み出せたのではないかと思います。　（渡辺光弘、平野忠人）



●建築概要
所在地　大阪府泉大津市旭町500
設計監理　環境開発研究所
施　工　竹中工務店
敷地面積　20,337.96㎡
建築面積　15,417.22㎡
延床面積　114,294.84㎡
構造規模　SRC、S、RC、B2、36F、P1
用　途　共同住宅、店舗、ホテル、スポーツクラブ、駐車場ほか
工　期　1992年2月～1994年8月

創立80周年に向けて
会員増強について
お願い

本会は建設省所管の最古の公益法人としての歴史を有し、創立は実に大正6年（1917年）3月に遡ります。今から2年余りで、平成9年（1997年）には創立80周年を迎えることになります。この機会に、会を挙げて会員増強に取り組み、90、100周年へ更なる発展を遂げるよう、会の基礎固めを図ることを、去る10月の定例理事会で決定いたしました。なおそれに併せて、既存事業の充実、新企画の展開、また80周年にふさわしい記念事業の実施等について、早急に検討することといたします。

すでにご高承のとおり、本会は建築関係のあらゆる部門を結んだユニークな会員構成と、全会員にお届けする月刊の会誌「建築と社会」（大正6年9月創刊）、見学会、講習会その他の事業を通じて、会員となられる方々には、建築界全般にわたる情報の早期入手と、幅広い人脈を築くことができる等の、他の団体では得難いメリットを提供できます。

この際、会員の皆様におかれましてはなにとぞお知り合いの方に、本会のこうした特長をご紹介、入会をお勧め賜り、一人あるいは一社でも多く会員を増やしていただきますよう、お願い申し上げる次第でございます。

社団法人　日本建築協会
会　長　市川　宏
副会長　岡本　行善
〃　金多　潔
〃　錢高　善雄
〃　三品　哲夫
〃　薬袋　公明
理事一同

30's EYE 21世紀へのエスキス
第10回

井上 章一

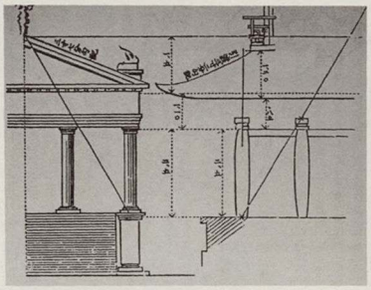
国際日本文化研究センター助教授

エンタシスの世界史と法隆寺

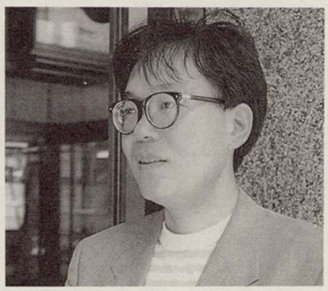
その壮大な幻想の系譜をたどって

「30's EYE—21世紀へのエスキス」をテーマに、30代を中心に様々な分野でご活躍の方々をゲスト講師に迎え、従来の講演会型式とは違う「語り合い、情報交換を行う場」をつくりたいと考えています。気軽にご参加下さい。

日　時　1995年1月27日(金)
　　18:30〜20:30
会　場　日本建築協会サロン
　　＊大阪駅前第3ビル21階
講　師　井上章一
定　員　30人＊申込多数の場合は抽選
参加費　会員・学生　1,000円
　　一般　2,000円
　　＊含、飲物・消費税
　　＊団体会員扱いは1社1名
申　込　1月20日(金)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名(30's EYE)
　　2)氏名　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証郵送先
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を1月23日(月)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX.348-0634　TEL.348-0633
主　催　㈳日本建築協会
　　若い会員の集い小委員会
　　主担　杉本真一/大阪芸術大学



伊東忠太「法隆寺建築論」(「建築雑誌」1893年11月号)



法隆寺の中門と金堂には、真中あたりがふくらんだ柱がたっています。いわゆる胴張り柱です。アルカイック期のギリシア建築ににているので、エンタシスともよびます。さらに、こんな話もありますよね。アレクサンダー大王の遠征で、ギリシアのエンタシスがインドへつたわった。そして、仏教伝来のルートにそって、それは日本までやってくる。古代ヘレニズムと、日本の飛鳥文化は、エンタシスでつながっている。その証拠が、法隆寺の胴張り柱である、と。中学の歴史で、そうならいます。ロマンティックですよね。でも、この話ほんとうにそうなのでしょうか。そういえば、大学の建築史では、ならいませんよね。基本的には黙殺しています。いったいこれは、どういうことなのでしょうか。

(井上章一)

井上章一(いのうえ　しょういち)
1955　京都市生まれ
78　京都大学工学部建築学科卒業
80　京都大学大学院修士課程修了
80　京都大学人文科学研究所助手
87　国際日本文化研究センター助教授
著書
1984　霊柩車の誕生(朝日新聞社)
86　つくられた桂離宮神話(弘文堂)
87　アート・キッチュ・ジャパネスク——大東亜のポストモダン(青土社)
89　ノスタルジック・アイドル——二宮金次郎(新宿書房)
91　美人論(リブロポート)
92　美人コンテスト百年史(新潮社)
94　法隆寺への精神史(弘文堂)

同和火災 フェニックスタワー 見学会

大阪の都心部、梅新の交差点に永年親しまれてきた旧同和火災ビルが、このたび同和火災フェニックスタワーとしてよみがえった。国道1、2号線と御堂筋とが交差する街角にそびえるこの新たなランドマークタワービルは、かつて親しまれていたビアホールがよみがえるほか、300名収容の多目的ホール、スカイレストラン、展示ラウンジなど、通常の高機能オフィスビルを超えた「オフィスカルチャーコンプレックスビル」である。



外観は、天に向かってせり上がっていく特徴あるシルエットでまとめており、企業の発展イメージを上昇感あるデザインで直截に表現している。これはまたビル風の下方へ向かうエネルギーを抑制する環境アセスの効果をねらったデザインでもある。明るいグレーの花崗石貼りの一対のコアシャフトが、頂部で大きな門型を形造っているのは、ビル全体がいわばwelcome-gateを標榜した「幟」をイメージしてデザインされていることによる。特に足元の一対の柱に施された特色ある仕上は、この幟を象徴的に表現したもので、街並にある種の「艶」を提供することをねらっている。

「人の集まる賑わいある文化性の高いビルとしたい」というクライアントの基本方針に基づき、このような外観デザインと内部の豊富な集客機能とにより、所期の意図通り、大阪市域の都市空間と景観に、21世紀へ向けての新たな息吹を提供することを深く念じている。

(与謝野　久)

●建築概要
所在地　大阪市北区西天満4-15-10
建築主　同和火災海上保険
設　計　日建設計、梓設計(構造)
施　工　鹿島・熊谷・長谷工・佐藤・東亜・地崎・淺沼・錢高・戸田JV
敷地面積　2,324.91㎡
建築面積　1,258.56㎡
延床面積　30,369.66㎡
容積率　1,199.9%／大阪市総合設計制度
　　文化施設容積ボーナス制度適用
構造規模　S、SRC、RC、B3、29F、P2
最高高さ　145.45m
工　期　1993年10月〜1995年1月

日　時　1995年2月22日(水)
　　13:30〜16:30
講　師　与謝野久/日建設計設計部長
　　津島　光/日建設計設計主管
　　仲西孝子郎/日建設計監理主管
定　員　50人＊申込多数の場合は抽選
集　合　現地
　　大阪市北区西天満4-5-10
参加費　会員　1,000円、一般　2,000円
申　込　2月15日(水)までに、ハガキ、FAX、電話でお申込み下さい。
　　1)催し名(同和火災見学会)
　　2)氏名
　　3)会員・一般の別
　　4)職場名
　　5)参加証郵送先
　　6)連絡先電話番号
　　をお知らせ願います。
　　＊参加証を2月16日(木)に発送します。
申込先　㈳日本建築協会事業課
　　大阪市北区梅田1-1　〒530
　　大阪駅前第3ビル21階
　　FAX.348-0634　TEL.348-0633

出版委員会企画・第13回
「プロのノウハウ」講座

水にまつわるトラブルの事例・解決策「建築編」

開催日時　1995年1月24日(火)
開場17:30
開会18:00→閉会20:00

会　場　日本建築協会・サロン
(大阪駅前第3ビル・21階)

講　師　山下　勝氏
(株式会社竹中工務店設計部次長・制作担当)

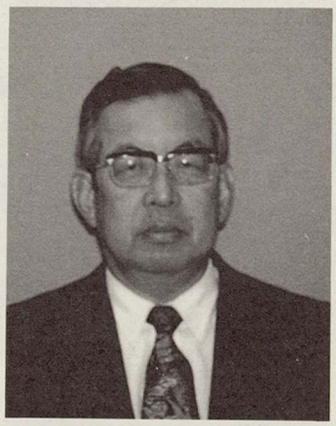
定　員　30名(先着順)

会　費　会員 4,000円
一般 5,000円(消費税を含む)

テキスト　<プロのノウハウ>「水にまつわるトラブルの事例・解決策・建築編」
(テキスト代1部特価　3,900円〔消費税を含む〕にて頒布。持参の方は不要)

申込方法　1月17日(火)までに本会事業課へ葉書かFAX、または電話にてお申込み下さい。
催し名(「プロのノウハウ講座13」)、氏名、会員・一般の種別、職場名、参加証郵送先、連絡先電話番号をお知らせ願います。
＊申込み先着順にて順次、参加証をお送り致します。

申込み先　㈳日本建築協会事業課：〒530　大阪市北区梅田1-1-3-2100
(大阪駅前第3ビル・21階)
FAX. 06-348-0634
TEL. 06-348-0633



山下　勝氏(やました　まさる)
1938年長崎県生まれ、1962年早稲田大学理工学部建築科卒業後、竹中工務店設計部へ入社、設計部技術課長、次長(制作担当)を経て現在に至る。



「もう本当に予算がなくてねえ。雨露さえ凌げれば、贅沢なものはいりませんよ」。かなり前にこんなことを言う建築主に出会った。
今までに、建物の雨漏りで苦い経験をされたため言われたのか、それとも、予算を越えるような建物を設計されては困るための牽制球だったのか、今はもう忘れてしまったが、この雨露を凌ぐという最低限の条件の、いかに難しいことか。貴方もご経験がおありでしょう。
古代より言われている治水という言葉ほど大げさなことではありませんが、日頃建物を設計したり、工事に関わっている者にとっては、水対策は最重要課題の一つです。
昨年、ゼネコン6社と設備関連会社それぞれが取って置きのノウハウを結集して《水にまつわるトラブルの事例・解決策》建築編・設備編を発刊し、皆様の悩みの手助けとなっています。
さらに今回は恒例の「プロのノウハウ」講座として、このテーマを取り上げることになりました。講師は同書編集委員の竹中工務店・山下　勝氏です。教材はビデオやOHPなどを使い、ビジュアルで具体的なものです。出版物にはない、この講座だけのものが聞き出せると思われます。このチャンス、ぜひご参加下さい。

出版委員会委員・松本克暉／大成建設㈱大阪支店

㈳日本建築協会編

『建築設計者のための設備知識』刊行割引価格で頒布

このたび㈳日本建築協会の編著、㈱オーム社の出版で『建築設計者のための設備知識』を刊行いたしました。
この著書は、本会機関誌「建築と社会」1990年～1992年に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者約20名が当たり、本会の編集委員会で推敲を重ねました。
第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こし、その解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。
本書は、10月から全国の書店店頭に出ていますが、本会でも図書の販売をいたします。本会では特別価格として、定価(5000円)の2割引の4,000円(郵送の場合は送料380円/1冊要)で頒布しますので、お買い求め下さるようお願い申し上げます。
詳細お問い合わせ、および購入申込は、㈳日本建築協会へお願いします。

編著者　社団法人　日本建築協会
(東畑建築事務所／北島章因・弓崎幸治・坂田進・城下善雄・中野格、日建設計／藤岡茂・瀬戸良昭・押田忠明、安井建築設計事務所／日根東治・山根敏和・水谷広治、大阪ガス／中村秀行・佐々木明美、関西電力／中村秀夫・大木俊郎、ほか)
〒530　大阪市北区梅田1-1-3-2100　TEL06-348-0635



発行所　㈱オーム社
〒101　東京都千代田区神田錦町3-1　TEL03-3233-0641
体　裁　B5判、220頁、上製本
定価5,000円

「建築と社会」誌

特集一覧● 1974～1994

大正6年3月に誕生した日本建築協会（当時・関西建築協会）の、機関誌は大正6年9月に「関西建築協会雑誌」と題して創刊された。大正8年に「日本建築協会雑誌」、さらに1年後には「建築と社会」と改題し、今日に至っている。昭和42年からは体裁をA4変形判に変え、特集と作品作風頁を二本柱に、シリーズものの頁を織り込み、その時々の社会を反映したテーマを選んで掲載してきた。

取り上げてきた特集テーマは下記のとおりで、バックナンバー購入希望は、日本建築協会事務局（TEL 06-348-0635, FAX 06-348-0634）まで。販売価格は1200円（送料・消費税含）。なお、「建築と社会」創刊号～昭和30年12月号まで全87巻の復刻版が、1991年10月から順次発行（不二出版）・配本されているので、詳細は日本建築協会事務局へお問い合わせ願いたい。

号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1974 Vol. 55	●歴史的環境保全	●明日の建築はどうなるか＊	●保養所作品＊	●既成市街地の住宅地整備の方策	●北摂ニュータウン計画＊	●建築生産と流通機構の変容	●ビルの省エネルギー化	●高層プレハブ住宅の構造設計	●みどり＊	●屋根防水工事の失敗例とその対策＊	●第21回青年技術者＊	●ビル防災に関する12章
1975 Vol. 56	●図書館	●東海の新建築＊	●インテリア＊	●PC板を使用した工業化住宅	●社会・建築・法＊	●都市の景観と施設	●建築とプレストレストコンクリート構造	●生活排水処理施設のあり方	●人間環境としてのターミナル＊	●騒音対策と防音材料	●第22回青年技術者＊	●集合住宅の設備＊
1976 Vol. 57	●証言'76—建築デザインの動向＊	●建築基礎構造の問題点＊	●医療施設＊	●床工法と材料＊	●建築防災と法＊	●市街地整備＊	●工場建築の設備＊	●鉄骨構造のジョイント	●集住体のハードとソフト＊	●結露防止対策と断熱材料＊	●第23回青年技術者＊	●設備からみた建築の問題点
1977 Vol. 58	●デザインの動向—部分と全体＊	●兵庫県—その風土と建築・建築界	●日本建築協会60周年記念号 ●ニュータウンの管理	●コンクリートの品質管理と行政指導の方向	●日影規制と法＊	●身障者施設＊	●照明設備＊	●埋立地における構造問題—大阪南港と芦屋浜を例として	●日本住宅公団と建築作品	●ミニ乱開発から計画的ミニ開発へ＊	●建築における省エネルギー化	●第24回青年技術者＊
1978 Vol. 59	●デザインの動向—新旧のコントラスト	●水＊	●医療施設—病院建築と情報システム	●外壁塗装材料＊	●電波障害と建築＊	●組合方式による集合住宅計画	●住宅設備	●新しい耐震設計	●CAD—設計とコンピュータ	●一般号＊	●第25回青年技術者＊	●ビル環境
1979 Vol. 60	●転換期の再開発＊	●大阪南港ポートタウン	●商業空間	●コンクリートのひびわれ	●日影規制＊	●ホテル建築と情報システム	●農村施設の変貌＊	●建物の終局強度の検討＊	●庄内のまちづくり＊	●80年代のインテリア＊	●第26回青年技術者＊	●建設業の労務事情＊
1980 Vol. 61	●80年代の都市と建築—まちづくりの歴史と展望＊	●今後の省エネルギーの趨勢 ●建築金物＊	●最近の銀行建築 ●安井建築設計事務所作品集＊	●住宅の耐久性＊	●建築行政と法規＊	●最近の防水工法＊	●都市景観とアメニティ＊	●屋内体育施設の設備＊	●水ぎわのまちづくり	●今後の外装吹付仕上材＊	●第27回青年技術者 ●転機にたつマンション集合住宅＊	●これからの建築設計と新耐震設計法＊
1981 Vol. 62	●職能論＊	●中国の論文—北京の都市計画＊	●ポートピア'81＊	●台所まわりの計画と設備＊	●シーリング材の知識＊	●災害と法—安全な環境をめざして＊	●都市住宅—住まい手からの発想＊	●建築物と風—デザイナーのために ●日建設計作品集＊	●住宅・都市整備公団—関西における都市整備を中心とした新公団の役割＊	●間仕切壁の性能評価＊	●第28回青年技術者＊	●障害者の暮らしやすい環境と設備
1982 Vol. 63	●新たな商業空間の展開＊	●省エネルギーと開口部＊	●医療施設—地域医療と設備計画＊	●近畿の地盤と地質＊	●都市景観—まちなみ美観への誘い＊	●大阪市庁舎（第一期）＊	●ホール建築と音＊	●大スパン構造＊	●昭和設計作品集＊	●絵本にみるすまいとまちづくり ●オー・エム・ホテル 日航ビル	●第29回青年技術者 ●地方の庁舎建築＊	●風土・空気と人間＊
1983 Vol. 64	●関西の建築文化を考える	●マイコンの建築への利用	●多様化する運動施設＊	●建築と品質管理	●計画におけるコミュニケーションとプレゼンテーション	●大阪駅とターミナルビル	●維持管理と設備更新	●東海の将来と文化を考える	●オフィス・インテリアの変革	●プレストレスト・鉄筋・コンクリート構造	●第30回青年技術者 ●大阪城国際文化スポーツホール＊	●集合住宅と生活音
1984 Vol. 65	●21世紀への関西—魅力あるまちづくりを問う	●関西の超高層ビル	●ビルのリフレッシュー内外装補修技術の現状と発展—	●建設産業とロボット開発	●住環境と法制度	●まちの活性化と商業空間 ●京都駅南口再開発ビル＊	●消防設備のポイント	●みどりとそれをとりまく人々	●高齢化社会と生活空間	●床の構工法	●第31回青年技術者 ●ディテールの思想	●光応用システムと建築
1985 Vol. 66	●大阪湾物語＊	●東海の現在と近未来	●自由様式への道—建築家安井武雄 ●建築物の基礎を考える	●情報化をめぐる建築・都市事情	●ホール—それが生みだす文化—	●建物の表情—最近の外壁材料	●大阪国際見本市新会場	●建築と水の演出 ●神戸研究学園都市	●都市と健康・スポーツ	●接合—人体と建築にみる— ●日建設計作品	●村野藤吾の一断章 ●伊勢湾をめぐる東海	●第32回青年技術者
1986 Vol. 67	●これからの住空間—都市型集合住宅にみる	●屋根—そのデザインと素材	●現代デザイン—ポストモダニズム10年 ●これからの防水工法	●インテリジェントビルの建築・設備計画	●自治体営繕と公共建築	●建築防災と法 ●大阪市庁舎（第2期）	●21世紀の住居と設備	●開発—その創造的仕掛けの鍵をもとめて— ●ツイン21	●CAD—その応用と展開	●オフィス空間の構成	●第33回青年技術者	●インテリア・イクステンションとリニューアル
1987 Vol. 68	●入浴物語	●腐食	●創立70周年記念号	●躍動する東海へ	●貯蔵・保管施設 ●大阪府立体育会館	●室内の仕上床	●駅	●行政建築家の可能性	●シティホテルの設備	●宝塚のまちづくり	●建物と街並みの接点 ●昭和設計作品集	●第34回青年技術者
1988 Vol. 69	●ホテル物語	●軟弱地盤と基礎 ●文化と伝統—東海からの報告	●設備におけるLCCとリフレッシュ ●東畑建築事務所作品集	●建物の外装リフレッシュ＊	●都心居住	●中国地方の展望とひろしまのまちなみ	●21世紀への照明	●制振	●超高層住宅を考える	●集合住宅のリフレッシュ＊ ●大阪府営繕	●第35回青年技術者 ●800号記念＊	●讀賣テレビ
1989 Vol. 70	●夢をのせる輸送設備	●リゾート事情 ●竹中工務店創立90周年記念	●色の復権 ●東海の新建築と伝統技術＊	●省力化のための材料・工法	●まちづくりと法	●博覧会とまちづくり	●都市環境創造と設備Ⅰ	●建築とアート	●構造の省力化 ●鹿島建設大阪支店建築設計部作品集	●都市環境創造と設備Ⅱ ●ユーザー参加のハウジング	●第36回青年技術者	●最近の博覧会パビリオン
1990 Vol. 71	●商品化住宅のデザイン＊	●ニュータウン・ルネサンス	●東海の都市景観 ●佐賀市文化会館	●スケール感	●プレハブ住宅技術の現在と未来	●国際花と緑の博覧会	●建築家のための設備知識—中規模オフィスビルによるケーススタディー	●高強度化—設計の多様化をめざして—＊	●やわらかな住宅管理・ユーザーの役割	●都市のナイス・プレイス ●兵庫県営繕の歩み	●第37回青年技術者 ●和歌山県の展望と景観＊	●高級感—建物の顔：感性の時代を迎えての外装材
1991 Vol. 72	●新しい都市空間づくり—Ⅰ—	●オフィス・プレジャー ●新しい都市空間づくり—Ⅱ— ●建築の風景	●東海支部復活30周年記念	●大阪東京海上ビルディング	●今、京都 ●建築家のための設備知識—複合商業ビルによるケーススタディー	●建築と土木 ●毎日放送本社ビル ●近畿地方建設局営繕部	●一般号	●建築をめぐるトラブルとその解決 ●建設現場のイメージアップ作戦	●空間のアイデンティティ ●きんでん写真集 ●大建設計40周年	●自治体住宅政策への提言 ●大林組創業100年記念	●建築と土木—構造技術の世界— ●第38回青年技術者	●スリムでタフなコンクリート ●21世紀の住まいを考えるシンポジウム
1992 Vol. 73	●夢物語—人がかわる、まちがかわる—	●こだわりのインテリア ●近畿の郵政建築15年の歩み	●建築とデザイン—東海支部—	●建築家のための設備知識—集合高層住宅の設備システム—	●地球環境時代の建築	●街創り、住まい創り—住宅・都市整備公団関西支社10周年—	●木構造を使ってみませんか—集成材による構造—	●接着—建築分野への限りなき可能性	●中国地方の街並みと建築家の「語り、夢、作品」	●屋台—仮設の魅力に学ぶ— ●ハウジングのメインストリームを探る	●いま建築教育に何が期待されているのか	●京のかたちと色
1993 Vol. 74	●第39回青年技術者 ●東畑建築事務所創立60周年記念作品集	●大阪府営繕	●東海の美術館・博物館	●市民劇場の舞台設備	●環境—限りある自然と建築とのかかわり	●都市のスカイライン	●映画の中のインテリア ●けいはんなプラザ・住友ホール	●建築の再生—構造技術の役割— ●大阪市営繕	●国際的パートナーシップの可能性	●福祉のまちづくり	●都市型住宅再考	●第40回青年技術者 ●環境—人にやさしい空間創造をめざして
1994 Vol. 75	●コピー文化の新時代 ●広島の街造りとアジア競技大会	●九州のインスタレーションと貌	●伊勢・神宮式年遷宮と神宮界隈	●建築のエネルギーシステム	●明日に向かって—会員作品	●いま、医療施設は	●住空間における居どころへの視点	●まちなかの看板 ●竹中工務店の集合住宅	●水と建築 ●日本建築総合試験所	●建築設備のCGシミュレーション ●村野、森建築事務所	●構造美—建築の中の美 ●集合住宅団地リニューアル	●第41回青年技術者 ●関西国際空港

＊印は欠号

1995年を迎えて

社団法人 日本建築協会会長 市川　宏

新年を迎え、会員の皆様のご多幸と建築各界のご繁栄を心から祈念いたします。

バブル経済崩壊のあと、長く続いた平成不況もようやく底をうち、景気は上向いてきたとされておりますものの、その勢いは弱く、とくに民間投資が依然低調であることなど、景気回復が通常他の業種より遅れる建築業界にとっては、なお厳しい状況が続いております。

ところで、今回の景気変動は単なる景気循環にとどまらず、日米構造協議に代表されるように、日本の社会・経済構造の改革が迫られているのであります。建築業界でも、入札、契約制度の改革、建築コスト低減など多くの問題に直面しておりますが、もはや日本の特殊性を理由に既存の制度、システムを存続させることは、国際社会では認められない時代になった、と認識しなければならないのでしょう。

また一方、これは全産業に共通する問題でありますが、地球環境、省資源、省エネルギー関連の一層適切な新技術の開発や、高齢化社会の急速な到来、障害者への対応などについても、現代社会では「住宅・建築・都市」がとりわけ枢要な要素であるだけに、建築界に求められる役割、責任はひとしお重要なものがあるわけです。当協会も、建築に関係するすべての専門分野を網羅するというユニークな態勢を生かすことによってこの変革に対応し、会員の皆様のご期待にお応えするとともに、ひいては広く社会に貢献しなければならないと考えます。

昨年4月、会長就任にあたって本会の経営収支の悪化について触れさせていただきましたが、皆様のご期待にお応えするためにも、これを打開する道は一にかかって協会の活性化と、会員の増強にあるものと考え努力して参りました。お陰様で皆様のご支援をいただき、会員数は飛躍的に増加いたしましたが、まだまだ所期の目的を達するまでには至っておりません。このため、先に本誌会告欄の「定時評議員会議決報告」でお知らせしましたとおり、誠に心苦しい次第でありますが、新年度から団体会費を改訂させていただくことになりました。これによって管理費が会費収入を超える逆ザヤを解消し、またこれを機に事業の拡充を積極的に進めるなど、会勢拡大に一層努力を致す所存でありますので、なにとぞご理解を賜りますよう、お願い申し上げる次第です。

本年は、10年間で630兆円を投入する新公共事業投資基本計画の初年度にあたります。景気の浮揚が一段と進み建築界にも十分に及ぶことと、併せて上記の課題解決に向けて建築界が着実な前進を遂げる1年となりますこと、そして、本会がそうした面においてもとくに有効に機能することを念願いたしております。

日本建築協会
常設委員会・本年の抱負

編集委員会

会員交流のメディアとして

編集委員長
荒井　清

大変きびしい建築界の影響もあり、会誌の発刊にも一段と難しさが増してきました。
このような状況の中で、関係各位のご理解と編集委員の皆様の心に余るご協力で、平易で楽しめる冊子への努力も取り入れていただき、無事昨年の編集を済ませることが出来ましたことを、心から感謝申し上げます。
今年は表紙の趣向を少し変え、京都工芸繊維大学造形工学科、山口重之研究室のご好意を得て、CAD作品によるニューヨークの建築物シリーズを見ていただくことといたしました。
また、今年も業務に関連する、出来る限り身近な問題を取り上げ、平易で面白おかしく組み立て、会員の皆様に楽しんでいただける誌面を目標として、編集委員の皆様とともに努力してゆきたいと考えております。
本誌は会員相互の交流手段としての、一つのメディアですから、今年も皆様の忌憚のないご意見やご協力、広告記事等による会誌への従前に勝るご支援を、重ねてお願い申し上げます。

事業委員会

会員増強と魅力ある事業をめざして

事業委員長
多井幸男

新年を迎え会員の皆様には格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
本年は戦後50年、15坪の住宅に始まり、31mビルの高さ制限撤廃等、日本の建築業界も幾多の変遷をへて現在は超高層も常識となり、建設技術も進歩と発展をとげて参りました。しかし電気製品の7割から8割までが海外で生産されている現状で、中国ではビルラッシュ、あたかも戦後復興の時代が思い出されます。当然、日本の建設産業も大きく変化し、改革の時を迎えるものと推察されます。
これからの事業委員会も、編集、建材、教育、出版の各委員会と連絡を密にして、私どもの主たる行事の見学会、講演会、若い会員の集いを一層充実させ、新企画を立て努力する覚悟でございます。会員各位も遠慮なくご意見を出していただき、各委員と一体となって魅力ある協会になるように尽力すれば、必ずや会員増強と協会の発展につながるものと確信いたします。今後ともかわらぬご指導とご後援をお願い申し上げます。

教育委員会

支部との連繋と全国を視野に

教育委員長
片倉健雄

中堅技術者の社内研修というものが、その対象を絞ることと適切な内容を盛り込むという点で、なかなか難しいと聞いております。
「建築工事実務講習会」は、いわば社内研修をオープンにしたような内容で続けられているものですが、その評価が高まりつつあることをうれしく思っております。これはひとえに担当の委員の方々のご努力によるものですが、近年は、東海・京都・中国の各支部の方々が積極的に支援して下さっていることの成果でもあると感謝いたします。
本会の活動が、大阪以外の地でも今まで以上に積極的に展開されることが、発展につながることと期待いたします。
「工高生デザインコンクール」も全国レベルの事業として定着しており、今年は41回目を迎えますが、その水準が非常に高くなってきていることから、委員の方々とともに一層の充実に努めたいと思っておりますので、ご支援をお願いいたします。

出版委員会

昨年を上回る発案を

出版委員長
須賀好富

平成6年は「プロのノウハウ」特装版3点を出版した。これで延べ建築技術選書38点、プロのノウハウ22点、同特装版11点になる。書籍の出版以外に、これをテキストにした講演会も12回を数えた。出版より講演の方が盛んである。当委員会が意図した当協会のPRと技術研さんの効果が上がっている。
委員会の委員には、新しい人も加わって総勢17人になった。新しい委員の方からは新しい企画の発案もあって、委員会は大変盛り上がっている。委員会も活性化しなければならないので、委員会終了後も懇親会の場を設け、活発に意見のやりとりをしている。
こんなことで新年の当委員会の抱負（というよりはノルマ！）は、平成6年より以上の出版数と講演数としておこう。当協会会員の皆さんの絶大なご支援をお願いしたい。

建材委員会

再利用や耐久性にも目を向けて

建材委員長
和田克朗

戦後最長ともいわれた日本の経済不況も、ようやく回復に向かいつつあり、とりわけ影響の大きかった建設業界にも明るさが帰ってまいりました。
建設投資額のうちでも、建材（基礎資材を含め）は大きな比重を占めており、広く産業界への影響は大きいものがあります。
今期の経済回復は、自動車業界などでも多種の部品を共通化し、極力経費を切り詰めたリストラの成果ともいわれていますが、一方、建材はますます多種多様化の方向にあり、世界的な省資源、省エネルギー化に逆行している面も少なくないと思われます。
建材委員会では、「建築と社会」の誌面を通じて、新しい建材を紹介してきましたが、単に見た目が新しいといったものではなく、廃棄物の再利用や、耐久性の向上などにも配慮した建材・資材を積極的に紹介するなど、より広い視点に立って、社会に役立つ情報の提供に努めたいと思います。

建築と社会

1995 1 1917年創刊 第76集／通巻874号

ARCHITECTURE AND SOCIETY
JOURNAL OF THE ARCHITECTURAL ASSOCIATION OF JAPAN

今月の表紙

Woolworth Building
ウールワース・ビル

竣工年　1913
設計者　Cass Gilbert
所在地　New York

1913年、C.ギルバートの設計により建てられたウールワース・ビルは竣工時、世界一高い建物であり、その記録は1930年に40ウォール・ビルが竣工するまで破られなかった。また、その高さや、高さを強調するための頂部の鋭角的デザインからは、このウールワース・ビルが1920年代のアール・デコ・スカイスクレイパーの先駆をなす建築であったことを読み取ることができる。(CG作成・解説：桐原則勝／京都工芸繊維大学山口研究室)

■特集予告

2月号／音―騒音から操音／創音へ
3月号／〈飛騨、美濃〉まちの活性化と地方文化

編集委員会（平成6年度）

■編集理事
青柳　司
◎荒井　清
井上　豊
小島　雄
須賀　好富
竹中　錬一
深江　実
松村　廣三
溝神宏至朗
若山　繁
■編集顧問
東　孝光
■編集委員
★計画系分科会
☆計画系
伊縫　憲幸
梅村　宏尚
小浦　久子
鈴木　克彦
田中　直人
松川　敏正
横関　真紀
※吉村　英祐
☆建築計画系
荒井　博
磯村千恵子
上杉　秀隆
江副　敏史
荻窪　伸彦
菅野　忠司
笹村　欽也
佐藤不二男
塚本　史郎
刃金　国男
※山本　匡
☆インテリア・住宅系
石川　佳子
岡本　昭子
加藤　力
角方　利幸
北浦かほる
※小梶　吉隆
小島　保人
高橋　文吾
中村　孝之
畑　康之
福田　由利
松田　隆
山上　恭子
★構造分科会
和泉　一義
岡本　達雄
黒木　安男
竹野　富夫
多田　元英
田中耕太郎
築谷　朋也
※二宮　利治
西　邦弘
西村　泰志
蓑輪　幸男
★設備分科会
岩本登志男
植田加久夫
遠藤　進
梶井　宏修
河津　隆之
伊達　正雄
田ノ畑好幸
※村上幸三郎
★施工材料分科会
有光　利治
植田　実
※小椎八重猛
志水　史典
野口　和宏
吉田　茂二
★法令分科会
乾　康雄
※入江田吉仁
樫田　攻
城戸　史郎
中島　弘志
中西　孝子
■作品作風小委員会
赤木　隆
小笠原絵理
小野　正人
尾﨑　久純
川上比奈子
倉渕奈千子
杉原　繁
田中　均一
○富田　昌義
藤城　義丈
前川　治彦
前田　幸宏
増田　敬彦
増田　俊哉
松田　善弘
宮地雄一郎
■会員企画小委員会
伊藤　郁郎
○稲木　裕子
茨木　保
槽谷　浩史
毛谷村英治
小板橋鉄雄
佐伯由紀子
佐野　洋
高田　光雄
高橋　麗子
塚口　明洋
増渕　昌利
松石　千秋
山嵜　章子
■広告企画小委員会
池渕　俊男
上井　善一
○勝　一弘
河原　正雄
衣川　徳好
菱田信八郎
藤田　孝吉
山下　修司

◎委員長　○副委員長　※幹事

印　刷　平成7年1月20日
発　行　平成7年1月25日
発行人　社団法人日本建築協会
発行所　社団法人日本建築協会
大阪市北区梅田1-1-3-2100
電　06－348－0635
振替口座　大阪1-39975
印刷所　青葉印刷株式会社
日本電植株式会社
定　価　1200円〔本体価格1165円〕

CONTENTS

特集● 光がつくる風合の世界

［総論Ⅰ］ 日本建築における光と空間●中村昌生 34
［総論Ⅱ］ 近代の光の起源●前田忠直 38
［随　筆］ 「光への思い」
薄闇への思い●寺前浄因 42
現代照明考●土井　明 43
映画考・大阪の夕焼け●金　秀吉 44
光へ●絹巻　豊 45
光の記憶・光の体験●近田玲子 46
舞台照明はフィクション●木村嘉次 47
人と光と建物●梶井宏修 48
光の芸術●小勝敏克 49
［事　例］ 「光がつくる空間の風合」
住友製薬研修所●日建設計 50
TBS放送センター●日本設計 51
O邸●北島道生 52
千里朝日阪急ビル●竹中工務店 53
［総　括］ 光がつくる風合の世界●鈴木克彦 54

年頭のことば　1995年を迎えて●市川　宏　5
本年の抱負　常設委員会●荒井　清・多井幸男・片倉健雄・須賀好富・和田克朗　6
会告　話題建築を聞く(22回)アルザ泉大津―渡辺光弘氏・平野忠人氏―　1
30's EYE(第10回)井上章一「エンタシスの世界史と法隆寺」
同和火災フェニックスタワー見学会
「プロのノウハウ」講座―水にまつわるトラブルの事例・解決策「建築編」―

作品作風　ドーン・センター　大阪府立女性総合センター　8
(仮称)京都府立学研記念公園内施設
阪急宝塚駅および高架下店舗「G・コレクション」
南船場ユーズビル
ザ・モール姫路
クラウンハイム伊丹
㈱パトライト三田工場

Gallery　時間の流れを感じさせる空間(設計：野井成正)●川上比奈子　22
ブックステーション　図書紹介8冊　24
デザインコンクール　第40回工高生デザインコンクール(テーマ：駅前広場に建つ　市民ギャラリー)　25
Sketch Book　最近竣工した新建築作品11点　28
GBRCニュース　試験紹介　擁壁用透水マットの性能試験―土質・基礎部門　30
法令コーナー　高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる建築物の建築の促進に関する法律
●乾　康雄　31
建築の眼　科学的パラダイムから美学的パラダイムへ／●池上俊郎　32
趣味と建築―川柳―●社家　浩
客に合わせて店を潰すくらいなら自分でやりたいことをやって潰す●塚口明洋
京都の夜紅葉創り●村上幸三郎
構造の頁　無溶接継手杭●山田　悟　60
設備の頁　ホテル客室における換気システムと省エネルギー―京都ホテル―●安坂　務　62
Information　シーザー・ペリ展．中国のタイル展―悠久の陶・塼史―．〈東孝光1966－1994〉展．
ル・コルビュジエのモチーフ：女性．「今、キリムがおもしろい／」．SPACE DESIGN SYMPOSIUM．
〝ゆりかごから墓場まで〟報告会．給排水衛生設備における騒音・振動低減シンポジウム．
「福祉のまちづくり」アイデア募集．懸賞論文募集．平成6年度「大阪市ハウジングデザイン賞」決定．　63
Report　吹田市西尾家の建物と武田五一●足立裕司　65
月報　平成6年11月分　68



作品
作風

設計 ■
大阪府建築部営繕室・安井建築設計事務所
監理 ■
大阪府建築部営繕室
大阪府建設監理協会
安井建築設計事務所

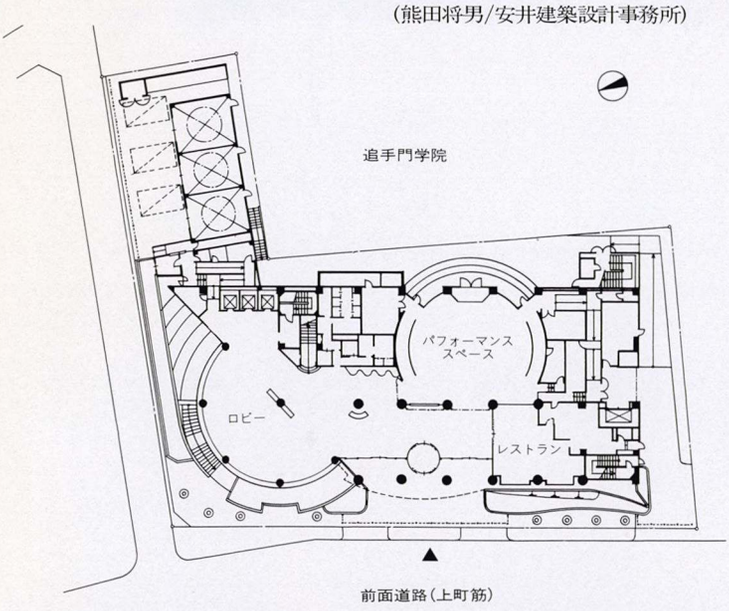
施工 ■
大林・南海・西武JV

ドーンセンター

大阪府立女性総合センター

「ドーンセンター」は、男女の自立と対等な参加・参画に基づく男女協働による新しい社会の創造を基本理念とし、Information（情報ネットワークの拠点）、Identity（女性の社会的自立の拠点）、Internationality（国際交流の拠点）、という三つのＩを基本に、女性の総合的な支援施設として計画されたものである。
具体的な施設内容は、１階に吹抜ロビーやパフォーマンススペース、２階に女性に関する情報ライブラリー、３階に案内・サービスを含む管理部門、４～５階には、啓発学習のための会議室・セミナー室・視聴覚スタジオやワークステーションを配置している。また７階に国際会議も可能な500席の大ホールを設けているほか、地階には温水プールを含むウェルネスのフロアが設置されている。
建物の外観デザインは、女性の情報発信基地を象徴するとともに、明るく親しみやすいイメージを表現した。

（熊田将男/安井建築設計事務所）

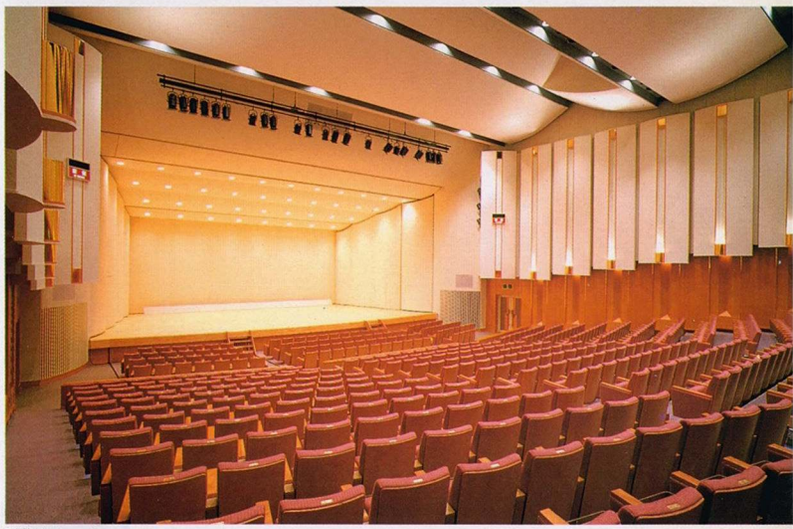


配置・1階平面図　1:1000

所 在 地 —— 大阪市中央区大手前1—3—49
敷地面積 —— 3,170㎡
建築面積 —— 1,970㎡
延床面積 —— 12,760㎡（駐車場棟を除く）
構造規模 —— SRC、S、10F、B1F
工　　期 —— 1992年3月～1994年7月
最 寄 駅 —— 京阪電鉄天満橋駅・地下鉄谷町線天満橋駅
撮　　影 —— 島　修一



外観夜景


7階大ホール



▲2階情報ライブラリー

▼地下1階ウェルネスフロア（温水プール、フィットネススタジオ）




(仮称)歩廊　正面は(仮称)公園センター



(仮称)ビジターセンター　下の池からの景色

作品風

企画■
アーキヴィジョン企画建築事務所
設計■
吉村建築事務所
監理■
京都府・吉村建築事務所

施工■
公園センター：宝建設工業・公成都市建設・大成土地開発協同企業体
歩　　廊：宝建設工業・公成都市建設・岡本建設協同企業体
ビジターセンター：公成建設・タイセイ・宮城建設協同企業体

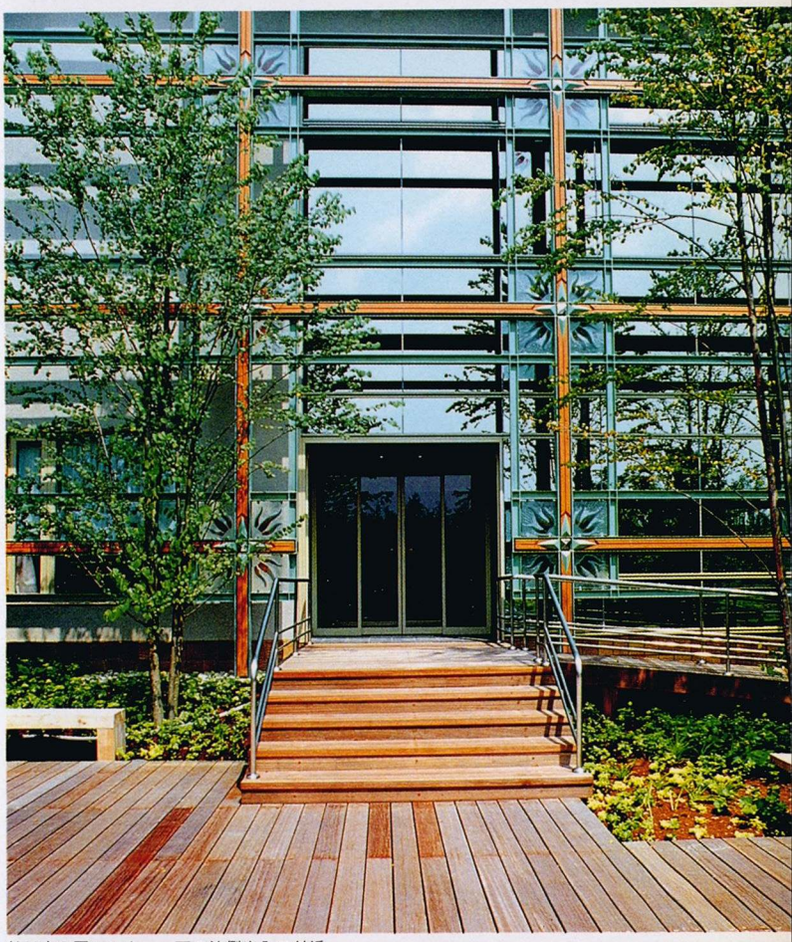


(仮称)公園センター　下の池からの景色

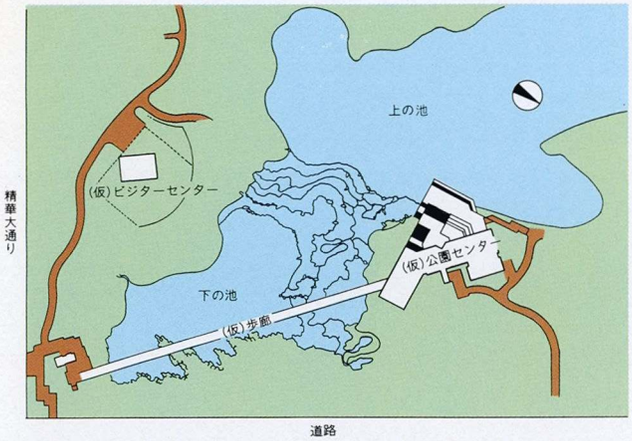
(仮称)京都府立学研記念公園内施設

学研記念公園整備工事の中で計画された建物である。
庭園内の池を横断する橋（歩廊）と池の両側に位置する２棟の中核施設からなる。
当初から造園設計者との協議の基に設計が行われ、庭園のテーマに沿うよう、公園センター・ビジターセンターには風景の一部として橋には庭園をゾーン分けし、俯瞰するといった建物本来の機能だけではない、造園と建築が一体となるよう計画された施設である。

（日下部大作、中原春生/吉村建築事務所）



(仮称)公園センター　下の池側出入口付近



配置図

▼(仮称)ビジターセンター　玄関ホール



所 在 地 —— 京都府相楽郡精華町（仮称）学研記念公園内
敷地面積 —— 241,000㎡

	公園センター	歩廊	ビジターセンター
建築面積 ——	827㎡	—	112㎡
延床面積 ——	1,365㎡	—	903㎡

構造規模 —— RC、2F、PI　　S130m　BIF、IF(地下RC地上S)
工　　期 —— 平成5年7月～平成6年6月
最 寄 駅 —— JR学研都市線・祝園駅/近鉄京都線・新祝園駅
撮　　影 —— 原　定理、山田和男、武市通治



ソリオ（再開発ビル）側入口外観



全体外観

作品
作風

設計監理■
阪急電鉄・阪急エンジニアリング

施工■
駅舎・建築/竹中土木・竹中工務店共同企業体
店　　舗/竹中工務店・竹中土木・森組共同企業体

阪急宝塚駅および高架下店舗「G・コレクション」

阪急宝塚駅は、阪急電鉄が営業を開始した明治43年に開設された歴史ある駅で、駅付近には宝塚ファミリーランド、宝塚大劇場、手塚治虫記念館等があり、休日には多くの人でにぎわっている。

阪急宝塚駅付近高架化事業によって、宝塚駅を含めて宝塚線0.5kmと今津線0.9kmが高架となった。なお、高架化事業は国道176号整備事業と宝塚駅前地区市街地再開発事業に合わせて施行され、宝塚駅前は市の玄関口として面的に整備された。

施設構成は、1階が構外コンコースと専門店「G・コレクション」、2階が改札口・駅務室と阪急百貨店、3階が島式2面4線の200mプラットホーム、屋上が300台の駐車場となっている。

駅は都市へのゲートであり、都市の印象に大きく影響を与えるランドマークである。また、鉄道の起源であるヨーロッパでは、様式美に基づく荘厳な駅が多い。これらの点を重視して、デザインは、宝塚大劇場のイメージである「南欧風」とし、また鉄道の持つ象徴性を表す「様式(ルネサンス風)デザイン」も取り入れた。具体的には、屋根瓦や塔状の階段室を持つ外観、内外の開口部へのアーチ形状の繰り返し、中世の都市の尖塔やローマの水道橋をイメージしたランプウェイ、ボーダーや腰壁のある内装などがあげられる。

人々は宝塚駅に着く時から、宝塚大劇場のイメージを彷彿させることができ、また、鉄道の持つ歴史やロマンを感じることができるのである。

(上田正人/阪急電鉄鉄道施設部)



所 在 地 —— 兵庫県宝塚市栄町2−3−1
敷地面積 —— 8,614.06㎡
建築面積 —— 6,845.08㎡
延床面積 —— 12,324.02㎡(確認申請対象床面積)
28,214.35㎡(防火対象床面積)
構造規模 —— S・RC・SRC造、5F
工　　期 —— 平成元年10月〜平成6年7月(駅舎)
平成5年6月〜平成6年3月(店舗)
撮　　影 —— 永峰克文



駅前広場側入口外観



Gコレクション(専門店)吹抜



Gコレクション(専門店)通路



東面全景

作品
作風

設計■
ニュージェック一級建築士事務所
監理■
関西都市エンジニアリング

施工■
鴻池組・錢高組・戸田建設・安藤建設共同企業体


アプローチ

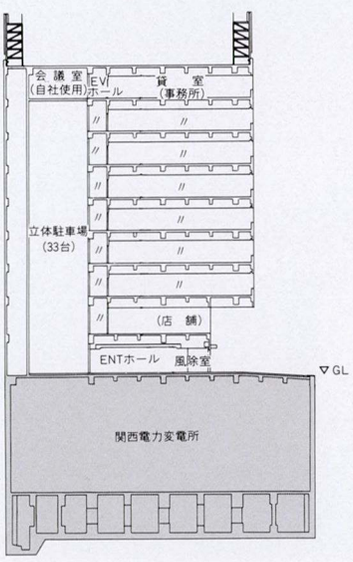
南船場ユーズビル
(地下型変電所複合ビル)

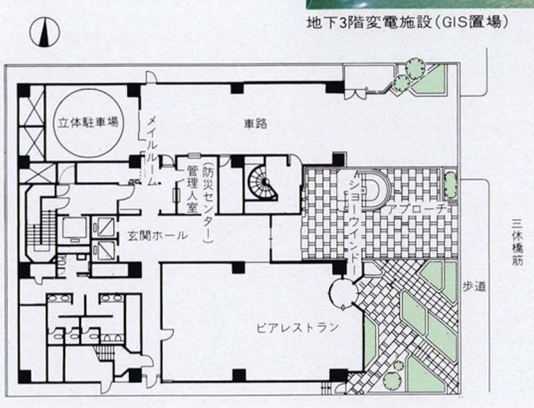
都市機能の高度化、社会機能の集中化に伴い都市部の電力需要の増加が著しく一方都市の過密化により変電所の立地確保の困難さは顕著になりつつある。
この為都市部の変電所形態としては、多用途が混在するビル(複合用途ビル)内への建設ニーズが年々高まっている。
当該地は大阪市内の都心・商都大阪の代名詞となった船場の南に位置し、商業地域として発展し電力需要も増加する地域である。
反面現在は道路が狭く、新旧の中小ビルが敷地いっぱいに乱立した雑多な街並となっている。
ここでは戦前に建てられた変電所があったが、施設の老巧化により建物の建替えを含む増強が必要となった。このような背景のもとに施設は、「地域に貢献できるビル」をテーマに公開空地を設ける等地域の発展や街並にゆとりと潤いを確保し、景観形成に寄与することを念頭において計画、設計を進めた。
施設としては地下部分に変電所を設置し、1階、2階を飲食店舗、3階以上をテナントオフィスとした複合用途ビルで土地の有効利用を考慮した都市型変電所のあり方を示唆するものである。
尚この変電施設は電力事業の用に供する変電所設置に当り大阪市総合設計に準じた容積の割増しを受けている。又工事の安全性、工期の短縮を考慮し地下工法については逆打工法が採用されている。

(関口　隆／ニュージェック)


エントランス


地下3階変電施設(GIS置場)





所在地――大阪市中央区南船場3-2-4
敷地面積――1,060.01㎡
建築面積――　735.77㎡
延床面積――8,383.51㎡
構造規模――SRC、B3F、9F、PI
工　　期――平成4年3月～平成6年7月
最寄駅――市営地下鉄御堂筋線・心斎橋駅
撮　　影――加藤文彦(伸和)


THE MALL
NAS姫路 短期水泳教室会員募集中
食遊街は、夜10時まで
姫路西武とザ・モール専門店街は
夜7時30分まで営業致しております。
SEIBU
スポーツクラブ
NAS姫路
神戸新聞文化センター
(KCC)
ロッテリア

外観西面


THE MALL
NAS姫路 短期水泳教室会員募集中
食遊街は、夜10時まで
姫路西武とザ・モール専門店街は
夜7時30分まで営業致しております。
ロッテリア

外観夜景

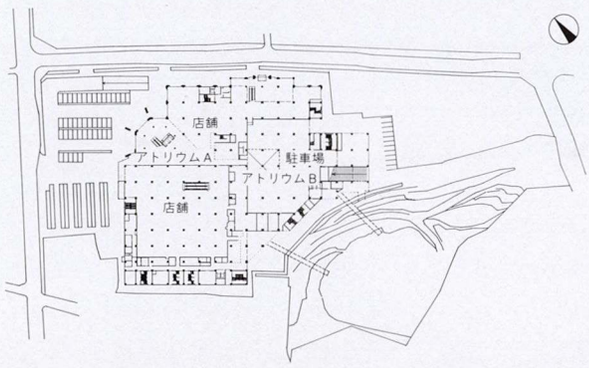
作品風

設計監理■
吉村建築事務所

施工■
五洋建設・吉田組共同企業体

ザ・モール姫路

姫路市内の地形は小さな丘が点在する旧城下町であり、ザ・モール姫路も南側に５階建分の高低差のある丘を敷地に持っている。
ザ・モール姫路はJR姫路駅の北西へ約３km又、世界文化遺産であり国宝でもある姫路城から西へ約１kmの住宅地域に建つ大規模複合ショッピングセンターである。ベルギーのシャルルロアー市と姫路市が姉妹都市の関係を結んでいることから両市の共通視点、中世の城をイメージとして外観中枢部をデザインした。
プランは地階に駐車場、１～５階はキィテナントを中心にした専門店のショッピング街、６階はスイミングスクールと文化教室、７階が総合事務所で構成されている。準シースルエレベーターを持つ６層アトリウムAと吹抜を共有したエスカレーターを持つ５層アトリウムBが建物の中心となり、この２点を結ぶモールで各店舗が賑わっている。特に５階は子供用品売場であるが、このレベルで同一敷地内の丘とを２本のブリッジで連絡、丘の広場を有機的に結んでおり敷地環境と一体化されたショッピング街となり周辺の住宅地になじんできている。
(富田健治/吉村建築事務所)



配置図　1:4000

所 在 地――兵庫県姫路市今宿字面白1953-2外
敷地面積――24,656.9㎡
建築面積――10,289.3㎡
延床面積――58,457.2㎡
構造規模――RC、B1F、7F
工　　期――平成４年９月～平成６年４月
最 寄 駅――JR山陽本線・姫路駅
撮　　影――永峰克文



アトリウムA



アトリウムB



作品
作風

設計・監理■
創美設計

施工■
大末建設

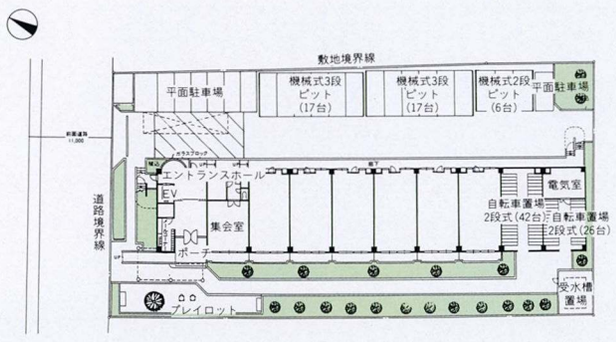
クラウンハイム伊丹

主要幹線道路から一本入った比較的落ちついた住環境に位置するのが「クラウンハイム伊丹」である。この建物は、大阪市東淀川区を本拠に活動する東昌グループが、「暮しの街・伊丹」をコンセプトに誕生させたものである。

昭和62年に「劇場都市宣言」を行った伊丹市には、数々の文化施設があり、文化活動も活発に行われている土地柄である。

建物は、長方形の敷地形状を活かし、バルコニーコーナーに丸みをもたせ、塔屋部分の突出が少ないリニアエレベーターを採用し、外装タイルは淡いニュートラルグレーとし、全体的にすっきりとした印象にまとめた。エントランスホールには、ガラスブロックを曲面に配し光を演出した。エレベーターホールは、ワンクッション屋内に控えた形をとり、自然と吹き曝しを避けることができる。

外構では、建物本体を中心に完全な歩車道分離を行い、歩道側は、アプローチからシンボルツリーを配したプレイロットと豊かな植樹道が、憩いの場を提供している。　(野村重彦／創美設計)



配置図・1階平面図　1:1000

所在地 ——— 伊丹市北野2丁目113番5
敷地面積 ——— 2,105.77㎡
建築面積 ——— 717.40㎡
延床面積 ——— 4,352.70㎡
構造規模 ——— RC、7F
工　　期 ——— 平成5年12月～平成6年8月
最寄駅 ——— 阪急・伊丹駅
撮　　影 ——— 島　修一

◀北側外観(全景)



東側エントランスホール外観



ポーチ・玄関廻り



西側植樹道

(仮設)武森工務店・(左官)海原工業・(断熱)日新・(金物)阪神金物・(吹付)大阪ユニロン・(内装)東レリビング・(バス)INAX・(キッチン)サンウェーブ工業・(立体駐車場)ナブコドアーエンジン・(電気)中央電気工業・(衛生)ヤナセ設備工業



外観　東面



外観　夕景

作品
作風

設計監理 ■
日建設計

施工 ■
金山工務店

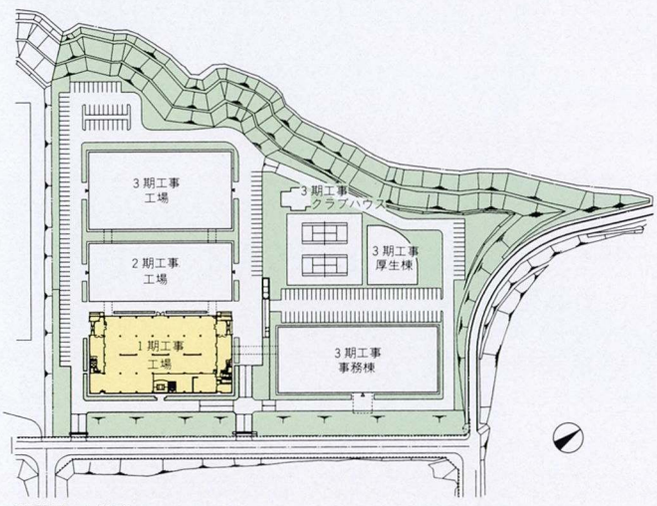
㈱パトライト三田工場

北摂三田テクノパークは、三田市西部の豊かな自然に恵まれた丘陵地にあり、近畿自動車道三田I,C.に隣接する新しい工業団地である。団地内の4.3haの敷地に、㈱パトライトの将来を担う新拠点として、この工場は建設された。今後も生産施設の拡張を中心として、配送センターや、本社機能をもつオフィスビル、研修・福利厚生施設が計画されている。

今回建設の工場は、間口75m奥行40mの建物で、1、2階 はSRC造、3、4階はS造とし、両端にコアを集約して、中央に柱を少なくした大空間を確保している。1階は、天井高を充分にとり、大型液晶製品の組立や大型成型機等が設置できる工場となっており、3、4階は、将来の技術進歩に伴う組立ラインの変化にもフレキシブルに対応できる機能的で明るい作業場を形成した。

外観は、先端産業としてのハイテックな企業イメージを表現するため、ミラーガラスのカーテンウォールとした。また、テクノパーク全体の景観に留意し、道路沿いにはメタセコイアの並木など、敷地内緑化に努め、周辺の自然環境との調和を図った。

(近藤　繁/日建設計)



配置図　1:4000

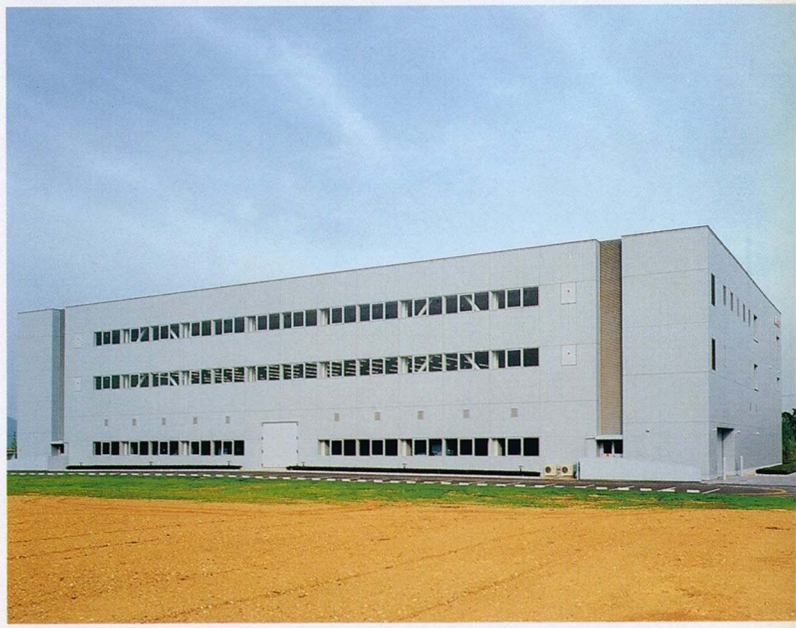
所 在 地 —— 兵庫県三田市テクノパーク19—2
敷地面積 —— 42,942.75㎡
建築面積 —— 3,152.97㎡
延床面積 —— 10,100.87㎡
構造規模 —— S、SRC、4F
工　　期 —— 1993年5月～1944年6月
最 寄 駅 —— JR福知山線・新三田駅
撮　　影 —— ミクニアートランド



エントランス廻り



組立室



外観　西面

gallery

時間の流れ
を感じさせる空間

設計
野井成正

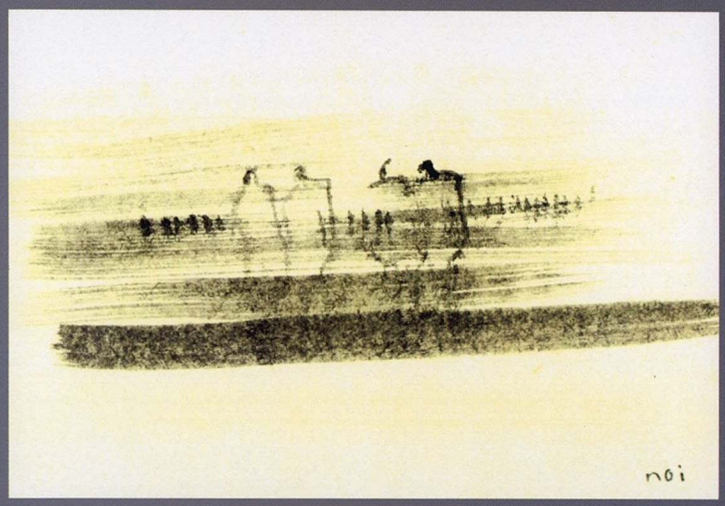
新しいテクスチャーを考え出すのは、大変だけれど、楽しい作業でもある。イメージを、現実化するために、あァでもない、こうでもない、と試行錯誤する。
「BAR.川名」では、寸角材を組み合せた、壁面パネルとオブジェを光で浮かび上がらせる。
寸角材に石膏を塗る。一部分は、半乾きの状態でふきとる。木の質感、マットな石膏の質感、塗りムラの質感との対比効果。
また、木のねじれや収縮から生まれるすき間や、そり、割れなどの面白さ。人の手仕事の跡や、時間の経過を、感じさせるように、柔らかく、アート感覚をもつ仕上がりをイメージして、作り上げた。
照明が入り、音楽が流れ、人が座ると、空気が動き出し、空間も変化して行く。時間の流れと共に、少しづつ表情を変えながら、動きつづけていく、味わいのある空間を、作って行きたい。

野井成正（のいしげまさ）
1944　大阪市に生まれる
1982　野井成正デザイン事務所設立
　　野井成正デザイン事務所代表

撮　影—山田誠良
企画編集—川上比奈子（作品作風小委員会）






noi



BOOK STATION
ブック・ステーション

都市居住の課題と展望
都市居住シンポジウム開催委員会編

•

学芸出版社
1993.11.30刊
A5判　288頁　2,987円



新建築｜日本現代建築家シリーズ⑯
池原義郎
新建築社 編

•

新建築社
1994.3.20刊
A4変判　236頁　3,800円



木造3階建パーフェクトマニュアル
1戸建て・混構造・共同住宅
建築知識 編

•

建築知識
1994.4.10刊
A4判　288頁　3,500円



学芸和風建築叢書別巻
唐長の京からかみ
和風建築社 企画・編集

•

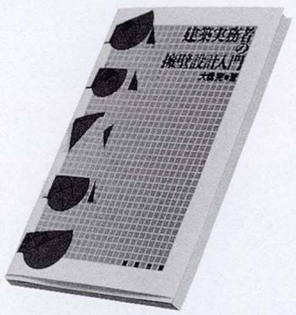
学芸出版社
1994.4.10刊
A4W判　304頁　22,660円



建築実務者の擁壁設計入門
大橋 完 著

•

建築技術
1994.4.15刊
A5判　168頁　2,800円



建設業経営マニュアル
荒木睦彦著

•

学芸出版社
1994.5.10刊
B5判　152頁　3,399円



コンクリート再発見
養生法の徹底研究
満尾浩治著

•

技報堂出版
1994.7.1刊
B6判　176頁　1,854円



新・建築構造問題快答集 1
Question & Answer plus KEYWORD
石黒徳衛監修

•

建築技術
1994.7.15
A5判　281頁　3,800円



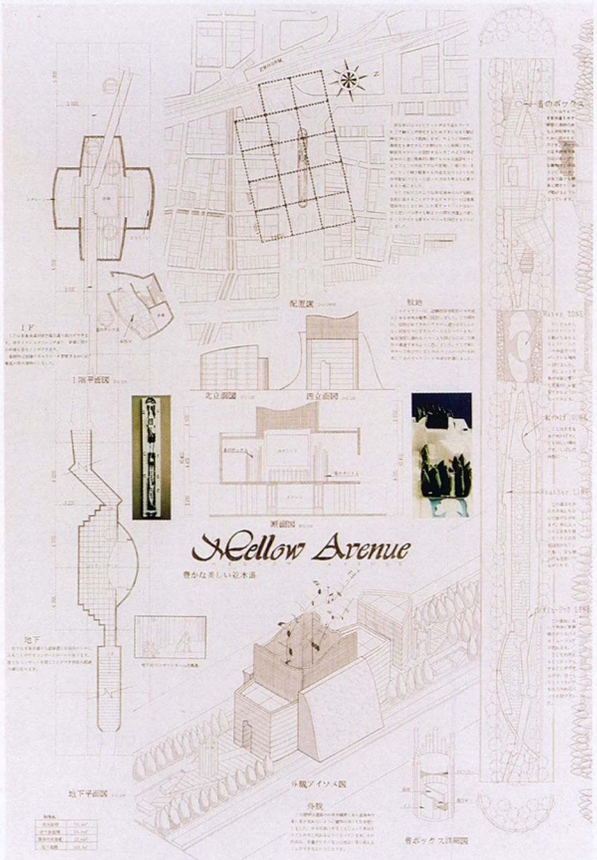
第40回 工高生デザインコンクール

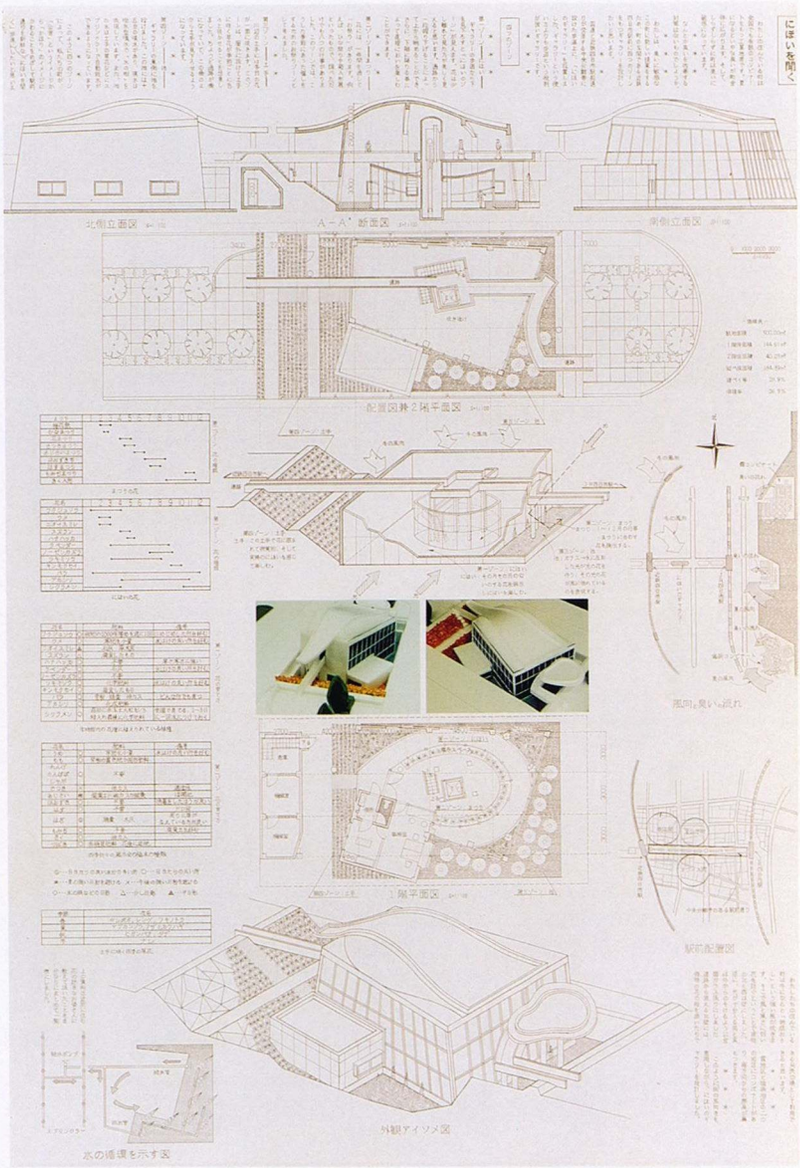
設計課題／駅前広場に建つ 市民ギャラリー

応募校数●23校　応募作品数●158点
締切日●平成6年9月30日　審査会●平成6年10月29日　表彰式●平成6年11月26日

入選・最優秀賞　三輪達也(三重県立四日市工業高等学校2年)▷

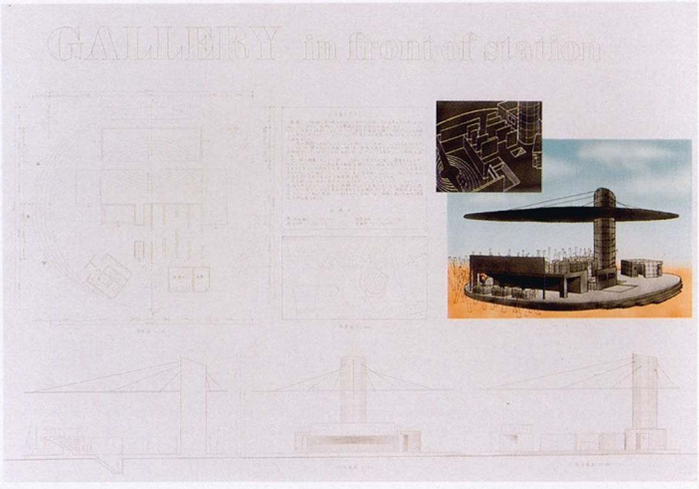
僕たちの住む四日市は、全国有数のコンビナートをもつ工業地域です。夏になるといやな臭いが町全体に広がるため、知らないうちに町は臭いに敏感になっています。そこで僕は、町の玄関である四日市駅前通りを「にほいを聞く」歩道にしたいと、「にほいのギャラリー」を考えました。このギャラリーは、「にほい」「祭」「土手」「池」のゾーンに分かれており、視覚的なものや、かほりを楽しむとともに、町のイメージが「公害」から「かほり」にかわることを目指しています。
入選の通知を受けたとき、「夏休みを返上して頑張った作品が認められたんだ」と思い、すごくうれしかったです。





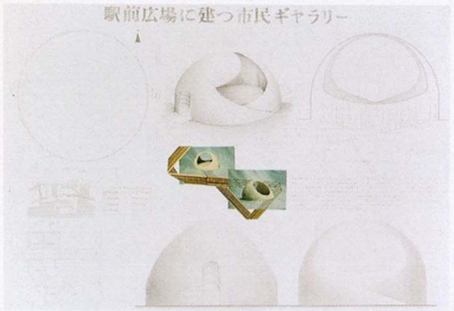
入選・優秀賞　原さとこ　(三重県立四日市工業高等学校2年)

駅への通り道にあるギャラリーなら、毎日利用してもらえると思い、「近鉄四日市駅」の駅前の中央分離帯が最適だと考えました。しかし、絵や美術品などでは急いでいると素通りされてしまうので、音で芸術に触れることのできるギャラリーと音楽歩道を設けようと思い、制作にあたりました。
ギャラリーは市民の発表の場なので、このギャラリーには発表の場として地下にコンサートホールを設けました。
夏休みに作品の制作に取り組んだので、一番充実した夏休みになりました。



入選・優秀賞　内田剛之　(大阪市立工芸高等学校3年)

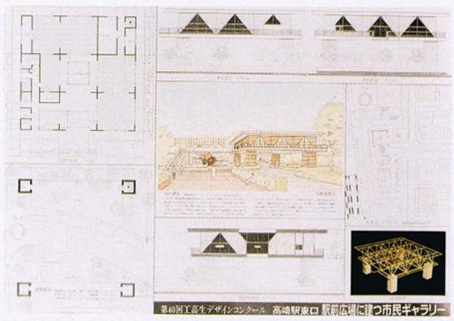
以前から、駅前や街角のギャラリーには、学生や子どもが絵を見たり、ちょっとした休憩に立ち寄ることができない雰囲気があり、とても市民ギャラリーとは呼べないようなものばかりだと思っていました。
そこで、今回の設計では、気軽に立ち寄れるということを最大のコンセプトに、公園のようなギャラリーにしました。
今まで何度かコンペに挑戦したのですが、初めて入選し、とてもうれしかったです。



入選・優秀賞　古賀達也

(大阪市立工芸高等学校３年)

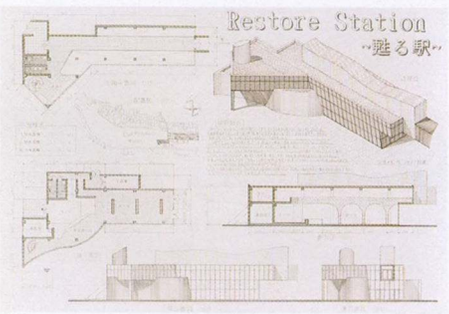
このギャラリーを制作するにあたり、建築物が街の目印となり、駅から出ると誰もが一度は目をむける、そんなイメージで設計しました。
待ち合わせや雨宿りの場所として誰もが利用し、絵などの展示物を楽しんでくれる、そんなギャラリーがあれば駅前広場もうまく利用できると思います。
初めての出品で入選したことに、驚きとうれしさでいっぱいです。これからも、積極的にコンペに出品したいと思います。



入選　加部寿実代

(群馬県立高崎工業高等学校・定時制３年)

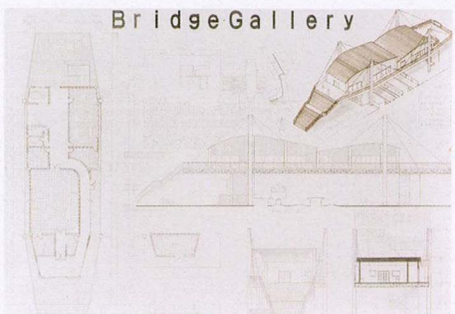
私が一番利用する回数が多い高崎駅にあって欲しいなと考えて制作しました。この駅前には空地があまりないので、空間を利用した市民ギャラリーを考えました。最初に先生に聞いた時にはまだ信じられず、学校で「おめでとう」といわれて、やっと入選したんだなあと実感するくらいでした。



入選　井口奈緒美

(群馬県立前橋工業高等学校３年)

北陸新幹線が生まれると、信越本線の横川駅と軽井沢駅は廃止され、横川駅が終点となり、今まで活躍してきた電車の居場所がなくなってしまいます。この横川駅に賑わいを取り戻したい、また人々の思い出の中だけでしか生きていけなくなる電車を、これからの未来の中で色鮮やかに生かしたい、そして碓井峠にあるめがね橋やアプト式鉄道を多くの人々に知ってもらいたい、そんな思いをこめて「Restore Station~甦る駅~」と名づけ、設計しました。
高校生活最後に入選できてとてもうれしいです。



入選　遠藤聡子

(群馬県立前橋工業高等学校３年)

この駅の改札口は南側にしかなく、北側から来る人は少し離れた地下道か踏切を使わなければなりませんが、近い将来に北側は学園都市となるので、「もし駅のすぐそばに歩道橋でもあったら」と思いました。
また、この駅は敷地が狭くて、ギャラリーを建てる場所がないので、線路の上に橋を架けその上にギャラリーを建てようと思い、このブリッジギャラリーを設計しました。ここで学生と地域の人々が交流できるように、ブリッジに広場もつくりました。
時間が足らず、納得できるまで書き込めなかったので、入選できるとは思いもしませんでした。

課題の趣旨

余暇時間の増加にともなって、余暇の過ごしかたは、健康管理を考えたスポーツや趣味をいかした絵画・彫刻・手芸などさまざまである。
特に文化的な活動を行う人々にとって、制作だけでなく、手軽に作品を発表したり、鑑賞できる場があれば活動にも一層熱が入り、ひいては地域の文化活動にも貢献することにもなるだろう。
本課題では、そのような作品の制作にはげむ人々に発表の場を提供するとともに、車と乗客の通行の場と化している駅前広場にゆとりをとりもどし、地域住民や旅行者などが気軽に立ち寄り、交流することができるようなスペースの提案を期待している。

設計条件

1.敷　　地：実際にある駅前広場を設定する。ただし、自由に想定してもよい。
2.規　　模：延べ面積400㎡程度。階数・構造は自由とする。
3.所 要 室：作品の展示スペース・事務室・倉庫・便所などは適宜設ける。
4.配置計画：駅舎との関係を示し、植栽や道路などの計画を行う。
5.そ の 他：課題の趣旨に沿って、新しい提案のためのスペースを適宜考えてもよい。

審査総評　審査委員長　川道麟太郎

意欲的で水準の高い作品が多く寄せられたコンクールであったと思います。最初の審査で22作品を選んだのですが、それらはいずれも、欠陥がないとは言えないものの、魅力のある作品ばかりでした。工高に入ってまだ２年前後の生徒諸君にこれだけの作品ができるのかと思うと、新鮮な驚きであり、感服をし、また指導をされている先生方に敬服の念を抱きました。
建築作品の評価というものは、人間の評価に似て一筋縄でいくものではありません。評価の要因や基準といったものが多様であり、また評者の立場や視点といったものも関係してきます。入選を逸した人も、落ちたからといって必ずしも落胆する必要はありません。しかし、謙虚な気持ちになって人の意見を聞き、自ら反省してみることは大切です。そうすれば、また、力も出てきてやる気も出てきます。入選を果たした人は率直に喜び、さらに夢を持って精進していってもらいたいものです。
最優秀賞の三輪くん、優秀賞の原さん、入選の萩原さんはいずれも近鉄四日市駅を取り上げ、それぞれに、臭い、音、光をテーマとして連作とでもいえる作品をつくっています。
結果的には、入賞の仕方で順位がついてしまいましたが、いずれも優れた作品であり、順位を気にする必要はありません。ただ、総合的な判断やマイナス点などを考えると、駅の公共性という観点から、老人や身体障害者への配慮が必要であり、配慮のないものはやはり欠陥として判定されます。選からはずれましたが、上記の３人と同じ学校の中島さんの作品も優れた作品でした。入選した加部さんの作品は、しっかりとした提案を持つ優れた作品でした。大木君は、連続した鳥居をイメージして、軽やかな骨組みを架け、その中に優しい曲線状の壁を持つギャラリーを配すという、なかなかセンスにあふれた作品を作り上げています。
なお今回、優秀賞が募集要項にある２点以内を越えて３点になったことについては、内田君と古賀君の作品が最後まで審査員の同票を獲得し、かつ共にアイデアに富み個性的で優劣つけがたいと判断されたためで、最終的に主催者側の了承を得て決定しました。最後に、審査員のみなさんには長時間にわたって、熱意と識見に富んだ審査をしていただいたことをつけ加えておきます。

●審査記録

9月30日　応募作品受理
10月11日　予備審査：応募作品について募集規定の点検（工高生教育小委）
規定不適合事項または記入もれのある作品　131/158点。
10月28日　事前審査：審査会欠席の審査員1名による。
10月29日　審査会　：審査員11名（審査時間　14:00〜18:50）
募集規定不適合事項にあるものも含め、全応募作品について投票討議、意見交換によって審査を進める。

●審査経過

審査を開始するにあたり、予備審査の報告があり、応募条件を大きく逸脱した作品がないことから、審査方法・条件の内容を確認の上、審査に入る。

■1次（審査員11名、事前審査1名）
全応募作品について審査員1名が10点を選び、投票する。
当日欠席の3審査員のうち事前審査終了の審査員1名の投票（9点）も加える。（審査時間　14:00〜16:00）

得　票	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	1	1	1	1	0	1	2	3	2	4	9	5	128

※2次審査に当る作品について議論。その結果、得票3以上の16作品及び審査員が強く推す得票2の作品5点と得票1の作品1点、合計22作品を2次審査に付すこととする。

■2次（審査員11名）
審査方法を議論の上、22作品について審査員1名が10作品を選び投票する。
（審査時間　16:00〜17:00）

得　票	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
作品数	2	1	2	0	1	5	2	0	1	3	4	1

※得票5以上の13作品を2次審査通過とし、1〜3得票の作品について議論。
その結果、得票3の1作品を3次審査に付すこととする。

■3次（審査員11名）
2次審査で11得票（満票）の2作品を入選とし、残る12作品について議論。入選外とする4点を投票することとする。
（審査時間　17:00〜18:00）

得　票	8	5	4	3	2	0
作品数	3	1	2	1	2	3

※選外とされなかった3作品を入選とする。また、得票8の3作品を選外とする。残る6作品を4次審査に付すこととする。

■4次（審査員11名）
（18:00〜18:10）
6作品より選外とする1点を投票する。

得　票	5	2	1
作品数	1	2	2

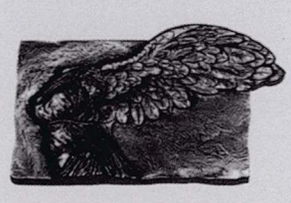
※得票5の1作品を選外とし、入賞10作品が決定した。

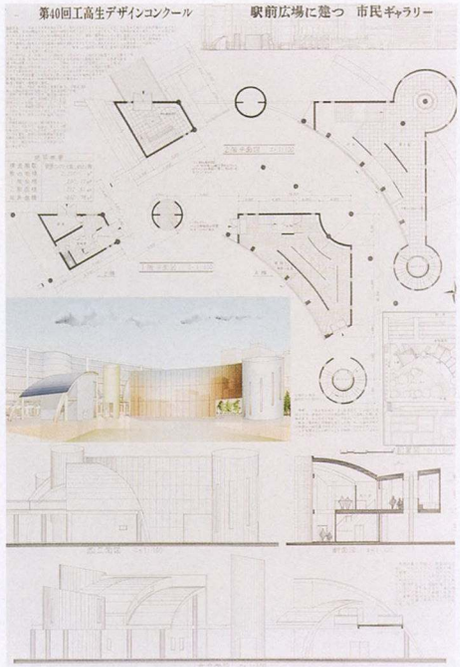
■5次（審査員11名）
入選案10点を論議。最優秀1点、優秀2点を選ぶため、3点を投票し、最優秀案に◯をつけることとする。

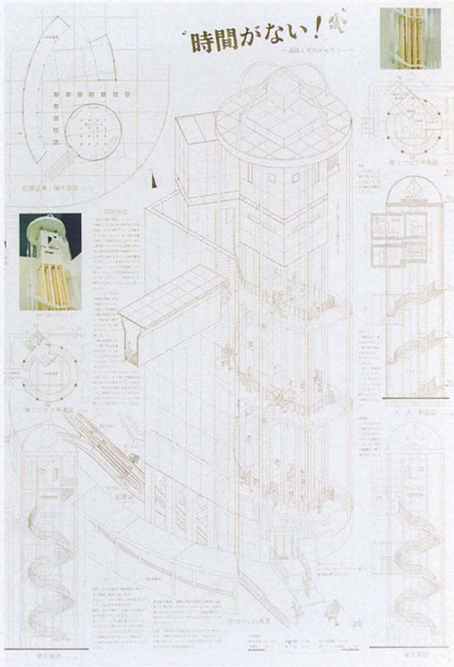
得　票	9	7	5	4	3	◯印を得た数	6	2	1
作品数	1	1	2	1	1	作品数		1	2	1

※最優秀1点、優秀1点を決定。残り優秀作1点を5得票を得た2作品のうちより選ぶについて議論。今回は審査員の強い要望にて優秀作を3点とすることとなり、審査会を終了する。

入選賞牌
賞牌の原案は、サモトラケで発見された「ニケの像」をモチーフとしたものです。







入選　須田朋美・松本進（共同制作）

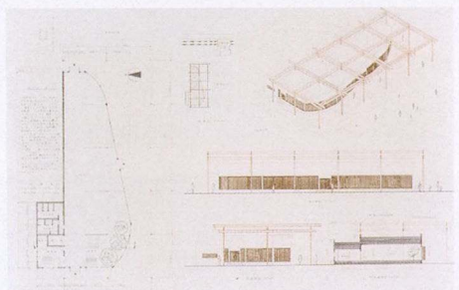
（群馬県立高崎工業高等学校2年・3年）

現代を忙しく生きる多くの人々に、もう少し余裕のある生活をしてもらいたいと考えるとともに、ゆとりを過ごす人々をどう集めるかというのが、このテーマを決定した要因です。
通勤、通学の道路に沿って建物内部に道路を設け、2棟の建物をシンボルタワーで結び、そこを待ち合わせ場所とする。そのシンボルタワーは、街の自然を大切にをスローガンに、緑の樹をモチーフとしました。
夏休み前からの調査、休み中の登校、仕上げ時の忙しさ等を思い出すと胸が熱くなりました。私たちの思い通りの図面が完成でき、すばらしい結果をいただき、先生方に心より感謝したいと思います。

入選　萩原幸子

（三重県立四日市工業高等学校3年）

朝の忙しい時間帯に、四日市駅を走って降りる会社員や学生が、たった一つの作品でも目に止めることができたなら、その人にとって小さなゆとりとなるだろうと思います。走り降りる階段の内側に設けた立体ギャラリーが、市民の彫刻や立体を発表する場として、時間がない人に少しでも関心を引いてもらえることを想像して、この円筒ギャラリーを設計しました。
この作品は、同じ学校の他の二人と、3つの関連性のある「光と音と香のギャラリー」として考えていました。三人とも入選でき、とてもうれしく思っています。



入選　大木武信

（横浜市立鶴見工業高等学校3年）

源頼朝が幕府を開いた鎌倉には、数多くの神社仏閣が残されており、現在も関東人の心の拠り所として愛されています。その中の銭洗弁天には、金運向上や商売繁盛の効能があり、多くの人々に親しまれています。
この銭洗弁天を象徴するものが連なった鳥居で、これを表現することによって鎌倉らしいギャラリーを設けられるのではないかと思い制作しました。
入選するとは夢にも思っていなかったので、入選できて本当にうれしかったです。

所要図面

1.配　置　図：縮尺自由（駅舎や駅前広場との関係を示す）
2.1階平面図：縮尺1:100
3.各階平面図：縮尺1:100
4.立　面　図：縮尺1:100（2面以上）
5.断　面　図：縮尺1:100（1面以上）
6.透　視　図：設計意図を表すところ。着色自由。模型写真に替えてもよい。
7.設計説明：設計趣旨（立地についての説明を含む）および建築概要（敷地面積、建築物の構造・階数および床面積など）を示す。
8.そ　の　他：平面図・断面図には室名・主要寸法を記入する。その他必要と思われる図面を描いてもよい。

上記入選者の感想文は、紙面の関係上、委員会にて要約の上掲載しました。（文責・植松清志／教育委員会）

審査員（50音順・敬称略）

委員長
川道麟太郎／関西大学工学部建築学科教授

委　員
大西　　晃／㈱昭和設計企画設計部部長
奥　　俊信／大阪大学工学部建築工学科助教授
菅家　克子／あるくネットワーキング　菅家設計室
北浦かほる／大阪市立大学生活学科部生活環境学科助教授
小島　　孜／㈱ヘキサ
田中　直人／神戸芸術工科大学芸術工学部環境デザイン学科助教授
遠松　展弘／㈱日建設計第1設計事務所設計部長
浜崎　　彰／清水建設㈱設計本部大阪支店設計部部長グループ長
平尾　和洋／京都大学工学部建築学教室助手
本多　友常／㈱竹中工務店大阪本店設計部設計課長
松本　博俊／㈱東畑建築事務所設計部設計部長
三谷　幸司／㈱大林組本店建築設計第3部部長
森田　芳次／㈱安井建築設計事務所設計部副部長
山下　　弘／㈱坂倉建築研究所大阪事務所取締役



2440

2440 福岡シティ銀行薬院寮

設　計：長谷エコーポレーション大阪エンジニアリング事業部
施　工：清水建設
a．福岡県福岡市中央区平尾1-1-5
b．1,807㎡
c．1,106㎡
d．6,754㎡
e．SRC、9F、P1
f．平成４年12月～平成５年12月

福岡市の都市部に建つ独身寮である。外観はシンメトリーと各部のプロポーションを大切にした上で、アースカラーのタイルとグリーンのアクセントラインにより安らぎと落ち着きのあるデザインとした。又、内部には１フロア一毎に吹抜を持つアトリウムを中央部に設置し、寮生のリビングルームとして機能させることで、建物全体が１つの住宅として感じられることを意図している。

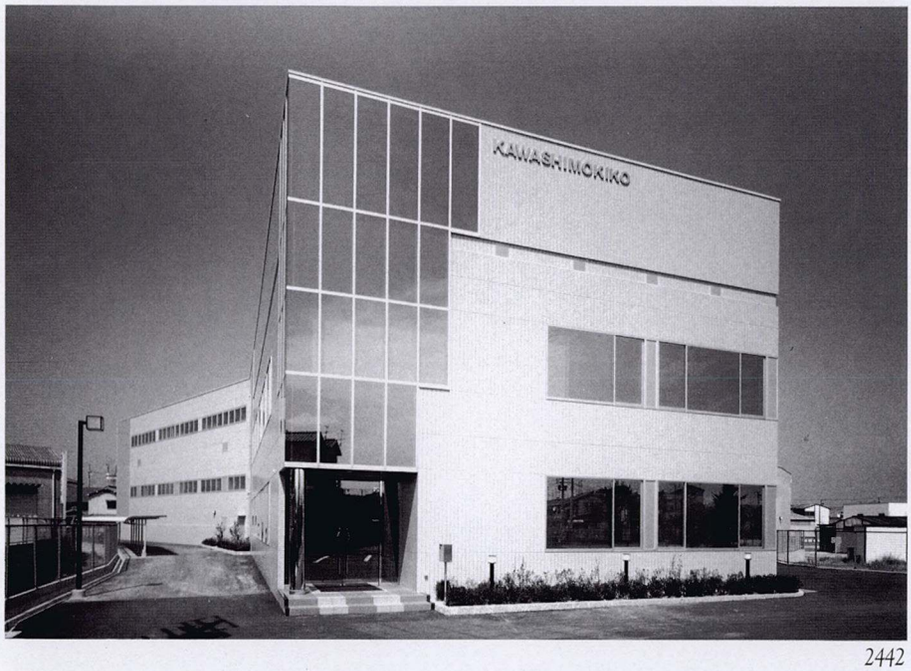


2441

2441 フォードエレクトロニクス開発センター
FORD ELECTRONICS DEVELOPMENT CENTER

設　計：竹中工務店
施　工：竹中工務店
a．東広島市西条町大字御薗宇
b．10,372㎡
c．　1,434㎡
d．　2,237㎡
e．S、2F
f．平成５年４月～平成５年10月

フォードの自動車用電子部品とシステムの研究開発施設である。軸線設定による明解なゾーニングで研究棟・実験棟を配置した。〝ハイタッチな質感と、のびやかな空間〟をテーマとし、外観はシャープな形態をフラットな素材と落ち着いた色彩でまとめ、企業イメージを表現した。内部は機能的な実験室と、明るく開放的な事務空間により、研究開発にふさわしい環境づくりをめざした。



2442

2442 川下機工新社屋

設　計：創美設計
施　工：小原建設大阪支店
a．大阪府寝屋川市点野３丁目620,624,635-7
b．3,579.34㎡
c．1,899.91㎡
d．3,665.28㎡
e．S、2F
f．平成５年９月～平成６年３月

自動車精密部品の製造を行う本工場は中小企業が点在する地域にある。外観にグレーを基調としたタイルと反射ガラスを、ポイントに黄色を配し、周辺建物より際立たせる様意図した。欧州などからの工場見学者も多数あり、将来を見極めた製造部門と管理部門との融合性を計り、人間主体の労働空間を確保する様努めた。本建物が周辺地域の刺激になり、快適な工場が増えることを期待するものである。



2443



2444

2443 豊中市営服部西住宅

設　計：豊中市・小西設計
施　工：服部建設
a．豊中市服部西町4-5
b．2,132.19㎡
c．　817.248㎡
d．3,439.607㎡
e．RC、6F
f．平成5年4月～平成6年3月

2444 出光興産㈱北海道製油所プロダクションセンター

設　計：奥村組一級建築士事務所
施　工：奥村・大成・大日本土木JV
a．北海道苫小牧市真砂町25-1
b．931,659.0㎡
c．　1,767.06㎡
d．　3,423.21㎡
e．RC、2F、P1
f．平成5年3月～平成6年3月



2445



2446

2445 キリンビール四国支社「グレイス屋島」

設　計：小西設計(監修：キリンエンジニアリング)
施　工：五洋建設四国支店
a．高松市屋島西町1743-1
b．1,022.97㎡
c．　342.45㎡
d．　852.58㎡
e．RC、3F
f．平成5年6月～平成6年2月

2446 文芸セミナリヨ新築工事

設　計：田中綜合設計
施　工：西松建設関西支店
a．滋賀県蒲生郡安土町大字桑実寺地先
b．63,100㎡
c．　1,844.79㎡
d．　1,938.21㎡
e．SRC、RC、S、2F
f．平成4年9月～平成6年1月



2447



2448

2447 日本新薬株式会社・西部創薬研究所2号館

設　計：大林組
施　工：大林組
a．京都市南区吉祥院西ノ庄門口町14番地
b．17,104.01㎡
c．　1,185.40㎡
d．　6,595.53㎡
e．RC、5F、B1、P2
f．平成4年12月～平成5年3月

2448 泉北パンジョ事務棟

設　計：タック一級建築士事務所
施　工：竹中工務店
a．大阪府堺市茶山台1丁2-4
b．13,631.59㎡
c．　271.75㎡
d．　1,108.03㎡
e．S、4F
f．平成5年7月～平成6年4月



2449



2450

2449 三菱重工業㈱神戸造船所高丸寮F棟

設　計：(基本設計)近畿菱重興産
　　(実施設計)大林組神戸支店
施　工：大林・西松・飛島・五洋・不動・近畿菱興JV
a．神戸市垂水区高丸6丁目2245-120
b．13,984.39㎡
c．　1,764.83㎡
d．10,875.00㎡
e．RC、10F、P1
f．平成4年12月～平成6年2月

2450 松下電子工業㈱砺波工場

設　計：大林組
施　工：松下砺波JV(大林組・佐藤工業・大成建設・熊谷組)
a．富山県砺波市東開発271
b．228,446.29㎡
c．　8,210.24㎡
d．16,744.13㎡
e．RC、一部S
f．平成5年6月～平成6年9月

凡例

a．所在地

b．敷地面積

c．建築面積

d．延床面積

e．構造規模

f．工期

GBRC ニュース
GENERAL BUILDING RESEARCH CORPORATION OF JAPAN

財団法人 日本建築総合試験所
〒565 吹田市藤白台5-8-1
TEL.06-872-0391　FAX.06-872-0784
業務時間 9:00～17:15(土曜休業)

試験紹介

擁壁用透水マットの性能試験 —— 土質・基礎部門 ——

擁壁の設計にあたっては、擁壁の背面に排水層を設け、また擁壁には水抜き孔を設けることを前提として、背面土圧には水圧を考慮しないのが一般的である。従来、排水層の材料としては砕石などが用いられてきたが、最近ではこれにかわる材料として石油系の素材で作られた透水マットが使用されるようになってきた。このような状況の中で、建設省建設経済局民間宅地指導室の監修により「擁壁用透水マット技術マニュアル」[1]が出され、建築基準法、宅地造成等規制法、都市計画法に関わる擁壁に使われる透水マットについての基準が示された。使用条件としては、高さ5m以下の鉄筋コンクリート造または無筋コンクリート造擁壁に限り使用できること、凍結、凍上の恐れがある地域では使用できないことなどが示されている。また、擁壁用透水マットに要求される排水性能、力学特性、化学的特性について、その基準値および試験方法が示されている(表－1参照)。

当所では、これらの試験のうち排水性能および力学特性に関する試験を実施した。ここでは、これらのうち土と接した状態での排水性能に関する試験結果をご紹介する。

図－1には、排水試験の概念図を示した。また、図－2には、排水量の経時変化をしめした。排水量は、試験開始後5日ほどでピークを示し、以後漸減する傾向にあるが、4～6日のサイクルで目詰まり→抜けるという挙動が認められた。

図－3には、複合透水試験の概念図を示した。また、図－4には、複合透水能力を表す係数K_{S15}の経時変化を示した。K_{S15}は、透水マット、砕石いずれの場合も時間とともに漸減し、最終的には初期の値の1%以下まで低下したが、両者に有意差は認められなかった。

なお、試験に関するお問い合わせは、土質・基礎部門　下平祐司、一井英樹までお願い致します。

参考文献

1）建築研究振興協会：擁壁用透水マット技術マニュアル、1991.3

表－1－擁壁用透水マットに要求される性能

試験項目		要求される性能
排水性能	面に垂直方向の透水性能試験	透水性能を表す係数$>1\times10^{-2}$cm/secかつ>(裏込め土の透水係数の5倍)
	面内方向の透水性能試験	動水勾配1のときの透水量>15cm³/sec/cm
	排水試験	砂利または砕石と同等以上の排水性能
	複合透水試験	砂利または砕石と同等以上の排水性能
力学特性	圧縮クリープ試験	急激な圧縮変形およびクリープによる有害な変形を生じないこと
	土、コンクリートの摩擦特性試験	摩擦角≧土の内部摩擦角の½
耐久性	耐酸性、耐アルカリ性試験	引張強度および引裂強度の低下が30%以下
	耐微生物性試験	かび抵抗性が「2」以上かつ引張強度の低下が30%以下

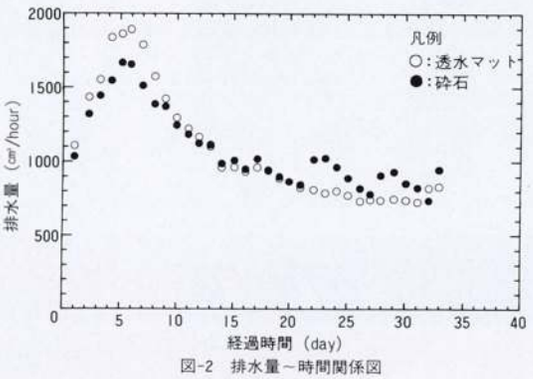


図-2　排水量～時間関係図

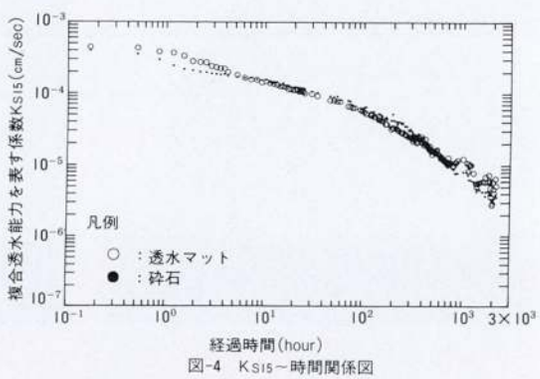


図-4　K_{S15}～時間関係図

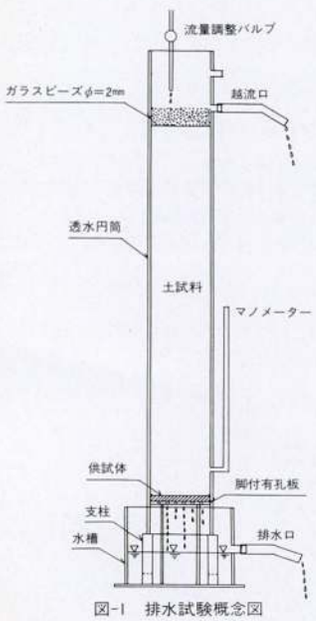


図-1　排水試験概念図

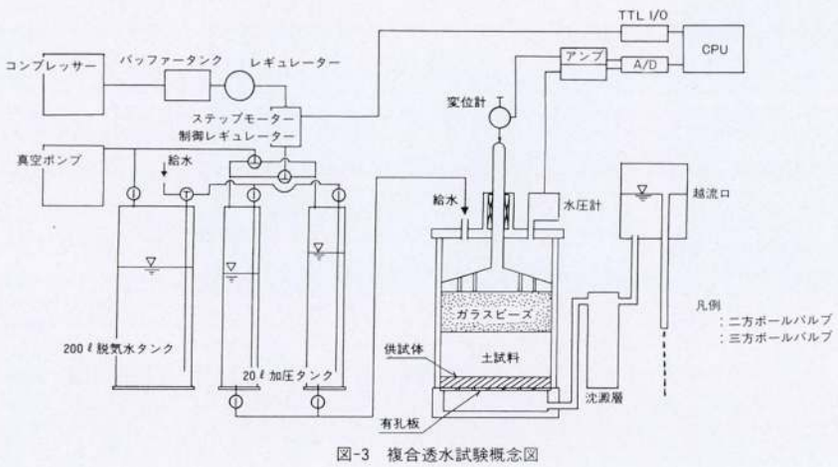


図-3　複合透水試験概念図

編集委員会法令分科会

297 高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる建築物の建築の促進に関する法律

超高齢化社会を目前に控え、高齢者が社会を構成する一員として自立し、また、障害者が社会、経済、文化その他あらゆる分野の活動に積極的に参加ができるよう、地方公共団体の条例等によって、建築物や、都市施設の整備の推進が図られつつあるが、1994年6月29日に「高齢者、身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の建築の促進に関する法律(ハートビル法)」が制定され、昨年9月28日から施行されている。

建築主に福祉対策の努力義務を課すとともに、高水準の整備がなされた建築物には助成を行い、長期的な視点に立って、人に優しい建築物のストックを図ろうとするものである。

本法の目的

誰もが老いを迎え、障害をもつ可能性を有するという考え方に立てば、高齢者、障害者への配慮は当然の措置として構じられる必要がある。建築物は生活の基本的で中心的な場である。経済活動中心、成人中心といった効率優先の考え方から、すべての人が共生する場の創出という考え方への転換が必要であり、本法では高齢者、障害者等が円滑に利用できる建築物の促進のための措置を規定し、積極的な施策の推進を図ることとしている。

特定建築主の努力義務と判断基準

病院、劇場、集会場、百貨店等の不特定多数の者が利用する建築物(特定建築物)を建築しようとする建築主(特定建築主)は、出入口、廊下、階段、昇降機、便所その他の施設(特定施設)を高齢者や障害者が円滑に利用できる措置を講ずるよう努めなければならないこととされた。

この努力義務を促すべく、高齢者、障害者等に配慮した建築物の構造、設備等の仕様のイメージを建築主や建築士に明らかにするため、建設省告示で具体的な技術基準が示された。高齢者、障害者の利用を阻む障壁を除去する水準を示す「基礎的基準」と、社会全体が目指すべき高齢者、障害者が特段の不自由なく利用できる水準を示す「誘導的基準」の2種類の基準を定めている。

都道府県知事による指導、助言等

都道府県知事は特定建築主に対して、判断基準を勘案して必要な指導、助言、指示をすることができることになっている。これは建築主の自主的対応に委ねたのでは、高齢者や障害者が円滑に利用できる措置が速やかに広範に行われることが見込めない状況にあるため、最低限「基礎的基準」の充足に向けた努力を促すこととしたものである。

延べ面積2,000m²以上のものは、設計の自由度も高く、より多くの者が利用し公益的側面が強いため、基礎的基準より著しく不十分な場合には、指示を活用して実効を上げることとしている。この指示のために、必要な場合には、都道府県知事は特定建築主に対し、当該建築物の設計および施工に係る事項について報告を求め、また、立入検査ができることになっている。報告を怠ったり、虚偽の報告を行った場合、また、立入検査を拒んだ場合は罰則を課し得ることとなっている。

優良な建築物の認定等

特定建築主は特定建築物の建築および維持保全の計画について、施行規則に定める申請書に添付図書を添えて都道府県知事に認定を申請し、知事は当該計画が判断基準(誘導的基準)に適合していると認められるときは認定できるとされている。

また、計画の認定申請と建築確認申請を併せて行えるように手続きの簡素化が図られており、建築主から申し出がされた場合は、都道府県知事は建築主事あて建築計画を通知し、建築主事から適合通知を受け、知事が計画の認定を行った場合には、建築確認があったものとみなされる。

「誘導的基準」は社会全体で目指すべき高い水準を示すものであり、本基準を充足するために必要な工事費増や床面積増に対し、可能な支援措置を行うこととしている。

計画変更および認定の取り消し等

計画の認定を受けた者が、計画の変更を行おうとする場合は、軽微なものを除き、都道府県知事の認定を受けなければならない。知事は、認定を行った計画の建築および維持保全の状況について報告を求めることができ、認定を受けた計画に従って建築または維持保全を行っていないと認めるときは、改善命令を発することができる。

改善命令に応じない場合は、計画の認定が取り消されることがある。

認定建築物に対する支援措置

認定建築物を増やしていくため、国および地方公共団体の支援措置について努力義務が規定されているが、平成6年度の支援措置は下記のとおり。

(1) 補助制度　認定建築物のうち、美術館、文化ホール等の公益的施設を含むものについて、その公益的施設にいたる移動システムおよび移動システムと一体的に整備されるパブリックスペースの整備に要する費用の3分の2を、国と地方公共団体が負担するものである。ただし、補助制度の対象となる区域に制限がある。(近畿圏整備法に規定する既成都市区域、近郊整備区域または都市開発区域、人口5万人以上の市の区域、厚生省事業の実施市町村の区域等)

(2) 融資制度　高齢者、障害者等に配慮した人に優しい建築物の建築を促進するため、日本開発銀行、北海道東北開発公庫等による長期低利の融資制度として、「人に優しい建築物整備促進事業」が平成4年度より設けられている。

認定建築物については、貸付金利(特利④)の有利な融資が受けられ、また、特定施設の整備費については、事業者が第三セクターの場合は無利子、民間の場合は特別金利の4分の3(3.5%が下限)のNTT-C融資が受けられる。

(3) 税制上の特例措置

①所得税、法人税の割増償却　認定建築物を新築した場合に、5年間当該認定建築物の通常の償却限度額に20%を加算する割増償却が認められる。

②事業所税の軽減　認定建築物の高齢者、障害者等が円滑に利用できる便所、廊下等の増床部分に係る新増設分の事業所税が非課税とされる。

建築基準法の特例

(1) 既存の特定建築物における車いす使用者用昇降機の特例　既存の建築物は生活環境の一部を構成し、絶対量が多く、そこでの高齢者、障害者の円滑な利用への配慮を進めていくことは極めて重要である。特に建築物の垂直方向の移動が困難であるが、低層の建築物はエレベーターが設置されていない場合が多く、建築基準法の防火関係規定をそのまま適用すると昇降機の設置がほとんど不可能となりかねない。そこで、既存の特定建築物に昇降機を設置しても構造耐力上安全であり、昇降機の出入口が自動的に閉鎖し、建築物の主要構造部が不燃材料で造られ、かつ、制御装置等の安全対策がとられたもので、特定行政庁が防火上および安全上支障がないと認めたときは、耐火構造要件を外すことができることとなった。

(2) 容積率の特例　高齢者や障害者の利用確保のため、廊下、階段、便所等の特定施設の床面積を通常よりも著しく大きくした建築物については、容積率の特例が設けられた。特定施設の床自体が建築物の主用途を構成する部分でなく、この床面積が建築物の利用者の増加を招き道路等公共施設負荷の増大や市街地環境の悪化につながるものではないため、容積率制限を一律に課すことが適当でない場合も想定される。このような建築物については、建築基準法第52条第6項第1号の機械室等を含む建築物とみなし、容積率割増しができることとした。なお、割増しは、特定行政庁の建築審査会の同意を得た上での許可の範囲内に限られる。

政令指定都市等への権限委任

この法律で都道府県知事の権限に属する事務は、政令指定都市の長および地方自治法に基づく中核市の長に権限が委譲される。(中核市は地方自治法の政令で指定されることとなっている)

乾　康雄　京都府土木建築部建築指導課係長

建築の眼

科学的パラダイムから美学的パラダイムへ！

私の手元にある切り抜きのタイトルである。アールフチュール・シンポジウム第２ステージ、フェリックス・ガタリ氏の基調講演の要約である。最近、20世紀とはいかなる時代であったのかと考えることが多い。ボスニア・ヘルツェゴビナの内戦はヨーロッパの〝国家〟と〝民族闘争〟の根深さを知らせる。ビアフラは、〝都市〟は商行為の輪廻の場でしかなく、〝人間の姿〟をしていないことを教えている。アジアの中流社会の広範な創出は、農村の世界的喪失を想像させる。都市は戻るべき場所を用意してはいない、漂流の地であること。経済行為の還流装置としての具現化された場所であること。私達の信じた約束の地に向かう手だてとしての〝都市像〟が色あせて行く。ローマが有する都市像は、記念碑的建築物を通じた進化と混沌の姿である。操作的な構成を都市に挿入した結果としてのサンピエトロ広場やカンピドリオ広場は、ミケランジェロの天才的な科学的・美学的パラダイムの微妙な解決である。又、ポポロ広場やスペイン階段、トレドの泉は単なる観光名所にとどまらず、美学的都市を体現している。故ガタリ氏の言葉に導かれつつ、21世紀における〝私達の約束の地〟を探ってみなければならない。

池上俊郎　京都市立芸術大学美術学部建築科助教授

趣味と建築 ——川柳——

人は必ずといっていいほど自分に向いている（と思っている）趣味を持っているものである。

一般に建築家のそれは多芸といわれ、イメージとすれば美術や音楽鑑賞といった芸術、文化的な雰囲気が漂ってくるのだが、ここではもっと人間的な、趣味について述べてみたい。

まず始めに「川柳」がある。

川柳は、５・７・５の17音字で、社会への「思い」や人情の「機微」や将来の「夢や願望」を表現する、世界一短い詩の形である。一見単純なようで、やってみると案外とこれが奥が深い。

川柳の要素は「穿ち」と「滑稽」と「軽み」であると言われているが、それ故に、より日本的な身近さと文化的深さがあって、実に魅力的な味のある文学となっている。

最近の建築には、どことなく人間的な身近さや、文化的深さといった、本来建築が持っていなければならない要素が見えにくく、単に斬新なだけのものが多くなっているような気がするが、多分、発注者も設計者も、急変する社会世相に追い立てられての結果であろうとは思うが、この辺で、遊び心に似たゆとりや、軽みに似たさりげなさを思い出すために、川柳の一つでも詠んでみてはいかがであろう。

社家　浩　兵庫県都市住宅部営繕課長

客に合わせて店を潰すくらいなら自分のやりたいことをやって潰す

豊中にレストランミチノというフランス料理の店があります。そのオーナーシェフの道野さんの言葉です。

最近２ヶ月に１度、歯科医でワイン研究家の新海さんが主催しているワイン会に参加しています。ワイン会は、大阪の有名レストランにて料理とワインの組み合わせを楽しむものです。いくつかの店を訪れておもしろいと思ったのは、シェフの個性です。その中でもちょっと変わっていて、いつもなるほどなあと思うのがこの道野さんの名言です。名言集ができるのではと思うぐらい一度訪れれば料理とともに楽しめます。我家の息子達も連れて行くこともあるのですが、彼の人生哲学にすっかり感動していました。

客に媚びるようになったら、すべての商売はつまらないものになってしまいます。客にここまでついて来いと言える、それだけの腕を自分自身磨かなければなりません。新海さんの言うには、道野さんの料理は、この２・３年ですばらしい料理が出る機会がとても多くなったそうです。

挑戦している人を見ていると、とてもうれしくなります。

塚口明洋　塚口明洋建築研究室代表取締役

京都の夜紅葉創り

昨年、京都は平安建都1200年で賑わった。その記念催事「高台寺・夢あかり－ライトスケープ」に私も参画する機会を得た。錦秋の高台寺境内の夜間拝観とともに、八坂地区に夜景を創ろうとする試みで、その照明計画を市民グループ（街の色研究会・京都）が担当したからである。

会の研究委員会で京都の夜景を調べた結果、夜の街の暗さとともに夜景の見所が無いとの指摘が多かった。それならばと、93年秋に夜桜ならぬ〝夜紅葉〟を京都らしい風情をもって提供できないかと、会から清水寺などに提案するとともに、高台寺庭園を実験的に照明させていただいたのである。そんなご縁で、昨秋は１月間にわたる催事に関わることになった。事前調査の折、京都市観光協会へ相談に伺った。『有名寺院であっても、照明だけでは人は動きませんよ』と指摘された。ところが、昨秋は銀閣寺や圓光寺なども加わり夜間拝観の競演を呈し、時には入寺制限まで行われる盛況を得た。昼とは異なった表情をもった寺院の新しい景観を多くの人々が楽しまれたのである。私たちのささやかな提起がそれを促進したであろうことに、密かな誇りを覚えている。

村上幸三郎　東芝ライテック株式会社研究所参与

特　集

光がつくる風合の世界



総論 I

日本建築における光と空間／中村昌生

総論 II

近代の光の起源／前田忠直

随筆「光への思い」

薄闇への思い／寺前浄因

現代照明考／土井　明

映画考・大阪の夕焼け／金　秀吉

光へ／絹巻　豊

光の記憶・光の体験／近田玲子

舞台照明はフィクション／木村嘉次

人と光と建物／梶井宏修

光の芸術／小勝敏克

事例　「光がつくる空間の風合」

住友製薬研修所／日建設計

TBS放送センター／日本設計

○邸／北島道生

千里朝日阪急ビル／竹中工務店

総括

光がつくる風合の世界／鈴木克彦

合同分科会編集委員（順不同）

鈴木克彦　小浦久子　石山道男　中村孝之　石川佳子　角方利幸　村上幸三郎　遠藤進　田ノ畑好幸

日本建築における光と空間

中村　昌生

採光の抑制

日本建築は、ほとんど深い軒の出に蔽われている。そして建物の軸部をその陰影が包みこむ。私たちは常に陰影のベールを透して建物を眺めるのである。堂塔の深くさし出された軒を支える強固な構造も隠されて、穏かな佇いをあらわす。接近するにつれ構造の力強さや部材の大きさが見る人に迫ってくる。光と陰の移ろいがまた建物にさまざまな表情を与えるのである。

住宅等ではしばしば庇や土間庇が付加されて、陰影の効果を一層深める。傘のような屋根に加えてさらに、庇の出や高低が建物に彫りの深い表情をつくり出すのである。こうして日本建築は光と影の複雑な影響から脱することの出来ない宿命をもっている。

屋根や庇は屋内への採光も抑制する。日本の家屋は昔から暗かった。民家のごときはほとんど壁で閉ざされ、必要な開口部が設けられる程度の閉鎖的な構造が基本であった。田園や海上で働く農民、漁民にとって暗い場所こそ休息に適していたことも事実である。奈良時代の貴族の邸宅の構造とされる法隆寺の伝法堂をみても、吹放しの部分は別として「室」に当る空間は薄暗かった。開放的な平安時代の貴族の寝殿造も、直接太陽光線を豊かに取り入れる構成ではなかった。奥行の深い町屋においては容易に光は奥へ届かない。ただでさえ「光線の這入りにくい座敷の外側へ、土庇を出したり縁側を附けたりして一層日光を遠のける。そして室内へは、庭からの反射が障子を透してほの明るく忍び込むようにする。われわれの座敷の美の要素は、この間接の鈍い光線に外ならない。」と谷崎潤一郎が述べている通りの生活空間である。

こうした採光の抑制は仏堂においても顕著である。出入口の扉を閉ざせば連子窓からの明かりだけである。祈りの空間にもこうしたほの暗さが必要であったらしい。仏像を直接照らし出すのではなく、柔らかく鈍い明かりの中に浮かび上がる仏を拝む方が神秘的である。密教仏堂の正堂は極めて閉鎖的である。礼堂との境も扉で閉ざしてしまうと堂内は暗黒である。そこで護摩が焚かれる。燃えさかる炎の明かりに秘仏が照らし出されて修法が白熱する。平素は拝むことのない秘仏に炎のなかで接すると異常な興奮を伴って秘法の極に導かれるときく。密教仏堂の場合は、このような修法のために必要な暗黒の空間であった。

しかしながら堂塔も、邸宅も、民家も、「明るさ」の度合いを特に計画的に吟味してきた訳ではなかった。建物の機能に応じてどの程度の明るさを保持すべきか、そのためにどのように開口部を設定するのが適当であるかといった検討は、ほとんどなかったと言ってよかろう。もしあったとしてもそれは至極曖昧な域を出ないものであったろう。

茶の湯と光

空間に精度の高い明るさを求め始めたのは茶人たちであった。茶人たちは、日常の空間とは別に、茶の湯という遊びに適した非日常の空間の創造を目ざした。茶の湯とは山中に庵を結ぶ聖や遁世者の境涯となった亭主が、客をもてなす遊びである。実際には亭主は山中に隠遁するのでなく、都市住居の中で庵を結ぶのであるから「市中ノ隠」と呼ばれた。飲食を伴う茶の湯のもてなしには、器物の取り合わせも馳走の一部であった。客はそういう亭主の多角的な心くばりに喜びを感じるのである。客にとっては茶の湯は器物（美術工芸品）の鑑賞の場でもあった。そうした茶の湯にふさわしい空間をつくり上げる上に、明るさの度合いが最も肝要であることを、武野紹鷗（1502～1555）が説いていた。

紹鷗は、明る過ぎると「道具が麁相」に見えてしまう。適切な仄暗さ、仄明るさを保持しなければならないと教えた。ところが当時の茶室は窓をもたなかった。そのために紹鷗は、南向は明る過ぎ、東西の光は変わりやすいので、北向が最上であるとした。すなわち出入口を北に向けることによって、その障子からの採光をよしとしたのである。このような配慮をした紹鷗の四畳半は、茶の世界を風靡しこぞってこれを手本とした。千利休もこの四畳半をながい間用いていた。しかし紹鷗の四畳半は唐物（舶来の名品）を使う茶の湯のための茶室であった。そのような茶の湯はやがて富者か権力者のものになってしまう。唐物に依存しないで、もっと心を砕いたもてなしを工夫する「侘び」の茶の湯を主流としなければならない、という決意を抱いていた千利休は、茶室の改革を試みた。

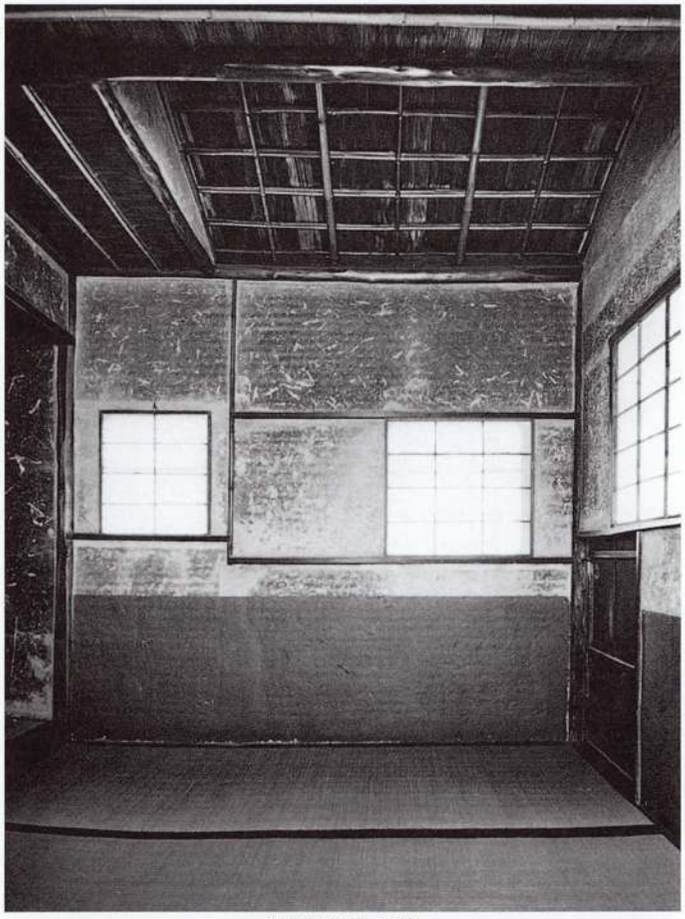
千利休による茶室づくりの確立

利休は茶室を土壁で囲い、壁に窓をあけた。窓の配置の工夫を通じて茶の湯に最適な明るさをつくり出すことを考えた。そしてその窓には下地窓を採用した。下地窓は壁を塗り残すことによって出来る窓で、塗らない窓の部分に下地が露出する形式である。ありふれたしかも原始的な手法であるが、これは壁面のどこにも、どんな大きさや形にもあけることが可能である。利休はそこに着目したのであった。この下地窓を壁面に配ることによって、あたかもスポットライトで照らすように光を導き入れることが出来る。これに枠を付

けた連子窓を併用することによって、自由に好ましいと思う茶の湯の明るさが得られるようになった。

しかも下地窓による光の導入は、室内の全体的な明るさだけでなく、明暗の分布、強弱濃淡までを自由に生み出すことが出来る。紹鷗の茶室とは比べようもなく、精度の高い明暗の世界をつくり出すことが可能になったのである。空間を充たす明るさを窓の配置によって微妙に調整する方法が、茶室において確立されたことは日本建築史の上で画期的なことであったと言わねばならない。

このような明かりの効果を確保するために、利休は出入口に躙口（にじりぐち）を工夫した。小さな口であれば板戸をたてても余り支障はない。最後の客が入席して板戸を閉じれば入口も壁となり、窓の効果だけが室内の明かりを支配する。それは明るさの問題だけではなく、窓の開閉による通風換気や、窓の配置がつくり出す室内の開放感や閉鎖性、さらには美的効果まで、空間に及ぼす影響は極めて大きい。このような複雑な機能をもつ窓は、日本建築の歴史のなかではじめて登場したものであった。

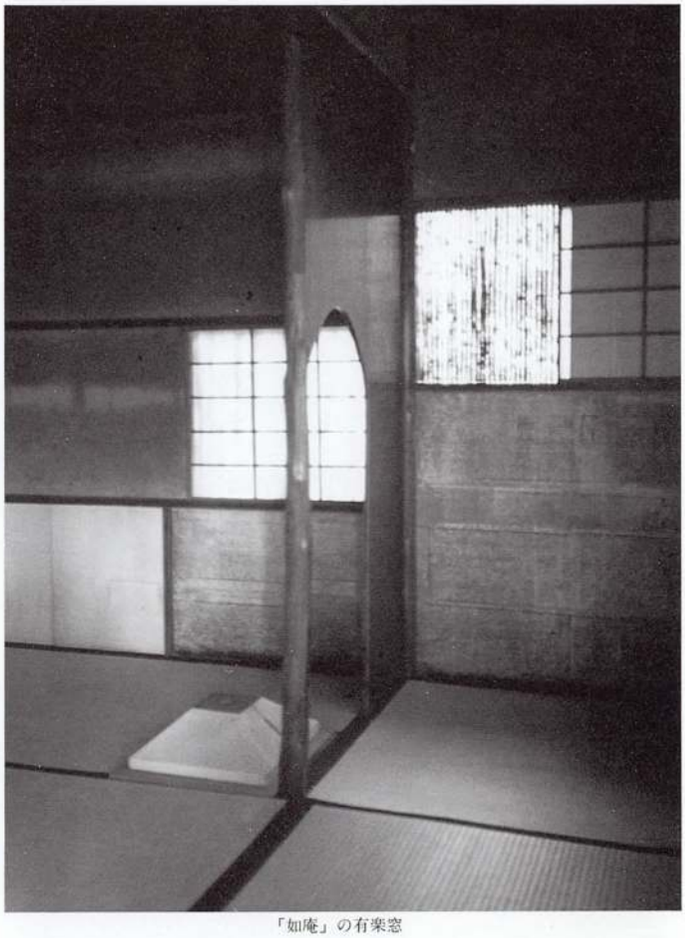


妙喜庵の茶室「待庵」

利休はこうした窓の配置、その位置と大きさの決定には全神経を集中したように見える。窓の配置がもたらす空間の明かりやその濃淡などが、茶事の進行に及ぼすあらゆる効果を周到に計算したことであろう。そのような精妙な工夫のあとが妙喜庵の茶室待庵（国宝）には明瞭に読みとれるのである。また利休は聚楽屋敷の四畳半で、壁面には二つの下地窓しかなかったが、化粧屋根裏に突上窓をあけた。待庵よりさらに暗い四畳半と、突上窓からの採光が加わると状態は一変し、明暗の分布は一層変化を加える。また窓には簾を掛けたりはずしたりする。初座は暗く、後座は簾をはずして陽に転じる。

利休以後の茶匠の工夫

こうした窓の操作による明暗の調節が、茶事の雰囲気に及ぼす微妙な影響ははかり知れないものがある。利休以後の茶匠たちは、窓を数多くあけることによって、さらに多様な明暗の世界を追及した。織田有楽（1547～1621）は如庵で、亭主側の壁面に窓をあけ外から細かい竹を詰打ちにした。節間（ふしあい）から空気は流れ光も通る。障子には



「如庵」の有楽窓

細目の縦縞がうつる。これは従来の下地窓と連子窓には見られなかった光と影の模様であった。

古田織部（1544～1615）は相伴席のついた三畳台目に十の窓を配した。燕庵にそれを見ることができる。点前座の勝手付には上下に連子窓と下地窓をあけ「色紙窓」と称して、室内に新しい風景をつくりだした。突上窓を含めて十窓をちりばめた燕庵に座していた時、ふと私はステンドグラスからさし入る光にも似た明かりを感じたことがあった。利休に比べ多彩な器物を用いるようになった織部の茶趣にふさわしい明暗の分布が、この空間には展開されているのであろう。小堀遠州(1579～1647)もまた多窓の茶室を好んだ。彼は手前座にも天窓(突上窓)をあけ、ここだけに四つの窓を集中させた。点前座に特別な光の演出を意図したのであろう。

このように茶の湯の空間は、窓の障子の和紙を透過してくるやわらかな光の複雑な組み合わせによって照らしだされるのである。昔の人は、現代人と遥かに異なり、仄暗さ、仄明るさの中の濃淡を識別できる鋭敏な神経をもち合わせていたわけである。それを考えると、私たちは茶の湯の空間を昔の人と同等に知覚することはできないのかも知れない。

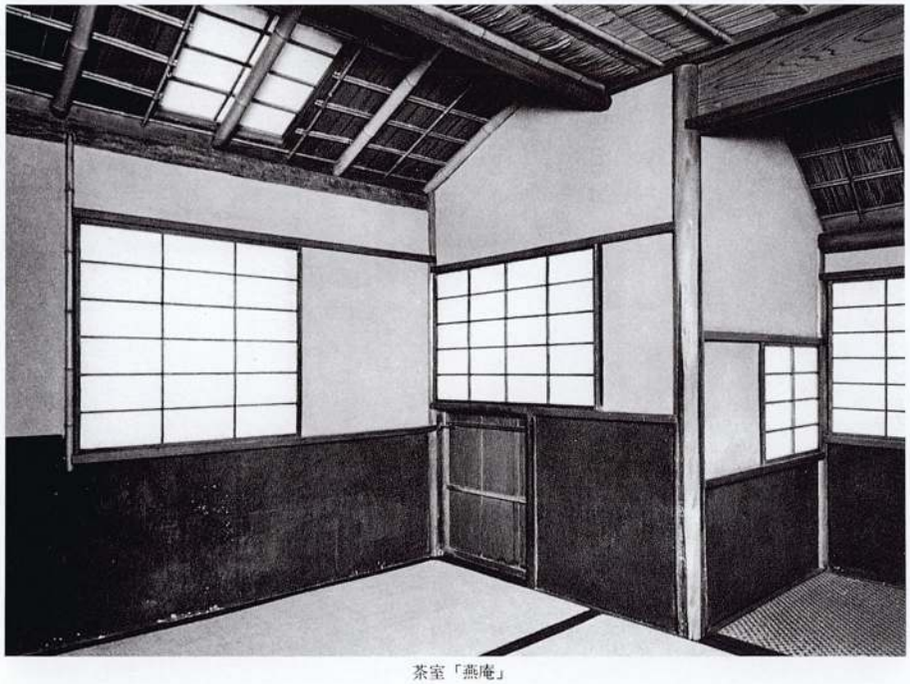
窓を駆使するようになった茶室も、その明かりの選択は紹鷗時代と変わりなく抑制されたものであった。利休以来の草庵茶室では、空間の広がりも、それを組み立てる素材もまた簡素に抑制された。それは「茶の湯」そのものを浮き出すための思慮であったと同時に、世俗を超えた空間として聖化を図る手段でもあったろう。名状しがたい明かりの効果が茶の湯の小空間に深い精神性を漂わせていることは疑いなく、祈りの境地にさえ誘うものがある。ルネサンスの建築家アルベルティは「畏敬の念は陰に刺激され、その気持は心中に尊厳の気を高め、また多くの場合、暗黒は崇高さを増す」教会堂の中は「光が多すぎては灯の力を失う」と語っている。(相川浩氏著『建築家アルベルティ』)空間の聖化の達成に向けて選んだ茶匠たちの考えとも共通していると思う。

茶の湯空間で追求された、繊細で微妙な光と影の魅力は、やがて日常空間である座敷にも波及していった。茶室でも床飾りはおこなわれたし、器物の鑑賞は大切な茶の湯の要素であったから、美術工芸品の鑑賞を効果あらしめる原理がそこに秘められていた。そういうものが座敷の床構えや光の採り方に応用されていった。

日本座敷の光と影

日本座敷の光と影の深い魅力を、谷崎潤一郎は「陰翳礼讃」の中で余すところなく叙述している。

通常座敷には庭に面して縁が付加され軒が深くさし出される。縁と軒で遠去けられた日光は庭に反射して屋内へ入る。そして障子の紙を透した光が座敷を照らす。書院造の場合は張付壁に漆喰壁で天井も高い。だが数寄屋造とか普通の座敷になると聚楽の土壁で天井も低い。ここでは「わびしい、果敢ない光線がしんみり落ち着いて」



茶室「燕庵」

座敷の壁に沁みこむ。聚楽壁は日本座敷の光を受けるのに実にふさわしい材料である。色調こそはなやかさをもつが大坂土も同様である。漆喰壁のような反射する壁はしんみりとした明るさを放つことはない。聚楽壁にも色の変化はつけられるが共通して渋い色調である。それは暗さを共有するような色調である。

真壁工法である座敷は、すべての壁面の周囲に散(ちり)がまわる。大壁の平滑な壁面と根本的に異なる点である。柱をはじめ各部材の面から壁が僅かながら凹む。光が当ってその凹みに淡い陰を生んだり、凹みに輪郭を浮き立たせたりする。竿縁を並べた天井も同様である。こうした僅かな凹凸は弱い光を受けて和室の意匠的要素として役立っているのである。もしこうした凹凸がなかったら和室はもっと寂しい佇いになるだろう。

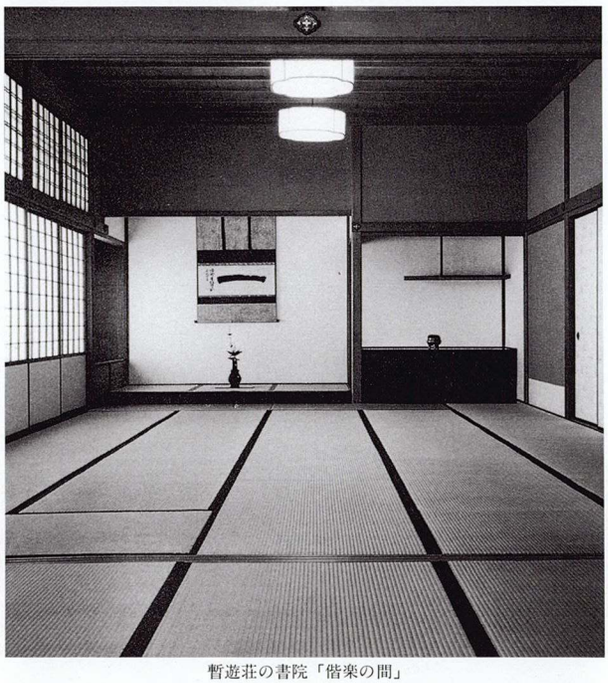
座敷には床が構えられる。そして床脇には棚が設けられ、縁に面しては書院がつくられることもある。座敷飾のためのこの床構えが座敷の主役で、人の目の集中する所である。そして書院造の成立以来、ながい生活の歴史を通して研究し尽してきた構えである。谷崎はこう記している。

> もし日本座敷を一つの墨絵に喩えるなら、障子は墨色の最も淡い部分であり、床の間は最も濃い部分である。私は、数寄を凝らした日本座敷の床の間を見る毎に、いかに日本人が陰翳の秘密を理解し、光りと蔭との使い分けに巧妙であるかに感嘆する。なぜなら、そこにはこれと云う特別なしつらえがあるのではない。要するにただ清楚な木材と清楚な壁とを以て一つの凹んだ空間を仕切り、そこへ引き入れられた光線が凹みの比処へ朦朧たる隈を生むようにする。にも拘らず、われらは落懸のうしろや、花活の周囲や、違い棚の下などを塡めている闇を眺めて、それが何でもない蔭であることを知りながらも、その空気だけがシーンと沈み切っているような、永却不変の閑寂がその暗がりを領しているような感銘を受ける。

多くは床は側面から射す光に照らされるから、決して室内の明るい部分ではない。特に床脇の棚の空間には光が届きにくい。そこで狆潜(ちんくぐり)の役割が重要である。床と棚との境をどのように吹抜くか、床構えの工夫にとって最も肝要な部分である。だが床と同等の明るさを導くことは困難でその必要もない。谷崎の言う「陰翳の魔法」を軽視してはならないであろう。「もし隅々に作られている蔭を追い除けてしまったら、忽焉(こつえん)としてその床の間はただの空白に帰する」という谷崎の見解は、日本の座敷文化の伝統を継承する上で貴重な警句とすべきではなかろうか。

近代化が進められてきた和室の照明法も、日本建築における空間と光のかかわり方を顧みることによって、よりふさわしい方法が模索できるのかも知れないのである。

（なかむら　まさお／京都工芸繊維大学名誉教授）



暫遊荘の書院「偕楽の間」

近代の光の起源——2つの庭が教えるもの

前田　忠直

建築作品を訪れるとき、思わぬところに不思議な静けさをもつ空間を見いだし、設計者の心の襞に触れる幸運に出会うことが、ときにあるものだ。さりげない簡素な庭。しかしながら穏やかな光に満ちたその空間に入ったとき、確かに、沈黙の声を聴いたような気がする。ひとつはル・コルビュジエによる、レマン湖畔に建つ両親の家の庭。ひとつはカーンによるイエール大学・アートギャラリーの小さな庭でのことだ。それぞれの建築家が10年後、あるいは15年後に完成させるそれぞれの代表作、サヴォワ邸とキンベル美術館——それらは、20世紀の前半と後半のもっとも優れた作品のひとつとみなせる——の中心主題を参照するとき、2つの庭での不思議な経験の謎が解けたように思える。ここではル・コルビュジエによって確立され、カーンによってさらに展開された近代的様式の起源をひとりの画家の視覚のなかに探ってみよう。

切り取られた風景——ル・コルビュジエの方法

湖畔に停泊する白い船のように見える。いまにも滑り出しそうだ。この印象は、白い囲壁の向こうで鈍く光る亜鉛鉄板のボディによるものか、それとも艀体東端の鉄骨の軒庇によるものか。道路を隔てた丘に立ってあれこれ考えているとき、湖上にほんとうの船が現れた(図1)。白い壁に囲まれた「小さな家」の庭は写真に見える桐の木の下にある。

レマン湖の東端に近いヴヴエの街が西に尽きるところ、300㎡の土地に延べ床面積60㎡の平屋の建物が敷地の西によせて置かれている。敷地の東側にはほどよい高さの壁に囲まれた庭が残された。設計がなされたときから30年余りを経た1954年に刊行された小冊子、『小さな家』のなかで、設計者はこの庭についてこう記している。「北側の壁と、そして東側と南側の壁とが〝囲われた庭〟を形成すること、これがここでの方針である。壁に囲まれた1辺10mほどの、このごく小さな庭は室内空間に匹敵し、もうひとつの緑あふれる居間となる[注1]」と。南側の壁には正方形の穴がうがたれ、人間のスケールに合ったコンクリートテーブルが付設される。建物の東面には直径6cmの鋼管に支えられた軒庇。居間への3段の階段と扉、そして簡素な木製の白い椅子。居間(内部)——軒庇——光庭——壁の開口とテーブル——湖(外部)の連鎖が注目される。この庭に入ったときの不思議な静けさは、南壁の開口から見える風景によるものか(図2)。テーブルが人の気配を感じさせるからか(図3)。あるいは軒庇が形成する影によるものか。

さて、1923－24年に建設された「小さな家」は1920年代のいわゆる「白の時代」の作品である。小冊子に1922年、23年には図面を持ち歩き、敷地を捜したと記されている。1922年はパリのセーブル街に事務所を開いた年であり、著書『建築をめざして』の刊行は1923年のこと。よく知られた近代建築の5原則(ピロティ、屋上庭園、自由なプラン、水平の連窓、自由なファサード)の表明は1926年のことである。そしてこの原理、手法は20年代の多くの住宅で試されることになる。オザンファンのアトリエ(1922年)、ラ・ロシュ邸(1923－24年)、レスプリ・ヌーボー展示館(1925年)、ガルシェのヴィラ(1927年)。そして新しい住宅の集大成ともいえるサヴォワ邸(1929－30年)が成立する。「小さな家」はル・コルビュジエが自らの方法を確立していった時期のはじめの頃の作品であることは注意されてよい。

「小さな家」には、水平の連窓、屋上庭園、自由なプランなどの手法を読み取ることができるが、ここでは、「小さな家」の庭とサヴォワ邸2階の屋上庭園の扱いに注目しよう。サヴォワ邸は細いピロティに支えられ、厳格な立方体が土地から切り離され、浮いているように見える。さながら舞い降りた宇宙船といったところか。1階に



図1

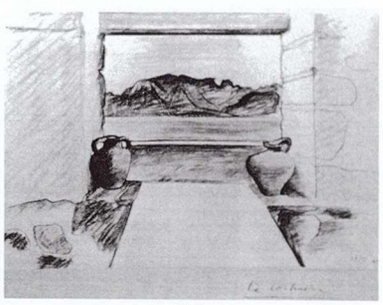


図2

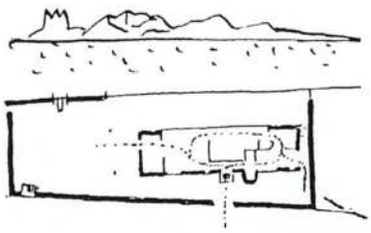




図3

玄関ホールとガレージ。居間と庭園は2階に配され、最上階にはサンルームがある。居間には水平の連窓が開けられ、屋上庭園に面して床から天井までのガラスがはめられる。居間と庭園の融合が目論まれている。中央の斜路が1階から屋上へとゆるやかに上昇し、内部と庭園を統一する。サヴォワ邸の新しい空間意識についてかつてゼーヴィは、キュビズムの第4次元がなければ、ル・コルビュジエがサヴォワ邸をピロティの上に置くことも浮かばなかったにちがいない、また4方の正面を等しいものとするというような考えも浮かばなかったであろうと言っている。白い壁に囲まれた屋上庭園は、上記の主題を実現する主要エレメントである。さて、「小さな家」の庭と比較してみよう。庭園の壁にうがたれた水平の開口。開口部にはテーブルが付設される。すべてのエレメントがヒューマンスケールだ(図4)。開口から入ってくる風景の扱いは「小さな家」の庭においてすでに読みとられたものだ。居間――光庭――壁の開口とテーブル――外なる風景、の連鎖が見事に実現されている。

白い壁によって囲い込まれた空間、あるいは立方体のなかで切りとられた空虚、この内部化された外部(庭園)こそ住宅の内部へ光をもたらすものであり、穏やかな光を与える方法である。それはル・コルビュジエの見いだした「白の時代」の透明な空間である。「小さな家」の庭はいまだ洗練されたものではないが、その空間にはル・コルビュジエの空間にとって本質的なものがすでに含まれていたのである。

沈んだ庭の静けさ――カーンの方法

カーンのデビュー作、イエール大学アートギャラリーについて語るとき、チャペルストゥリートに面する壁について、あるいは諸サーヴィスを収納したスペーススラブについてしばしば取り上げられる。しかし裏側の庭について触れるひとは少ないようだ。正面の屹立した壁といく枚かのスラブによって構成された空間が、実は、中庭に向けて開かれていることに気づいているひとは少ない。そしてここで取り上げるサンクンガーデンは室内の展示空間と中庭をつなぐものとして設計されているのである。断面図に設計者の意図が隠されている。図5にみられるように、街路と中庭とのレベル差がこの庭を生じさせている。庭のレベルを2段にすることによって、ヒューマンスケールの明るい空間を実現している(図6)。この庭の意味はしかしこれだけではないようだ。

1950年代のカーンの思索に1960年以後のフォーム[注2]の概念はない。1950年代の思索のキーワードはオーダーである。「スペース・オーダー・コンセプト」とは、空間の本性はオーダーをとおしてデザインされることをいう。端的にいって、構造、機能、形態、素材の統合が意図されているのである。よく知られたサーヴァント・スペースとサーヴド・スペースの対概念もこれに含まれる。しかし1950年代の作品に、はたして後期の諸作品を統一するフォームの意識がまったく見られないのだろうか。ソーク生物学研究所やキンベル美術館、あるいはダッカの議場などに見られる確固たる正面性がまったく見られないのだろうか。たとえば、1950年代の後半の作品、ペンシルヴェニア大学のリチャーズ医学研究所において、建物の前面にわずかに沈んだひとつの場所が目論まれている。キャンパスの遊歩道と研究所とのあいだのプラザである。中心性の回復へのためらいがちな模索をここに読み取ることができるのである。イエール大学アートギャラリーはどうか。およそ15年後に成立するキンベル美術館の方法を参照してみよう。

広大な公園の端に建設されたキンベル美術館は、公園の緑に向けて開かれたポーチがある。中央のそれは後退して設けられ、そこに開かれたプラザには細やかな柊の木が規則正しく植えられている。



図4

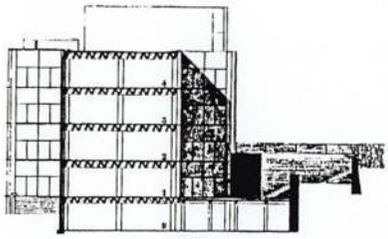


図5

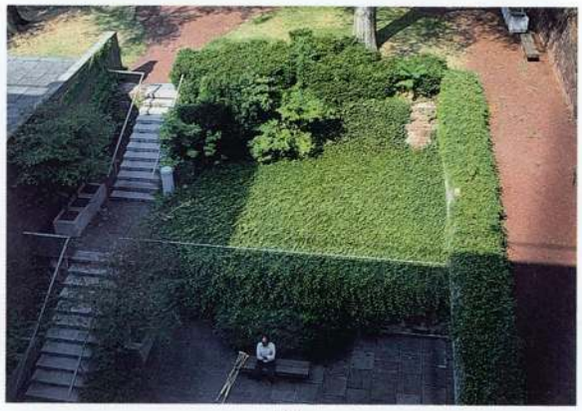


図6

訪れるひとは木々を潜り抜けポーチに至る。このエントランスポーチは、上階において内部と外部が接続する唯一の場所である。エントランスギャラリーから見た公園の眺めが美しい。ヴォールトの長さ一杯に開放されたガラスの壁、深いポーチ、そしてプラザの樹林の向こうに公園の緑が海のように見える(図7)。西面はきわめて穏やかであり、「家のような感覚」が実現されている。一方、2層構造にみえる道路側(東面)の眺めは、重々しく、閉鎖的である。東西面の印象の対比は決定的である。西面のプラザに注目してみよう。道路側から入るひとは、上階のエントランスギャラリーに至るとき、先のプラザはまるで内部の光庭のように見えるのだ。つまり、プラザは外部と内部を繋ぐ通常のプラザにも内部の光庭にも見える。両義的な意味が付与されているのである。カーンのフォームの概念によればそこは聖域である。西方への中心軸に沿った眺めは、あのソーク生物学研究所のプラザを想起させるものだ。

イエール大学のアートギャラリーの庭に戻ろう。道路側立面の扱いと中庭側立面の扱いの対比的意味、そして庭のヒューマンスケールによる扱い、いずれも共通のものだ。内部と中庭を結ぶ「間の空間」に込められた意図は深い。それは細やかな指示を伝える庭の図面が残されていることからも伺える。さて、この空間に入ったときの不思議な静けさは、この庭がキンベル美術館で成し遂げられた聖域に通じるものを持っているからだろうか。この沈んだ庭は、およそ10年後に成立するフォームの概念をひそかに予感させる。それゆえ、訪れるものを惹きつけるのではないか。

近代的様式の起源——セザンヌの場合

建築を含むモダンアートの獲得した、見えるものの存在論的断片、端的に言って時間を内包した「面」、それはその後も続いている世界の詩的調査のひとつの試みだったといえる。さまざまな宣言によって、その手法が確立したと言い出したとき、その方法はかならずしも生きた空間を構成するものではなくなるのだが、「面」の発生的意味を省みることによって、見るそのことの近代における根底的な変革の意味を一瞥してみよう。

ル・コルビュジエの1920年代の作品にみられる「面」の構成による諸空間は、現象的には相互に排除しあう多くの面のそれぞれの方向として私たちの経験に現れる。私たちの視点は一つ一つ順次に、「今ここ」として継起的にしか現れることができないのだが、空間の意味は多くの視点の総合性にある。それは継起的なものと同時的なものとの交差、あるいは空間化された時間といえよう。ル・コルビュジエのいう「自由なプラン」において、孤立と断片的性質をもつそれらの「面」は意識の場に消えたり、また現れたりする。それらの「面」は、あるときには途方もなく遠いように思われ、あるときには奇跡的にまで近いように思われる。「面」の担う、視点の「今ここ」の絶対性、つまり身体(=眼)の特権的位置こそフッサールが比喩的に定位点ゼロ、または方法づけのゼロ点とよんでいるものである。身体は方向そのものを生み出してゆく自発性をもっており、それゆえこの身体の「ゼロ点」は点ですらないといわねばならないのだ。存在論的意義を担う「面」は建築的空間の近代的様式として確立し、一般化してゆくのだが、「面」の発生的意味をセザンヌの絵画のなかに探ってみよう。様式の生まれ出づる状態、あるいは生まれ出づるロゴスを、かれの絵が図解してくれる。

セザンヌはモチーフを捜しに出かけるという。かれはまずはじめに地層をみいだす。風景と一緒に芽を吹いていた、という。それは全体的な場所の経験である。かれにとってこの生まれ出ようとしている風景の構造を把握することが問題だったのだ。視線が捉えるす





図7



セザンヌ　西瓜のある静物　1900－1906

べての部分的な景色を互いに接合し、眼の移り気のために四散するものを寄せ集め、自然のばらばらな手を合わせなければならなかったのである。1904年のベルナールへの手紙のなかで「物やプランの各面がひとつの中心点にむかって集中するようにしなさい」と言っている。かれは四方八方から同時に絵に襲いかかり、木炭の最初の線、つまり地質の骨格を色の斑点で取り囲んだのだ。かれはこう言っている。「世界の一分時がすぎてゆく。それを現実のままに描かなければならない」と。かれが獲得した手法、「色面調節」(modulation)による感覚の「実現」(realization)とはこのような生まれ出づる秩序としての始元的領野において解されるものだ。いちばん濃い色のところから塗りはじめ、その深い色の上に重ねたひとつの色の層をすこしばかりその外へはみださせ、色と色を重ねてそれぞれを広げていきながら絵のなかの他のそれと対照をなす要素にたどりつく。この新しい中心から同じような操作を繰り返して色を塗っていくのである。このような色面調節という手法のもとにものの外包は破棄されることになる。

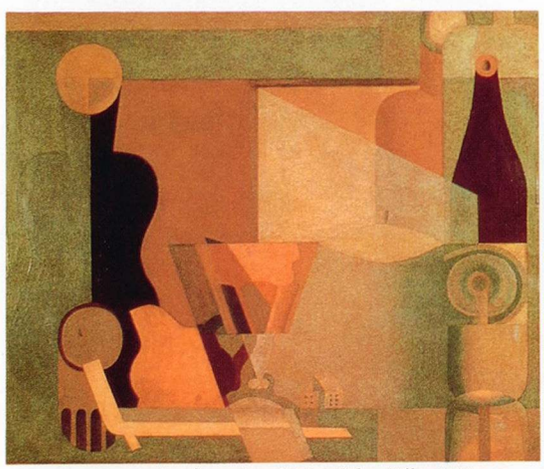
物体を限る輪郭線は二次的なものにすぎない。それでは色面調節としてかれは何を描いたのか。見えるものを見えるままに描いたのだ。つまり物にとっては広すぎる箱ないし容れもののなかでいろいろな物が互いに色をずらし、不安定なままに抑揚が生じはじめることを、かれは確かめていたのである。空間とその中味とは一緒に追及されねばならないと。ベルナールへの手紙のなかでかれはこう言っている。「人間にとって自然は平面においてより奥行きにおいて存在します。そのためには赤と黄で示される光の振動のなかに空気を感じさせるために必要なだけの青系統の色を導入する必要が生じます」と。

近代絵画の探求について精妙な分析を試みた現象学者メルロ＝ポンティはセザンヌの努力についてこう記している。「セザンヌの『ヴァリエの肖像』では色彩のあいだに空白が設けられているが、これらの空白は、以後、〈黄色くある〉とか〈緑である〉とか〈青くある〉というよりももっと〈一般的なある〉を作り上げ、浮き上がらせる働きをもっている。それと同じように、かれの晩年の水彩においては、それこそ＜隠れなさ＞そのものであり、それについては少なくとも＜どこに＞という問いは立てられないと信じられていた空間が、いかなる場合にあるとも指定しえないいろいろな平面のまわりに、つまり『透明な表面の重ね合わせ』であり、『互いに覆い合い、前に出たり背後に退いたりするいろいろな色彩の漂う働き』である平面のまわりに放射しているのである[注3]」と。この空間は、印象派の追及した雰囲気のようなものではない。雰囲気の描出は同時にものを隠し、その本来の重みを消失させる。セザンヌのものはまるで内側からかすかに照らされているようであり、光線はもの自身から発しており、そこには堅固なものとしてものそのものが立ち現れてくるのである。

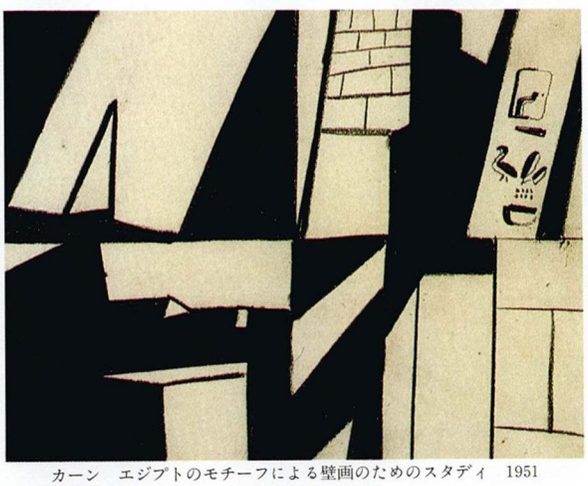
ル・コルビュジエが「自由なプラン」をとおして実現した光と空間、あるいはカーンが「フォームの自覚」をとおして実現した光と空間、その方法に違いがあるが、かれらの作品の内包する光の意味は深く、来たるべき建築の未来を思うとき、ここで一瞥した近代の光の起源への問いは避けては通れない課題だと思われる。

注1　ル・コルビュジエ著『小さな家』、森田一敏訳、集英社、1980年、24ページ。
注2　「フォーム」については、拙著『ルイス・カーン研究――建築へのオデュッセイア』、鹿島出版会、1994年、第3章「建築のフォームへの問い」を参照されたい。
注3　M.メルロ＝ポンティ著『眼と精神』、滝浦静雄・木田元訳、みすず書房、1966年、287ページ。セザンヌ論として同著者に「セザンヌの疑惑」(『意味と無意味』永戸多喜雄訳、国文社所収)がある。ほかに、セザンヌの絵の魅力をいきいきと記述するものとして、吉田秀和著『セザンヌ物語Ⅰ、Ⅱ』、中央公論社、1986年、吉田秀和著『セザンヌは何を描いたか』、白水社、1988年をあげておきたい。

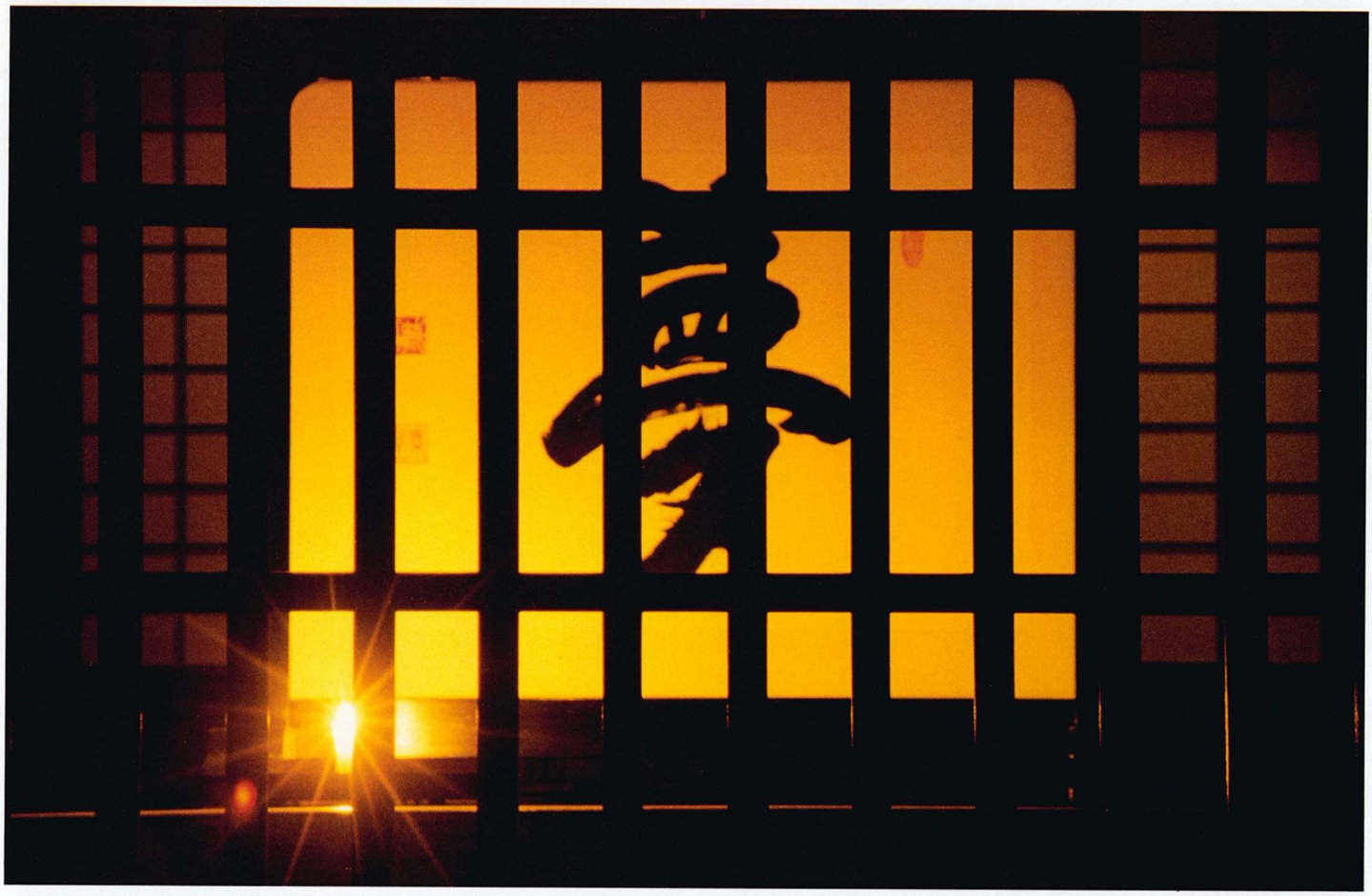
(まえだ　ただなお／京都大学工学部建築学科講師)



ル・コルビュジエ　ランプのある青白い静物　1922



カーン　エジプトのモチーフによる壁画のためのスタディ　1951

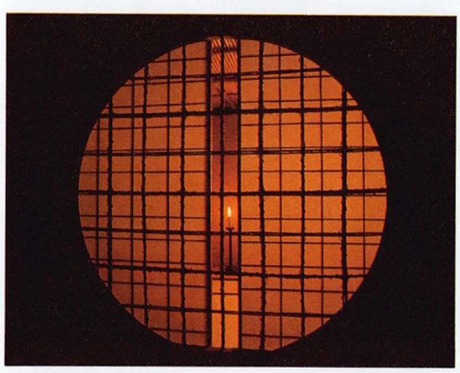


写真提供　寺前浄因

薄闇への思い

寺前　浄因
宗教家

光に、痛みを感じたことはありませんか。
暗闇で、安らぎを感じたことがありませんか。



私は、元来在家の出身で、生家も格別信仰深いといったわけではなかったので、お寺というものに陰気な雰囲気しか感じませんでした。この陰気臭ささの原因の一つには、お寺の本堂等の薄暗さがあったのではなかろうかと思います。日中でもなお暗く、本尊様のお顔なんかは明りがないと、とてもはっきりとは見えませんから。しかし、お寺暮しも慣れて来ると、どうも明る過ぎる本堂とか、はっきりと見える本尊様とかには、何かしら違和感を感じるようになって来ました。

それに、お寺を訪れる若い人達の間にも、薄暗さの中に安らぎを感じるといった声も聞かれるようになって来てるのも事実です。確かに、考えてみると、日中は太陽の光に明からさまにされ、夜の街はというと、刺激的な光が溢れているので、見ると同時に常に見られていることも意識し続けなければならないから、神経が疲れてくるのかもしれません。

ところで、焚火とかローソクとかの光を囲んで夜話に耽ったことはありませんか。そして、その時自分が、自分という殻を破って薄暗さの中に融け出しているといった感じはしませんでしたか。強い光の中や白い光の中では、どうしても影がくっきりと出てしまい、知らずと自と他との区別を明確にしてしまいがちです。ところが、柔らかい温かい光で包まれた薄闇の中にいると、相手の表情もはっきりと見えないかわり、自分の表情もはっきりと見られません。

つまり、自他の輪郭が暈けて境目が曖昧になることで、自他が渾然となり、その場の空気と一体になれるからだと思います。

ですから、日頃現れることなく奥に潜んでいる自分が浮かび出て来て、素直な気持ちになれ、自己を他に投影し、他を思いやる気持ちが生まれ他を通じて自己を再確認することが可能になり、自己が再生されるようになると思います。たとえば、灯明で揺らめき浮かび上がる仏様を見て人はそれぞれに違う思いを懐くはずです。しかし、仏様は物体ですから表情を変えることはありません。

それなのに同じ人が、同じ仏様を見ても時により、様々な思いを至すというのは、その人のその時の思いが素直に投影されてるからだと思います。もし、日常生活空間の中で、柔らかい、温かい光で包まれた薄闇があるならば、人はもっとやさしくなれるのかもしれません。

（てらまえ　じょういん／高台寺副執事）



闇と光の対比　写真提供　土井　明

現代照明考

土井　明
料亭経営

とっぷりと日が暮れた山中で、旅人が見つけた窓灯りの家に、一夜の宿を乞う。能や昔話しによくある設定だが、照明を考える時私はよく、この場面を思いうかべる。

人口がいまの⅓以下だった、明治よりも以前の人々の、こころ細さや、灯りに対する有難さは、いつでも安価な照明があり、しかも、こんなに大繁殖してしまった、いまの日本人には、想像しにくい感覚だろう。瓦燈（かとう）、ひょうそく、短檠（たんけい）といった、油と灯心が庶民の灯りで、蠟燭は贅沢品だった。風前の灯の言葉通り、電燈以前の、人々の灯りにたいする有難味はいかほどかと思う。いまの庶民の灯り、蛍光灯は、夜間も昼光が得たいという、白夜願望の勝利だろうが、反面、陰を失った精神上の損失は、計り知れない。お客様からは、明るい照明での食事とのご要望が強く、座敷の雰囲気づくりには苦心する。闇鍋的不安があるのだろうか。火を見ていると、不思議な高ぶりと同時に宗教的なこころの沈潜を感じたりするのは私たちが祖先から、受け継いだ血のなせる業。同じ意味で、灯りに対しても、ひと恋しさや非日常を、気持ちのどこかで、感じているはずである。

明治に採り入れた西欧合理主義は、蛍光灯的性格をもち、祖先が営々として培ってきた機微(陰影)を、なくしてしまった。社会を秩序づけるために、ペーパーテストの難関を突破した人々が左脳で作成する、合理主義の申し子、法律なるものが、精緻だけれど、どこか机上の空論めいていることは、建築消防をふくめた都市計画法と、日夜格闘しておられる、建築家の方々は、よくご存知だと思う。このすべてを平面的に考えるやり方は含みやモノノアワレを許さない。いまの照明の主流は、美を追求するあまり、女性を全裸にしてしまうやり方である。しぐさ、衿脚など１を垣間見て、９を想像するトキメキ照明は忘れられている。過剰を続ければ、麻痺をおこす。女性も照明も、露出オーバーなのだ。

私たちの文化とは、夜を昼のようにするのではなく、陰を使って、いかに光の部分を際立たせるかだろうと思う。翳りのある空間は、暗くて不便かも知れない。しかし、便利と引き換えに、負った傷は深い。灯りを楽しむことは、陰を楽しむことでもある。ちょっと気取った会食や、酒席は、できるだけ血の騒ぐ照明で、演出してみたいものである。

（どい　あきら／㈱高台寺土井代表取締役）



夜咄しの茶事などに使われる手燭



パリ・シャンゼリゼの夕陽　撮影　金　秀吉

映画考・大阪の夕焼け

金　秀吉
映画監督

これまで携わった数本の拙作が招待作品となったので、フランスやイタリアの映画祭に赴く機会があった。その地でまず印象的に感じたことは、ヨーロッパ映画のあの独特な映像のトーンは、街や人々を日常的に照らしている太陽光の映像による＜感覚(文化)的再現＞だったんだな、ということだった。琥珀色っぽいトーンの、意外にも原色がくっきりと映えるあの色調。

恥ずかしい話しだが、それまではフィルムの感光に影響する日本との物理的な色温度の違いが、彼の地の映画を必然的にそうさせるのだと思っていた。が、それは全くの誤解だった。

数年前、大阪を舞台に僕が監督をした劇映画の冒頭のシーンで、カメラのレンズに琥珀のフィルターを装着して撮影したら、たしかにヨーロッパ映画調に撮れていた。しかし、その色調で全編を統一しようなどという考えは全く湧かなかった。それは思っていたとおり、僕がイメージする大阪の色ではなかったからだ。

これまで携わった十本弱の劇映画の舞台はほとんどが大阪だった。大阪以外では、秋田と東京と奈良の三本だけだ。それが今になって我ながら不思議なことに、大阪以外の映画では、その主人公たちが、ドラマのラストあたりで決まってどこか違う場所に旅立つことになっている。さらに不思議なことには、大阪を舞台とする映画の主人公たちは、正反対に大阪から一歩も外に出ない――せいぜい、須磨海岸をデートするくらい――ままドラマが結末を迎える。

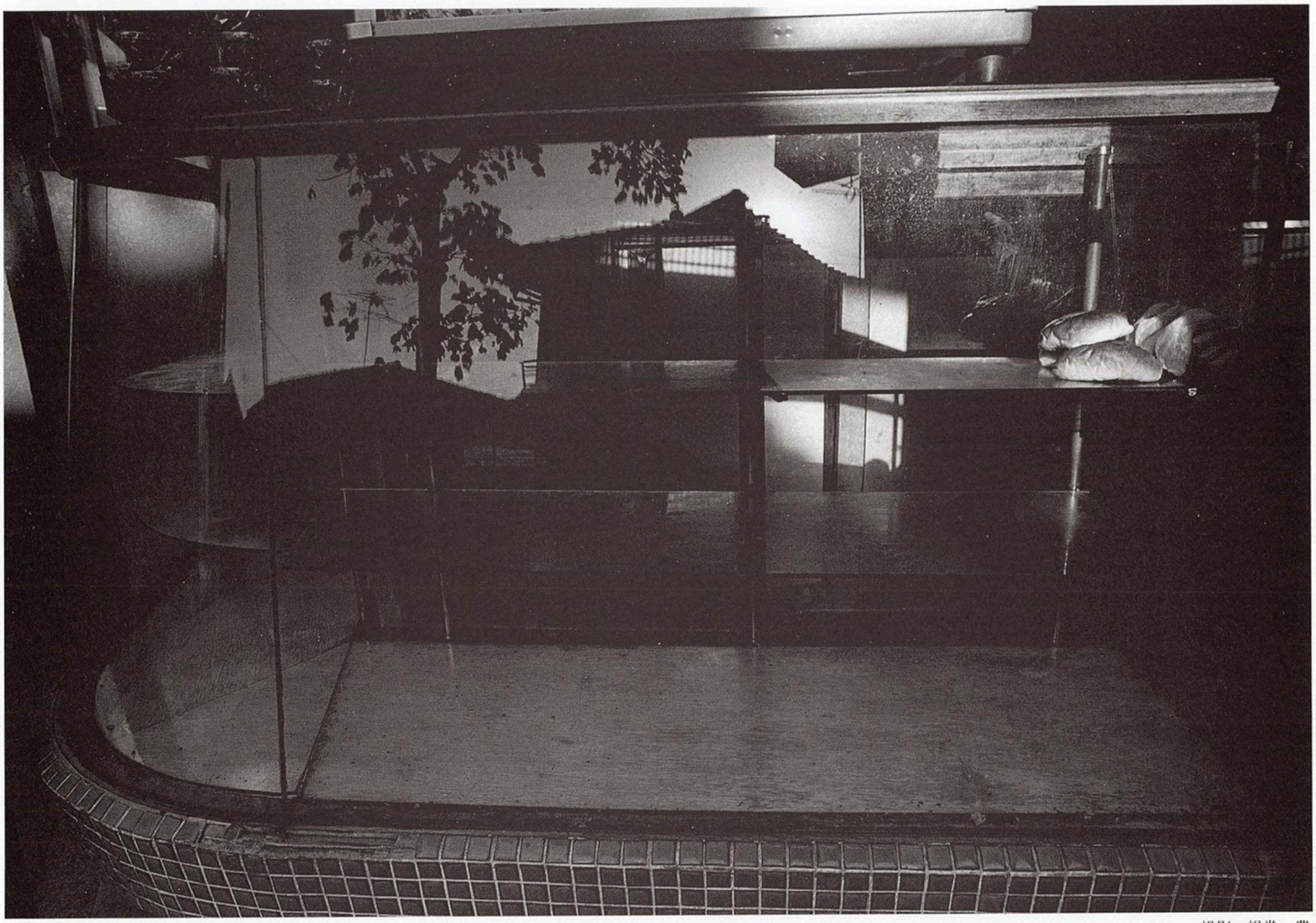
今になってみるとそれは、「大阪物」に対する僕のこだわりが露呈しているように思う。内容としての物語の充実は勿論のこと、大阪の光と影の妙とでもいうべきものを映像的に再現してみようという課題を潜在的にフォローしていたのだろう。だから、そうそう他の場所に主人公を、または撮影現場を移せない。

僕が生まれ育った大阪への愛着。人・街並み・方言など色々あるが、それは言葉にならない大阪の夕焼けの美しさに凝縮される。言葉にならないから映像だというのも、あながち冗談ではない。

正直なところ、いまだその美しさを映像でとらえきれたとは言えない。その原因が、最近、直観的にではあるがやっと分かりかけてきた。まず、道だと思う。大阪の夕焼けの光が映える道。そしてその照りかえしの舞踊をみせる建物。さらに、そこに立つ主人公のドラマチックな感情が調和し、一体化したとき、はじめて言葉をこえた大阪の夕焼けの美しさがスクリーンに再現されるはずだ、と。さっそくの反省。これまでは、風景としてのまさに絵葉書的な夕焼けしか追い求めてこなかったといえる。

道・建物・人。その三拍子そろった＜必然の美＞をなんとかフィルムに焼きつけるまでは、大阪を舞台にした映画づくりへの思いがやみそうにない。

（キム　スギル／映画監督）



撮影　絹巻　豊

光へ

絹巻　豊
建築写真家

写真家と建築家とを単純に比較した場合、光に対する考え方に違いが在るようです。建築家は光を「明」の方向から考えて設計作業を進めておられる方が多い様に思われます。確かにルイス・カーンの「構造は光をあたえ、光は空間を創り出す。」と云う言葉でもわかるように建築家にとって光は建築構成上、重要な要素の一つです。

写真もまた光がなければ成立しません。写真は光の痕跡です。光あっての写真ですが、その撮影作業を始めるにあたりフィルムや印画紙の物理的再現能力からみて「暗」の方向から作業を進めます。闇の空間、暗い部分がフィルム上に、また印画紙にどの程度再現出来るか、どこまで表現可能か？この作業を行う程度で写真家は闇の世界に遭遇するのです。

建築写真の場合、夜の闇があり、太陽がさし込み序々に空間が出現する。その壁や柱に仄かにあたりだした光を糧とするところで、建築写真は生命を吹き込まれるのです。商業写真の場合も闇のスタジオに光を加算していき世界をつくりだすのです。また、カメラの構造においても同様に暗箱の前でシャッターが開き闇の世界へ、光が導かれる。写真家にとり「闇」を認知する事が写真へのプロローグと云うことになります。写真家　高梨豊のエッセイ集「われらの獲物は一滴の光」このタイトルが全てを語っています。こうして闇と深く付き合い出すと、現代建築の空間が持つ明るい精神世界に対し、眩しくて目眩を覚える事があります。

あまりにも無防備に光を取り込み過ぎではないでしょうか。

時々、撮影現場で隙間から洩れてきた拳大の光を視て感激する建築家に出会うことがあります。彼らは光を本当に感じた事が在るのだろうか、と不安になります。撮影をしていても闇の空間を創る、と云う建築家の意識を感じる事は在りません。一方、闇の方から考えて光を導く、と云った考え方をする建築家がいる様ですが、このような方は少数で、ほとんどは「闇」を消す方向でプランを考えておられるようです。これはたぶん建築家の思想の問題でしょう。

町中の雑然とした家々の間に、なんの変哲のないビルの壁面に、おもわず立ち止まるような見事な質の光が落ちている事があります。闇からの視点へと転換することで、光の領域への新たな座標を展開するように思います。闇と関係を持った幾人かの建築家を知っています。彼らの撮影は疲れますが、しかし、建築写真家の醍醐味は、この疲れの中でしか味わえないと想います。

（きぬまき　ゆたか／建築写真家）



野性的なかがり火で知られる長良川の鵜飼　写真提供　近田玲子

光の記憶・光の体験

近田　玲子
照明デザイナー

日本のあかりとは何か？と言った時に必ず登場するのは、谷崎潤一郎の「陰翳礼讃」である。確かに、あんどんのほの暗く低いあかり、障子を通した自然光が畳や白壁にあたって出来る微妙な光と翳は、日本独自の光空間と言える。しかし「陰翳礼讃」の前提となる伝統的な空間が私たちの日常生活からほど遠いものとなってしまった今、何を日本のあかりとして語れるのだろうか。

昨年の夏、岐阜県の長良川の鵜飼見物の機会を得て、長い間の疑問が氷解する思いがした。日本のあかりとは、行灯や障子などのモノに結びついているのではなく、「光の記憶」と「光の体験」にあるのだ。日本人は昔から太陽や月の移ろいに敏感で、四季をさまざまな光とあかりで彩ってきた。子供の頃を振り返ってみると、まつりや行事の思い出を作っている一つ一つの情景が、それぞれの「光の記憶」と結びついているのがわかる。

青空の下で見るピンクの桜、夕暮れ時の雲海のような桜、水銀灯の下で半透明な白い桜、ちょうちんのあかりに照らし出されたさくら色の桜。

月見、花見、夜まつりなどが、現代もなお季節の節目をつくる娯楽として私たちの生活の中に生き続けているのは、時間の経過に従って変化を見せる自然の景色と、いつもと違う出来事を予感させる「光の体験」にある。

長良川の鵜飼は、野性的なかがり火の炎で有名だが、本当の鵜飼見物の醍醐味は船の上で過ごすゆったりとした時間にある。日暮れ時に屋形船に乗り込んでから、暗い川面に鵜匠の登場を迎えるまでの間の、ドラマチックに展開する自然の変化と光の変化を存分に味わうことにある。

船着き場で眺める真っ赤な夕焼け。空が薄墨色になったころ船に乗り込み、快い風を受けながら川をさかのぼり、山蔭に船が停まる。乗船客の顔がぼんやり見え始めた頃、それぞれの船にちょうちんが灯り宴が始まる。ほろ酔い気分で黒々とした闇にすっかり身を任せた頃、暗い山の蔭から忽然とかがり火の炎が現れ見る人の心を揺さぶる。

鵜飼見物の楽しさは、夕暮れから闇に沈む景色の移り変わり、観客の期待感を盛り上げ時間と共に変わっていく一連の「光の体験」そのものである。

（ちかだ　れいこ／㈱近田玲子デザイン事務所）



船にちょうちんが灯り宴が始まる



舞台写真　写真提供　劇団潮流

舞台照明はフィクション

木村　嘉次

舞台照明

舞台はすべてフィクションである。従って舞台照明も人工光線を使っているのでフィクションである。舞台の場合、視点は客の目である、特にリアリズムの芝居の場合、現実の再現つまり自然界の状態、太陽光線の作り出す美しい情景を再現すること、このことが舞台照明の一つの仕事である。舞台照明のもう一つの大事な仕事は見せると云うことである。

例えばどんな暗いシーンでも演者の顔を見せなくてはならない。テレビではカメラの操作で解決できるが、舞台の場合は客の視点の位置が広範囲に及ぶ、このことが我々の苦労するところである。最近、デザインした芝居でこの事で苦労した事を披露したいと思う。

原作は近松門左衛門の「堀川波鼓」を田中澄江さんが脚色したもので、因州鳥取城下、小倉彦九郎の色で起きた今で云う不倫による（酒のうえでの一時的なもの）女敵討の物語である。

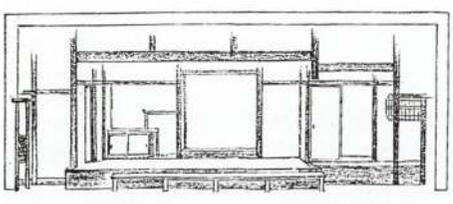
第一幕は卜書によると三月の初め頃、晴れた日の午後遅く。とある、この時刻より一幕はスタートする。武家の子弟に鼓を教えて全国を廻る、京都の鼓師宮地源右衛門がこの地に留まる、そして江戸詰めのため、主不在の小倉家の養子文六の為に鼓を教えに来ている。妻のおたねは文六の出世の為、鼓師になにかと頼み込み酒の接待までする、だんだんと陽が陰って行く、全体が赤い夕陽に包まれて行く、やがて陽が落ちて行燈がともり二人だけになる、やがて妻のおたねは酒の酔いがまわりその場に倒れる、鼓師は行燈を吹き消しおたねに挑み掛る所で明かりはフェードアウトする。

ここで行燈を吹き消したとき真っ暗になる、二人をみせなくてはならない、普通だと二人をスッポットフォローで見せるところだが、演出の茂山千之丞さんはスッポットフォローはしたくないとの注文をつけられた。

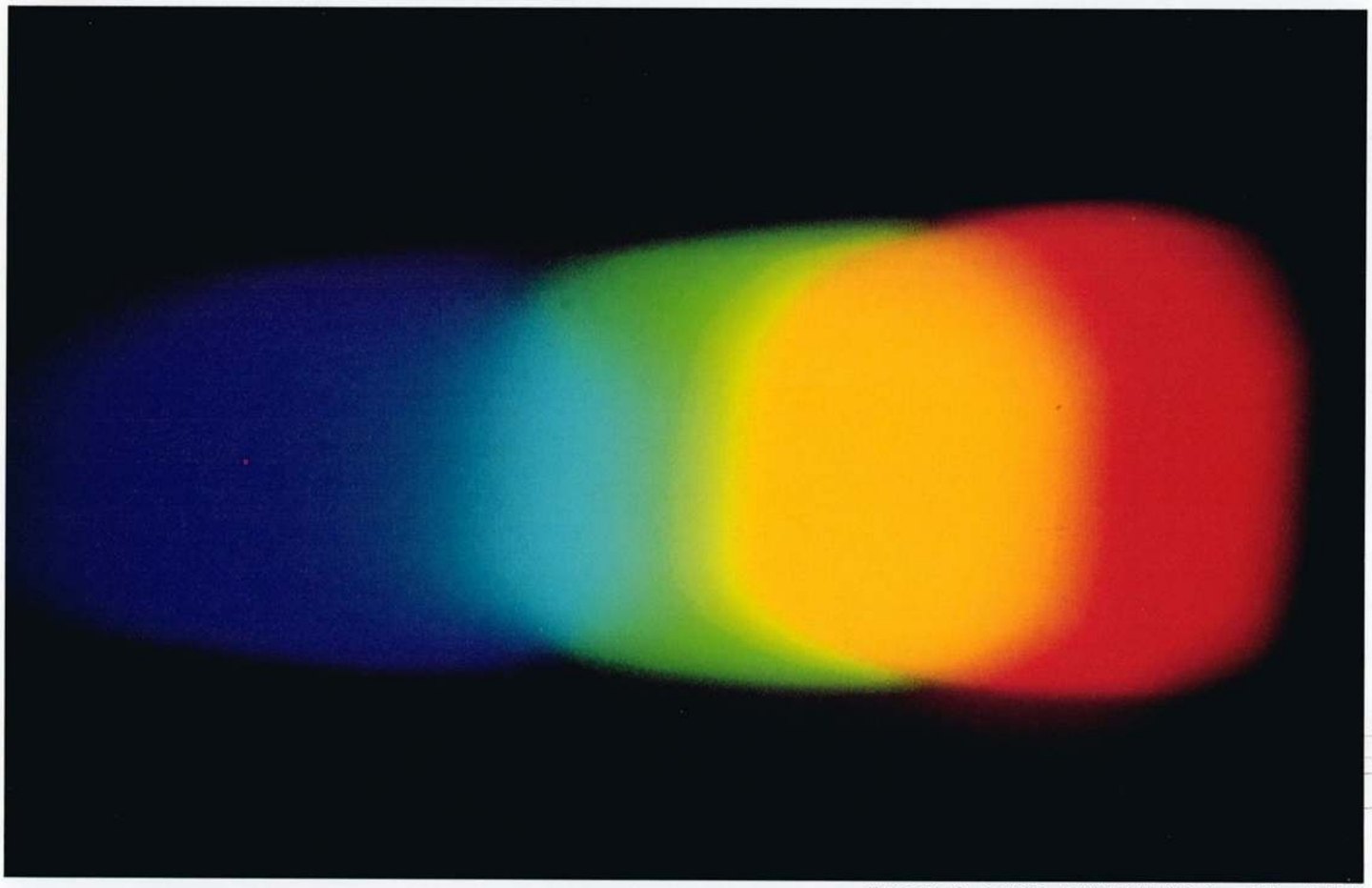
そこで考えて行燈が消えるまでに嘘であっても月明りを客に分からないように出していった。二人の姿が差し込む月明かりに浮び上がったところでフェードアウト。

これが舞台照明のフィクションである。

（きむら　よしつぐ／大阪芸術大学舞台芸術学科
非常勤講師・照明コース）



舞台のエレベーション



曇天のプリズム分光写真、紫外線赤外線は写らない　撮影　梶井宏修

人と光と建物

梶井　宏修
研究者

人の24時間について疲労、作業能率、環境温度、皮膚表面温度、直腸温、生活行動等の調査を行ってきた。当研究室の調査結果、朝方就寝し昼近くに起床する生活を続けていた学生は、深部温度が真夜中に最も高くなった。一般社会人は午後2時前後が高い。学生は午前中、覚醒度や能率が低くリズムがずれていた。活動度の低い痴呆性老人や高緯度地方の季節性鬱病入院患者に1か月間、午前中の体温上昇期に2500ルクスの光を2時間照射時に6割の症状が改善された。一方、一日中300～500ルクスで生活した2割の人がリズムを失い、200ルクス以下では9人の被験者全員のリズムがくずれた。強制的に食事を与えた場合もリズムがくずれた(本間ら、1994)。マラソンを始めて10分で深部体温は42℃にも上昇する。入浴、食事等によっても上昇するので、健康な活動度の高い人には社会的な要素の影響のほうが大きくなる。

同照度でも、光源により精神の集中度、ストレスや快適感を損なわないのは白熱灯である（星野ら、1992)。天井、壁、床や家具などの反射光はエネルギーが小さく、生体に与える影響が少ない。しかし、色光の影響は購買意欲の高揚や、瞬時の映像を潜在意識に植えつける等、光を介した映像は人の心まで自由に制御出来る。蠟燭の炎にみる色彩や揺らぎは神秘的である。ゴーグルに数個の豆球を取り付けランダムに点灯すると魅惑的な光が瞼の裏に展開される。実際の感覚は七色の電球が付いているのかと思われたが、白色ランプ点滅による脳内の活性が促されるのを体験した。

紫外線や赤外線も動植物に大きく影響を与えている。極地の紫外線量は多く、白く見える白熊の毛は紫外線領域で吸収量が大きく皮膚を保護し、防衛の為の剛化が進んでいることがわかる。一方、ハワイ固有植物である1回繁殖型多年草の銀剣草は葉が紫外線吸収用の白色の毛で覆われている。光を巡る植物の問題は動物以上に劇的な戦いがある。森林資源も小さな草木原野から始まり高木森林に至るまで移動できないので太陽の恩恵にあずかるための激しい競争がある。カタクリは早春の僅か1～2カ月の成長期間で他の草木が成長して光を奪う前に1年分の成長を成し遂げ、春から冬にかけては長い休暇に入る。植物の短日性や長日性は電照菊等に応用され、近年季節感が喪失している感がある。光の照射が短くなるとラットの実験では血液中の脂肪濃度が上昇し、冬支度を始める。「天高く馬肥ゆる秋」、屋外で外気にあたらず、太陽の光を受けず、運動量が少ない美食家の人達が脂肪を貯めないダイエット生活をすると冬支度は出来ない身体になるので、冬のない、夏のない年中春秋の適温環境を創造する必要がある。快適な空間を求めて建築デザインは練り上げられる。日中は昼光を窓や開口部から取り入れる。夜間や建物の奥まった所では必要な場所に適切な照度を計画する。さらに、電子技術を加えて、昼光利用の点からガラス間に液体を通したり、ブラインド等の機器設置制御も進められている。エネルギーとして太陽の恵みを受けるために現行の日照権以上の熾烈な太陽光の受照権利を主張する時代が到来するであろう。心理的には、通常環境と考えられる条件下では被験者本人の「やる気」前向きの意志がなければ、結果に大きな成果は得られないと考える。（かじい　ひろのぶ／近畿大学講師）



写真提供　株式会社丸玉屋

光の芸術

小勝　敏克
花火プロデューサー



一瞬にして闇夜を轟音と眩い光と鮮やかな色彩で覆い尽くす火の芸術、火のエンターティンメント――花火。

花火ショー、或いは花火大会での花火デザインやプログラムを創る際に、与えられた花火ショー、或いは花火大会の会場である夜空という空間の広さと奥行き、それに高度がどの程度確保出来るかを最初に考える。

広い空間が使用可能な場合は、８寸玉や尺玉を打揚げることが出来、また数カ所から様々な花火を立体的に打揚げることも出来る。

１発の花火は自らの命を夜空で咲かせることにより、その造形や精秒な色彩の変化、更に一斉に星が夜空に消える際の潔さ等の点から、芸術としての存在価値が問われる。数十発、時には数百発もの花火を数カ所から立体的に打揚げる花火は、デザイン性や表現力、バランス、タイミング更に色彩等がいかに魅力的に構成されているか、エンターティンメントとしての質にその価値が問われる。

頭の中に光と色彩に溢れた様々な花火を思い描きながら、如何に迫力があり、魅力的な花火ショーを造り上げるかを考えている。

（おがつ　としかつ／株式会社丸玉屋代表取締役社長）



回廊から眺めるプールサイド　撮影　東出清彦

住友製薬研修所

光――心の浄化作用

日建設計

新たなことを修得するには、緊張や集中だけでなく緩和ということも必要である。

緊張の空間と緩和の空間。この相反する性格の空間をどう融合させるかが、研修所という知識の修得の場を設計する上でのテーマであった。

ここではパティオのような屋内プールが研修ゾーンの中心である。機能的な研修室に回廊を介して取り囲まれたこの空間は、研修生たちに一日を通してさまざまな表情を見せる。

プール上部のトップライトから取り込まれた光は、しっとりとした木製デッキの床に吸いこまれ、また、なめらかな水面に反射してきらきらと輝く。トップライトを支える集成材の梁やその間を流れてゆく白い雲、空中を渡るブリッジがこの水鏡に映し出される。

プールサイドの一面は、透明感を損なわぬよう大きなガラス面としているが、玄関ポーチからの視線をやわらげるため、光と影をつくりだす穴のあいた陶器製のブロック壁を立てた。そこを吹き抜けるそよ風は、ときに花や青葉の香りを運んでくる。時間や季節の移ろいを映し、光に満ちたこの空間には、常に溢れ出る水の音が静かに響きわたり、見るものの心を清浄化してくれる。

研修の間の移動や休憩の時、研修室から回廊へ一歩出ると、必ずプールサイドが目に入ってくる。研修生はこの空間と向かい合い、陽に触れることの心地よさを味わう。ある時には、水面で反射した陽光が回廊の天井にゆらめくさまを見ながら、ほっと一息ついて研修の緊張を解くのである。そしてまた、新たに学ぶための心の準備をする。

夕暮れ、プールサイドは昼間のひかりの空間からあかりの空間へと変わり、ポーチのブロック壁はシルエットとなり浮かび上がる。その向こうから昼間の疲れを癒す研修生たちのはしゃぐ声や、水音が聞こえてくる。

彼らは3カ月という長期にわたる研修の後、ここを巣立つ。「研修所」はこれから活躍する彼らの、企業人としての原点となるだろう。ここでの体験やさまざまな場面が、空間の印象とともに彼らの心の底に刻み込まれることを願っている。

（本田孝子／日建設計）



ブロック壁のシルエットが浮かび上がる玄関ポーチ



材料の境界部分に影をつくることによってコラージュ的表現を意図した。 撮影　川澄建築写真事務所

TBS放送センター

白い光のイメージ

日本設計

「照明器具が欲しいのではなく、光が欲しい」とは芸大の恩師である吉村順三先生の言であるが更に私なりに考えるならば、「建築には光と影が欲しい」と思う。一方テレビとは虚像の世界であり、居間の箱の中から出て来る光と影によってもたらされる幻想映像に多くの人々が涙を流し笑う。

この「TBS放送センター」はそれを創り送り出すための施設として、現在のところ世界最新最大であり、12年前我々が設計したドラマの工場である「TBS緑山スタジオ」と、この赤坂の放送センターを車の両輪としてニューメディア時代に打って出るTBSの戦略が完成を見たことになり、ここで日夜テレビマン達の手によって世界に向けて独創的な映像が発信される筈である。そしてそのための環境として「建物のデザインは日常性との訣別」をコンセプトに赤坂見附という昔からの東京の繁華街に建つこと、どちらかと言えば暗くなると目の冴えてくるテレビマンの施設であることから、夜の照明計画に重点を置いている。特に「白熱灯信仰」からの脱出を図り、ともすると光源が大きいところから影ができにくいこと、演色性に問題があったことなどから嫌われることの多い蛍光灯であるが、一方でその特長を考えると、この様な大規模施設にはたいへん魅力的である。そして、これからの中高年化する社会では陰影の効果を求めるあまりベースが暗くなり過ぎることは好ましいことではないなどの理由で「全体に白い光がどこからともなくあふれて来る」イメージで、インテリアデザインをおこなっている。

次に太陽光で見る建物の昼の形としては、できるだけ巨大なスケールをまわりの街並みに合わせて小さく見せるため、いくつもの細かい部分の集合体であるデザインとし、同一の形態で画一的に面積が覆われることのない様、色々なパターンを使って、あたかもコラージュ(切り絵)のようなグラフィカルな立面を計画している。そしてこれらの境界部分に、それぞれリブや桟や溝などを作ることによって影を作るとともに、材料もガラス・アルミ・磁器タイル・パンチングメタルなどをモザイク貼りとし、近くで見ても存在感のある建物の表情を作り、今までの超高層建築などの巨大建物にある大味な退屈さから「光と影」のあるキメ細かいデザインを目的とした。

（中間荘介／日本設計）



全体に白い光がどこからともなくあふれて来るイメージ



寝室　撮影　大竹静市郎

O邸

〈真〉のインパクト?

北島道生



路地より周りとともに

建築の世界がとても汎いので、建築家にも取組みのいろんな仕方が生まれるようです。すばらしい視空間を攻める建築家には機能空間／生産技術まで到達するのが仲々大変でしょうし、逆に機能空間から攻める建築家では美しい視空間に至るのはほど遠いようです。もちろん、建築家の個人資質がその背反を超克する稀な例も在りはします。特例的なすばらしい建築をいくつか創るのが大切なのか、それほどではない好ましい建築を数多く生むのがよいのかさえ、人それぞれの判断ということに今の処なっているようです。

文化が現実を先導したことは、歴史的には無いようです。文化はいつもすでに起きた現実の集積を宥和し、将来の規範を示すべくあるのだと思えます。現実そのものはいつもそれなりのインパクトを表現としても有っています。それは当然なのであり、至当な存在がインパクトを持たない筈はありません。

形式的な美しさをひたすら求めその完成度を誇るのも素敵ですが、他方、いろんな真実の複合体へ一歩迫ろうと努力すればそれなりのインパクトがしぜん芽生えるはずです。それは〈美〉のインパクトであるより、視覚を通じた〈真〉のインパクトかもしれません。ただし保証された出来事というより、かすかな期待といった処でしょうか。それでもこの方が世の役に立つようには思えませんか!

自然の動／植物も自然の人間もとても美しい—自然と自己存在の肯定のために—そう私達はプログラムされているはずです。殊更に見るため／見られるために人為的に創られる人や事物—文芸—が、自然より美しいと誰が決めたのでしょう?もちろん人間の営為は美しい筈です。けれど、どちらの方角へ向けた営為がより美しく有用なのでしょうか。ここで求められたのは、たしか〈光がつくる空間…〉だったと思います。対して、お見せしているのは昼も薄暗く冷い屋内に光るダイクロイック・ミラー・ランプの写真の上のハレイションに過ぎません。それも企図したというより、灯具の選択と写真の撮り方で、たまたまそうなったという方が近いでしょう。

それでもそれなりの雰囲気は在る—それが建築の現実と思ってはいけないでしょうか?

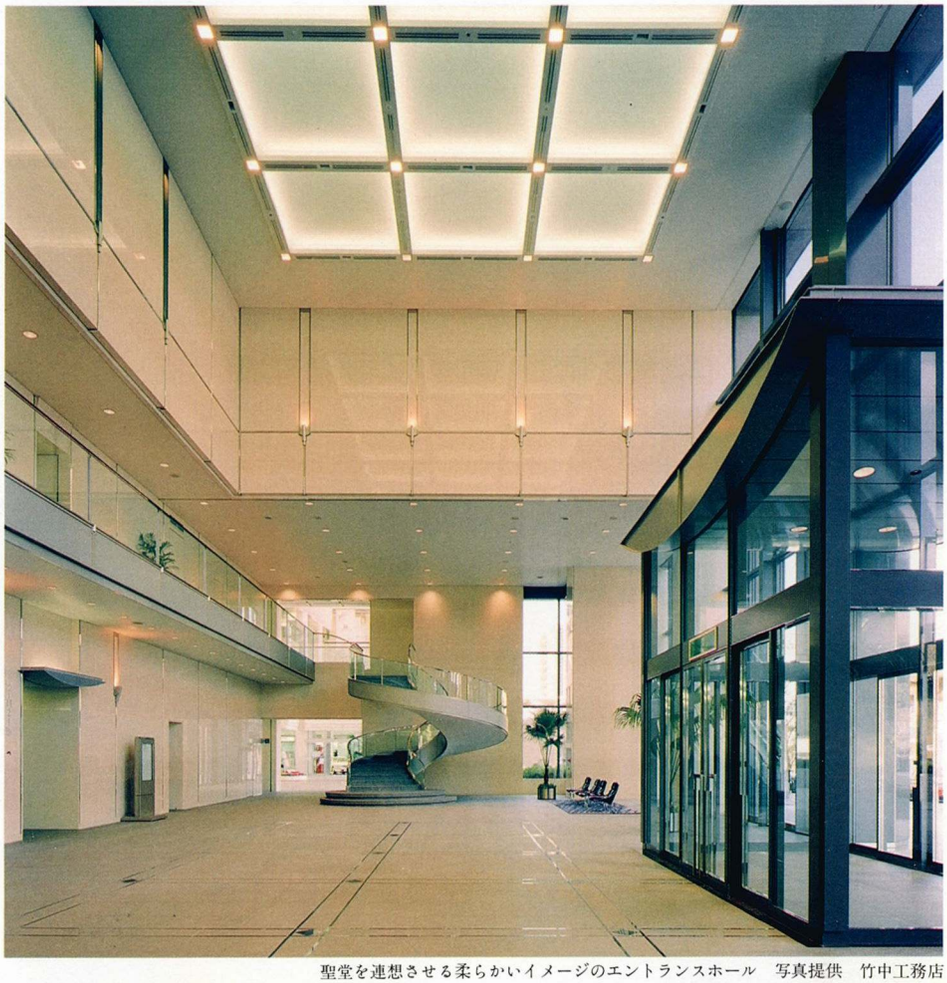
（きたしま　みちお／北島道生アトリエ）



トップレストランエレベータホール



1階エレベータホール



聖堂を連想させる柔らかいイメージのエントランスホール　写真提供　竹中工務店

千里朝日阪急ビル

空間展開の一手法

竹中工務店



全景

ドイツの哲学者カッシーラは「象徴の哲学」の中で、「場所の感覚と光の印象に対する感受性は人間の知性の最も基本的な根深い現われである。」と述べている。人間の知性のこうした特質を巧みに利用しているのがゴシックの聖堂建築であり、ステンドグラスの壁から発せられた「聖なる光」によって、内部の宗教的空間が立ちあらわされている。正面入口より主廊を通り、交叉部さらに内陣へとつづく一連の空間は、各々特徴のあるデザインの中に共通のイメージと、それらを貫くストーリーが仕組まれており、全体としての統一感を出している。そこでは光の演出が造形デザインと一体となり、場面を特徴づけている。明から暗、動から静、水平から上昇と、様々な展開が用意された空間の流れは人の心を揺り動かす一つのストーリーを形づくっている。

千里朝日阪急ビルの三層吹抜エントランスホールは、オフィスの玄関としての風格に加え、トップレストランへのアプローチとしての華やかさを持つ空間として設計した。建物全体の、特に公共部の照明計画は聖堂を連想させるような柔らかいイメージを醸し出す間接照明を多く使用している。

このエントランスホールでも天井間接照明をベースとし、比較的色温度の低いスカイビームのダウンライトとハロゲンランプのブラケット照明をアクセントとし、全体に整えられた中にも暖かさの漂よう空間とした。壁面にライン状アッパーライトを設けて上昇感を演出したEVホール、さらに間接ペンダントとハロゲンダウンライトを用いたEV内部は、エントランスホールの雰囲気を引き継ぐ空間となっている。このような「起」「承」の脈絡の中に「転」を与えているのが、基準階EVホールとトップレストランのEVホールである。基準階EVホールは間接照明の制御のきいた光で一種の緊張感を出し、「結」としての執務空間を引き立たせており、トップレストランのEVホールはニュートラルな色温度の蛍光灯ダウンライト下部にアルミパンチングメタルのシェードを設け、光と影の演出により、レストランのプロローグとして計画した。光の演出と造形デザインとの調和で建築空間を一連のストーリーとして展開する手法は、古くて新しい課題として、今後共研究を重ねてゆく必要を感じている。

（赤松千州／株式会社竹中工務店設計部課長代理）

光がつくる風合の世界

鈴木　克彦

光との出逢い

人工照明への依存率が高くなった現代社会では、豊かな表情をもつ光を見かける機会が少なくなったが、心深く印象に残る光の世界には、自然界から学ぶことが多々ある。本特集号では、各界で活躍する方々に光に対する思い入れを紹介していただいたが、私自身も光との様々な出逢いがあった。

国宝の茶室として有名な有楽苑（愛知県犬山市）にある如庵では、外側から竹が詰め打ちされている有楽窓から差し込む光が印象的であったが、わずかの節間から見え隠れする庭の光景に触れたときの感動も忘れられない。北山杉で天をさえぎられた暗い鞍馬の山中をドライブしていたときには、突然木漏れ日で満たされた場に遭遇し、きらめき、さざめきあう無数の光の粒にドライブの疲れが癒されたものである。また、ダイビングした時の体験では、初心者であるのにディープダイブに挑戦したためにエアー切れの危機に陥り、必死に水面に戻ろうとしたときに水上から漏れてくる光を感じたときには、救いの手のように思われた光であった。

星の輝き、月や太陽の光、燃えさかる炎などの自然光は、様々な光のイメージを提示し、人々を感動させ、時としてやすらぎを与えてくれる。光そのものは何の実体もなく、空気のような存在である。だが、光との出逢いは人生の刻みである。光の遊びを知り、光を楽しむ精神を大切にしたい。

輝ける闇

谷崎潤一郎が「陰翳礼讃」で描いた闇の世界でもわかるように、私たちの生活文化の歴史を振り返れば、闇もひかりと同様に大切な存在として扱われてきたことが理解できる。しかし現代都市では、広告塔やネオン・サイン、電光掲示板の明るい光が町中に氾濫している。建築の内部はマニュアル化された照明器具の配列と、照度基準を充たすための照明計画がなされるだけで、明るさに変化のない均一な光が当たり前のようになってしまった。

夜空に煌めく星は闇を背景にしてこそ見えてくるし、美しいものである。インテリアも、ほの暗さの中でこそ映える空間があるはずである。どんなに生活環境が便利になったとしても、月のあかりや雪あかり、蛍のひかりを楽しむ感性を忘れてはならない。闇を畏怖の対象とし、「明るさ＝文化の尺度」という一元的な捉え方は改める時が来ているようである。

日本人が愛する光

日本人の嗜好・気質や気候風土に適した照明とはどのようなものであろうか。巻頭において中村昌生先生と前田忠直先生に紹介していただいた内容を見ても、西欧と日本とでは求められている光の質が異なるようである。これは毎日接している太陽光の色合いや明るさに関係していると言われるが、日本人は均質な拡散光を好み、遠近感のない空間を求める感性を大事にしているようである。絵画を見ても、西洋画では明確な陰影を用いた描写が一般的であるが、日本画では色彩のなだらかな階調によって表現する手法が多い。

つまり、日本人が求めている光の感性は、障子を透かして迎え入れる光に象徴されているようである。日本文化を象徴する「わび・さびの美意識」―光るものより薄明かりのものを大切にする精神、慎み深さと曖昧さを受け入れる精神をもう一度呼び戻したいものである。

光との新たな旅立ち

快適な住環境を創造する上で欠かすことのできない照明。先史に火を発見して以来、それに工夫を加えて、灯明、燭台、ランプ、電灯から現代の蛍光灯など種々の明かりを発明し、照明技術は目まぐるしいほどの進歩を成し遂げてきた。それなのに、照明の方式は明治・大正時代から天井中心の１灯吊り下げ形式の悪習が蔓延っている。

アイデンティティ創出の時代と言われる今、私たちのライフスタイルをじっくりと見直し、日本人に適した感性豊かな光環境を創造し、新たな生活文化を生み出す時期に来ていると言えよう。

光と闇を新たに創造していくことは、新しいライフスタイルを創造する作業である。「わび・さび」の美意識を大事にする私たちの心の故郷となるような光、それは均質な拡散光に包まれた陰翳に富んだ光であろう。抑制しての歓迎の仕方に日本独自の光の扱い方が見えてくる。また、刻々と光の姿が変化する生活リズムを感じる照明も忘れかけていたものである。《ブルーモーメント》日没後のほんの一瞬に天空が青一色に染まる時間帯を逃してはならない。

本特集号は、空間を演出する光のもつ意味と扱い方を改めて考え直そうと企画したものである。本特集号を熟読すれば、平成７年の初夢には私たちに希望を与えてくれる光が見えそうである。

（すずき　かつひこ／京都工芸繊維大学助教授・工博）

INAX

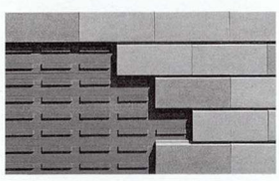
それは、ベルパーチから始まった。
そして、ベルパーチから進化する。



さらにパワーアップその1．低価格へ進化。
ニーズに応えて低価格の「ベルニューズ」登場。

品質で、価格で、いつも先を行く「ベルパーチ」。

いまでは、常識になっている「専用下地材にタイルを引っ掛けて張る」、乾式工法を初めて開発したのがINAXのベルパーチ。駆躰への負担が軽く、地震にも強いとあって、木造・鉄骨造住宅の外壁にタイル張りを実施するスタンダート工法として着実に定着してきました。そして今、高品質はそのままに低価格の「ベルニューズ」が加わりさらに強力にパワーアップ。また、9種類62色とそのラインナップを充実。他の類似製品を大きくリードします。



さらにパワーアップその2．品揃えで進化。
9タイプ62色の豊富なバリエーション完成。

- ■木造・鉄骨造住宅用外壁タイルのトップブランド。
- ■いつまでも住宅の美観を守り、資産価値を高めます。
- ■乾式工法だから、工期が短く確かな仕上がり。
- ■認定店による責任施工体制を全国にネットワーク。

木造・鉄骨造住宅の外装に。

ベルパーチ

住宅用乾式外装材

株式会社INAX 東京本部　〒160 東京都新宿区西新宿一丁目6番1号　新宿エルタワー　☎03−3343−1700



空　間　無　限

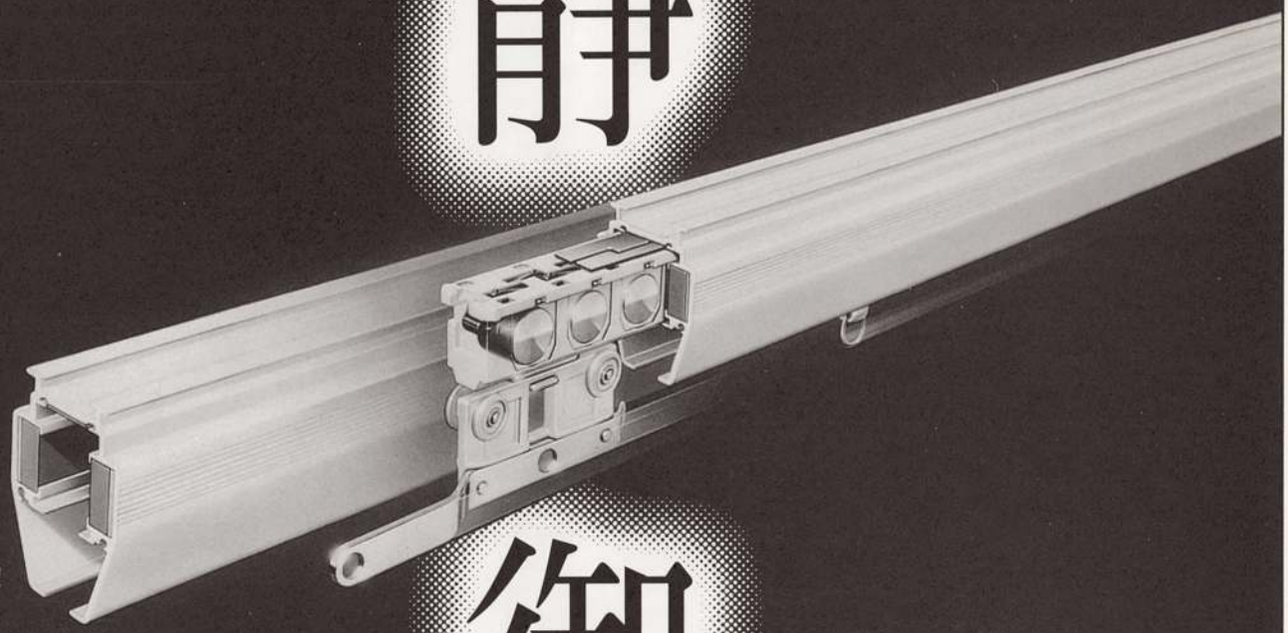
太陽光の角度によって時と共に変化する壁面
タイルのわずかな凹凸が表情を際立たせる。
ある時は壁面の背後に別の空間を感じさせるほど微妙な
無限のリズムの中の陰影、
タイル一枚一枚がまるで意思をもっているかのように語りかけてくる。
TOTOエクステリアタイル。

TOTOエクステリアタイル

カタログをご希望の方は、〒530 大阪市北区曽根崎2-3-7 梅新第一生命ビル東館 東陶機器㈱ 大阪支社までご請求ください。☎06(364)1181

TOSO

静御



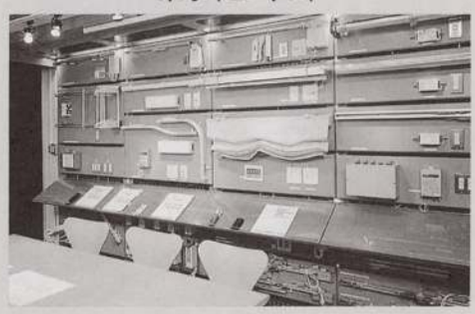
静けさ快適さ、高齢化社会の窓辺を先取り。
画期的なリニアモーターカーテンレール。

窓辺に、リニアの静けさ。あの超高速輸送リニアモーターカーの原理を応用したトーソーだけの画期的なテクノロジー、リニアモーターカーテンレール。開閉音が静かでスピーディ。コンパクトでシンプルな形状は、窓辺のすっきりとした外観を実現。電動でも手動でもスムーズに操作ができ、ワイヤレスも可能。"人にやさしい" 先進技術が随所に生かされたリニアモーターカーテンレール「NEWベステック」「カーブベステック」。高齢化社会の住空間にハイクオリティの快適さを提案します。
21世紀へ、窓辺の進化は、トーソーから。

リニアモーターカーテンレール

NEWベステック
カーブベステック

多彩な電動システムを展示しています。
トーソーショールーム WIC(ウィック) ステーション
東京(セントロ)



電動ウィンドウエレメントのディテールや操作システムの確認ができるテクノスタジオや、操作コーナーがあります。ぜひご利用ください。

●営業時間／AM10:00～PM5:30 ●定休日／土・日曜日、祝祭日
〒107 東京都港区赤坂7-10-17 フォンテ赤坂ビル2F
TEL.03-5561-0566(代)

ご希望の方に「電動商品総合カタログ」をさしあげます。

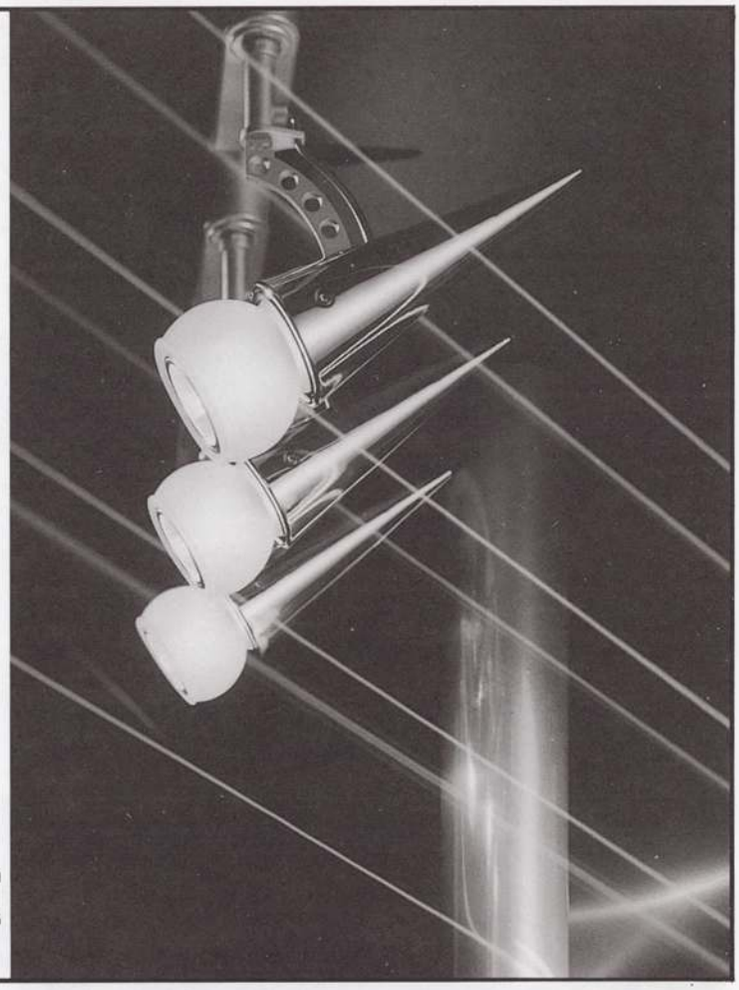
トーソー株式会社 〒104 東京都中央区新川1丁目4-9

営業開発部：〒104 東京都中央区新川2-1-5伊坂ビル5F TEL 03-3552-4471 ●お問い合わせは、支店、営業所まで。

札 幌 011-841-3731　宇都宮 0286-25-3806　東 京 03-3552-2961　横 浜 045-864-5581　長 野 0262-25-5901　京 都 075-812-6651　岡 山 086-244-2222　福 岡 092-947-2661
仙 台 022-288-8415　つくば 0297-45-5621　多 摩 0425-25-0431　厚 木 0462-95-5171　名古屋 052-804-1021　大 阪 06-260-0823　広 島 082-255-3551　鹿児島 0992-59-2911
新 潟 025-267-1241　大 宮 048-654-4081　千 葉 043-245-6801　静 岡 054-283-5011　金 沢 0762-43-5558　神 戸 078-382-0173　高 松 0878-68-0434

あかりのハーモニー。

空間を彩る光と影のハーモニー。
くつろぐあかり、華やぐあかり、爽やかなあかり、魅せるあかり……。
多彩なあかりの表情が、空間を美しいハーモニーで満たします。
さまざまな空間を、あかりでプロデュースするDAIKOは、
国境やジャンルを越えた自由なスタンスで、
世界の感性をあかりとともにお届けしています。



DAIKO
大光電機株式会社

●本　社/大阪市東成区中道3-15-16 毎日東ビル 〒537 Tel.(06)972-5555 Fax.(06)974-5569
●札幌支店/Tel.(011)561-8067 ●仙台支店/Tel.(022)284-5611 ●東京支店/Tel.(03)5600-7771
●東関東支店/Tel.(048)652-1015 ●西関東支店/Tel.(045)471-5123 ●名古屋支店/Tel.(052)821-6276
●大阪支店/Tel.(06)972-8861 ●広島支店/Tel.(082)247-6711 ●福岡支店/Tel.(092)531-3164
●東京特機支店/Tel.(03)5600-7773 ●大阪特機支店/Tel.(06)771-2828

A&i
快適を科学します

効率の良い導光方式だから可能になった、薄さ13㎜。
しかも、表示面輝度が高く、視認性も十分に確保し、
洗練された建築空間にスッキリ調和するフォルムです。

❶スリム&コンパクト
ランプ直径4㎜の小さな冷陰極蛍光灯を採用したため、薄さ13㎜とスリムで有効表示面積も約1/4(当社従来品比)と小型化。

❷高視認性
高輝度の新光源と効率の良い光学設計で、表示面輝度は約1.5倍(当社従来品比)にアップ、誘導効果の高い視認性を確保。

❸省エネルギー
新光源と新開発AC/DC兼用インバータの組合せで、消費電力を約1/3(当社従来品比)に抑え、大幅な省エネが実現しました。

❹省メンテナンス
ランプ寿命は約20,000時間の長寿命設計でメンテナンスを省力化。ランプモニター付で交換時期もひと目でわかります。

通産省選定グッドデザイン'94地球にやさしいデザイン賞受賞。
●環境との調和に配慮した商品として評価されました。

当社従来品比
1/4サイズ。
ナショナル**高輝度誘導灯**
コンパクトスクエア

資料のご請求は、〒571 大阪府門真市門真1048 松下電工・電機マーケティング部 ☎(06)908-1131

スリムさにも、ご注目。



天井埋込型10形(小形相当)**FA1145ENL**(片面型) 標準価格**30,000**円(税別)

National 松下電工

yamada

表情多彩

照明は空間づくりの重要なポイント。
人々に、常に気持ちよく空間を利用してもらいたい・・。
山田照明ではさまざまな条件やニーズを満たすために、
多種多様な照明器具を用意。ベストなあかりで
ひとつひとつの空間を、個性的・機能的に演出し
表情多彩な空間創造を力強くバックアップしています。



宮崎県立芸術劇場（宮崎）

山田照明株式会社

■ 本社／ショールーム　〒101 東京都千代田区外神田 3-16-12 TEL.03-3253-5161（代）

● 仙台支社／ショールーム 〒980 仙台市青葉区二日町 11-11（ANDOビル） TEL.022-267-1630（代）
● 横浜支社／ショールーム 〒220 横浜市西区南幸 2-20-1 TEL.045-311-1731（代）
● 大阪支社／ショールーム 〒542 大阪市中央区日本橋 1-21-23 TEL.0 6-643-3421（代）
● 福岡支社 〒810 福岡市博多区店屋町 8-30（フコク生命ビル） TEL.092-712-5151（代）
● 札幌営業所 TEL.011-811-2215（代） ● 秋田出張所 TEL.0188-65-2550（代） ● 北関東営業所 TEL.0273-63-1442（代） ● 宇都宮出張所 TEL.0286-60-1381（代） ● 千葉営業所 TEL.043-284-2601（代）
● 静岡営業所 TEL.054-283-9788（代） ● 名古屋支社 TEL.052-252-5161（代） ● 広島営業所 TEL.082-293-6119（代） ● 高松営業所 TEL.0878-62-2531（代） ● 鹿児島営業所 TEL.0992-58-0031（代）

建築技術選書〈特装版〉
企画/日本建築協会
学芸出版社
〒600京都市下京区木津屋橋通西洞院東入
(Tel)075-343-0811(Fax)075-343-0810

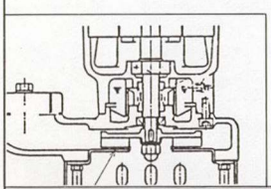
水にまつわるトラブルの事例・解決策

建築編

「建築漏水」編集委員会編
B5判/208頁/2色刷
定価4120円（本体4000円）

設備編

「設備漏水」編集委員会編
B5判/184頁/2色刷
定価4120円（本体4000円）



解決のノウハウ集

あり得ないと思っても，不具合となっているのが現実
各社で実際に生じた事例をもとに整理・分析
現状⇨原因⇨処置⇨再発防止策までを図解で詳説
トラブル予防と対策にすぐ役立つ《チェックリスト》掲載
デザイナーを目指す人，施工監理のオーソリティーを志す人へ

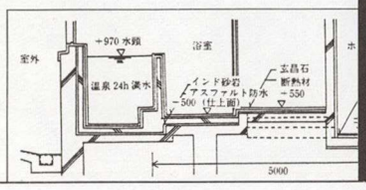
建築編

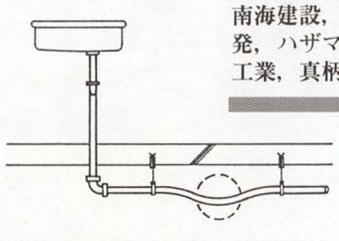
大林組，鹿島，清水建設，竹中工務店，大成建設，松村組の6社を中心に，実際に発生した事例をもとに社内教育メンバーが整理・分析

〈目次〉
陸屋根/勾配屋根等/パラペット
外壁/サッシ・開口部/トップライト/出入口まわり/バルコニー
樋/床・その他/地下/結露
用語解説/チェックリスト

設備編

淺沼組，朝日工業社，安藤建設，奥村組，鹿島，金山工務店，熊谷組，鴻池組，五洋建設，佐藤工業，清水建設，新菱冷熱工業，須賀工業，住友建設，西武建設，錢高組，大成建設，大和ハウス工業，竹中工務店，鉄建建設，戸田建設，東海興業，東急建設，東洋建設，飛島建設，南海建設，西原衛生工業所大阪店，西松建設，日産建設，日本国土開発，ハザマ，長谷工コーポレーション，フジタ，不動建設，前田建設工業，真柄建設，松村組，三井建設の38社が情報提供





〈目次〉
給水/給湯/排水
器具まわり
換気/空調/電気/その他/腐食
チェックリスト

構造の頁　235

無溶接継手杭

山田　悟　やまだ　さとし
日本高圧コンクリート㈱東京支社技術部長、無溶接継手研究会

従来、既製コンクリート杭に用いられている継手は、現場において溶接によって施工されているが、このたび全く異なった考えで溶接をしないで簡便な嵌合方式による継手構造を開発し、㈶日本建築センターの評定を取得した。

本継手は、**図1**に示すように、端部金具、内リングおよび外リングから構成されている。

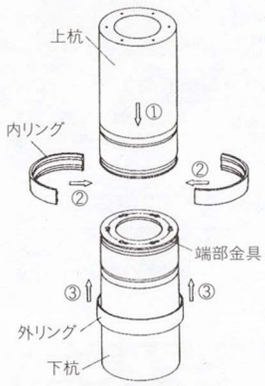


図1　無溶接継手概要

端部金具は、端板と補強バンドからできており、端板は下杭と上杭を突き合わせたときに内リングで挟み込むことができるような特殊な形状をしている。内リングは、二つ割りの構造になっており、内側は上下の杭を挟み込むことができるように2本の突起が付いている。外側は上にいくほど厚くなるテーパー状になっており、表面には一面に鋸歯状の溝が刻まれている。この溝は、同様な溝の刻まれた外リングの内側との間でかみ合うような構造となっている。外リングは、内側がテーパー状になっており、二つ割りの内リングの外側から拘束する役割を持っている。

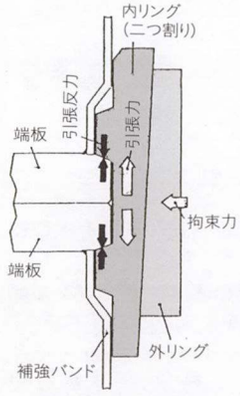


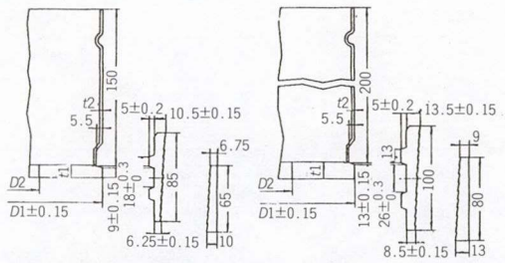
図2 無溶接継手の基本原理

本継手の基本原理は、テーパーの付いた外リングを油圧ジャッキを使ってはめ込むことによって半径方向に拘束力を発生させ、これによって内リングの突起を介して上下の杭の端板を締めつけ、拘束しようとするものであり、**図2**に基本原理を示す。油圧ジャッキによる嵌合力は、杭径300～400㎜の杭については15.2t、杭径450～600㎜の杭については24.2 tとしている。

嵌合力の大きさは、嵌合時の外リングの円周方向の発生応力を620kg/㎠とすることにより、継手としての性能を維持しつつ、外リングに発生する応力が許容応力度以下に納まることを意図して決定されている。

継手の構成

無溶接継手杭は、外リング、二つ割りになった内リングおよびこの継手用に製作された端部金具から構成されており、これらの形状寸法は**図3**のとおりである。



杭径300～400㎜用　　杭径450～600㎜用

図3　無溶接継手の形状寸法

無溶接継手杭の特長

①継手は、PHC杭本体以上の曲げ・せん断・軸引張りの耐荷力がある。
②杭施工において、打込み杭工法および埋込み杭工法のいずれにも適用できる。
③特殊な技能を要せず、簡単にセットすることができるので、施工能率が向上し、工期の短縮や省人化が可能である。
④気象条件の影響を受けにくく、安定した施工作業が可能である。
⑤溶接が不要なため、化学工場などの火気に対して注意を要する場所や、埋め立て地盤で可燃性ガスの発生しやすい現場でも使用できる。
⑥継手は、工場生産であるゆえ品質が一定であり、信頼性のある製品を供給することができる。

無溶接継手杭の性能評定事項

この継手は、既製杭相互を接続する目的で、大同コンクリート工業㈱、日本高圧コンクリート㈱、前田製管㈱、シントク工業㈱の4社によって共同開発されたもので、各種の試験によってその性能が確かめられ、平成5年10月14日付けで㈶日本建築センターの評定（評定番号 BCJ-F761）を取得した。

以下に、評定事項を抜萃して示す。

1．適用範囲
1）杭径　300～600㎜
2）杭種
(1) PHC杭　A種、B種、C種
(2) 拡径杭　A種、B種、C種
(3) (1)、(2)と継ぐ PHC杭D種、E種、F種
(4) (1)、(2)と継ぐＳC杭
(5) (1)、(2)と継ぐ PRC杭
3）工法
(1) 打込み杭工法
(2) 埋込み杭工法
　(プレボーリング、中掘り工法)

2．長さ径比による長期許容軸方向力の低減率―
$(L/D-85)$ %とする。
　ここに、L：杭の長さ（m）
　　D：杭径（m）
3．継手による長期許容軸方向力の低減率―
$5n$ %とする。
　ここに、n：継手の箇所数

無溶接継手杭の施工

継手の施工は、下杭設置後外リングを下杭に挿入して上杭を建て込み、上杭と下杭の端板突起部に内リングをかみ合わせる。その後、油圧ジャッキを装着し内リングの外面に外リングを所定の嵌合力で嵌め込み施工を完了する。

継手の施工フローを**図4**に示す。

施工における管理ポイントは、油圧ジャッキの嵌合力とはめ込み代の確認である。嵌合力は、作業開始前にコントロール装置によって設定しておけば、自動的に油圧駆動装置が停止するようになっており、確実に嵌合ができるようになっている。

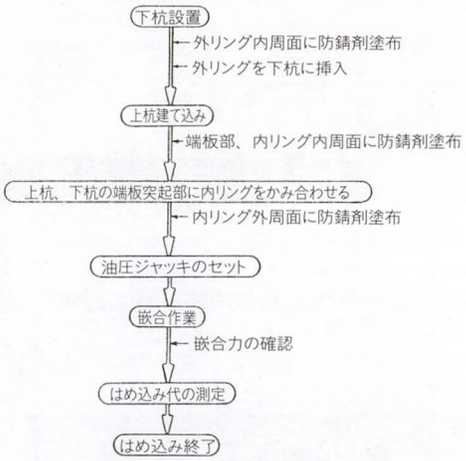


図4　無溶接継手杭の施工フローチャート

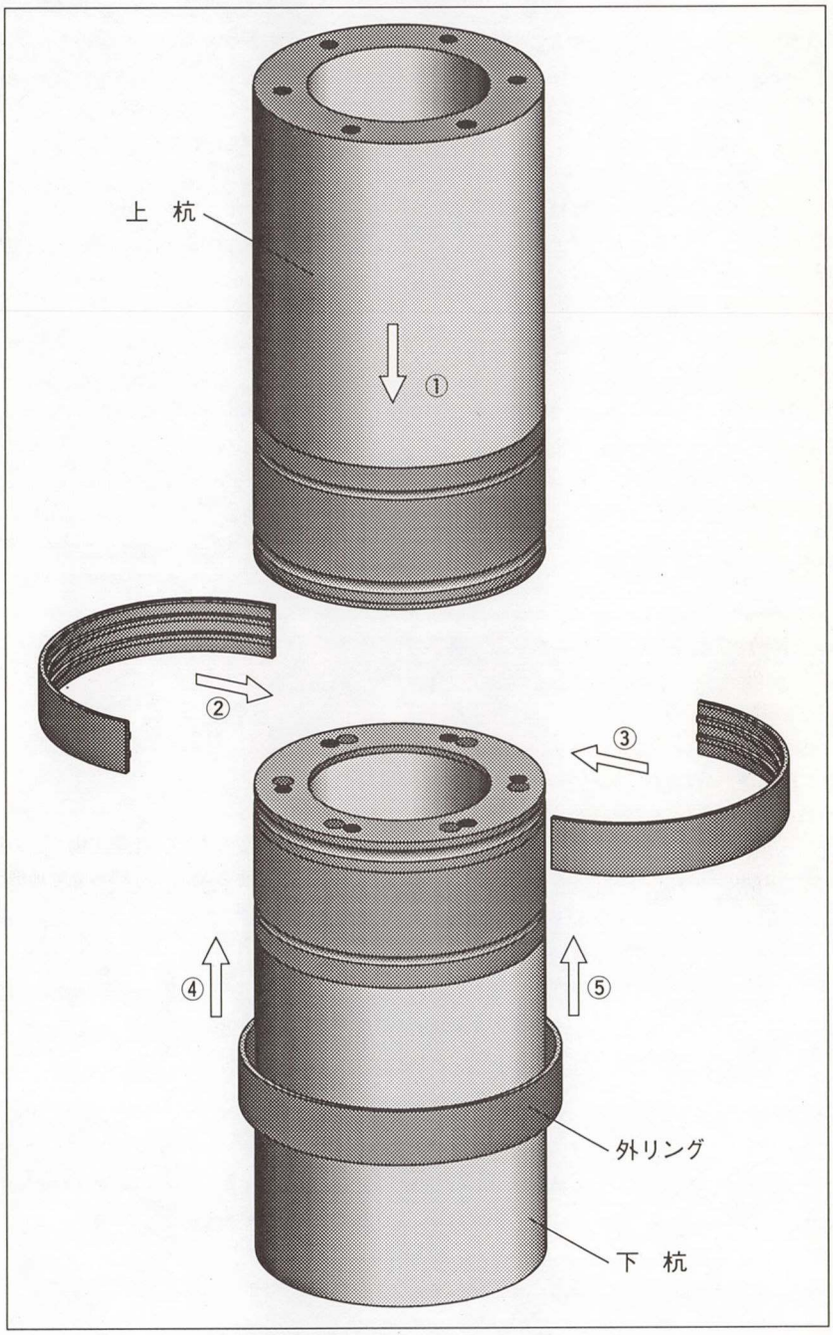
はめ込み代は、主として内リングの製作許容誤差に対するはめ込み状態をチェックするもので、杭径300～600㎜までは、2～18.5㎜の範囲に入っていることが確認されていなければならない。実際の現場での施工例を**写真1**に示す。


写真1　無溶接継手の現場施工状況

● (財) 日本建築センター評定取得継手 ●

無溶接継手杭

継手の概念を変える画期的なペアリングジョイント。



従来、コンクリートパイルの継手構造は、溶接式ですが、このたび全く違った思考による無溶接継手杭を開発いたしました。

この新方式の継手は、テーパー構造を持った内側と外側のリングでコンクリートパイルの端板をしっかりと固着させ、溶接式と同等か、それ以上の優れた性能を保持することのできる画期的なメカニカルジョイントです。

特　長

- 本継手は、簡単にセットすることができる。
- 工期の短縮ができる。
- 気象条件の影響を受けにくい。
- 引火のおそれがある場所でも使える。

大同コンクリート工業株式会社
東京都墨田区両国2丁目10番14号両国シティコア
〒130　TEL 03-5600-3316　FAX 03-5600-3300
連絡先：東京都墨田区両国2丁目10番14号両国シティコア
〒130　TEL 03-5600-3325　FAX 03-5600-3300

前田製管株式会社
山形県酒田市上本町6－7
〒998　TEL 0234-23-5111　FAX 0234-24-7002
連絡先：東京支店分室/東京都江東区東陽3-23-21東陽ビル
〒135　TEL 03-3649-7021　FAX 03-3649-7681

日本高圧コンクリート株式会社
札幌市中央区南二条西3丁目札幌南拓銀ビル
〒060　TEL 011-241-7101　FAX 011-231-3885
連絡先：東京支社/東京都港区西新橋1丁目4番9号TAMビル
〒105　TEL 03-3501-6261　FAX 03-3501-6788

シントク工業株式会社
東京都港区芝3丁目14番6号
〒105　TEL 03-3455-7681　FAX 03-3455-7696
連絡先：東京都港区芝3丁目14番6号
〒105　TEL 03-3455-7681　FAX 03-3455-7696

設備の頁　237

ホテル客室における換気システムと省エネルギー
―京都ホテル―

安坂　務　あんさか　つとむ
清水建設㈱設計本部大阪支店設計部グループ長、技術士（衛生工学部門）

平成２年12月31日をもって一時営業を停止し、翌年12月に着工した京都ホテルも、平成６年７月10日に新生京都ホテル（地下４階・地上16階・塔屋２階，延床面積58,842m²）としてオープンした。当ホテルでは、建物が南北を軸として配置されているため、全客室322室のうち、半数近い146室が真西を向いている。そのため、西日による室内環境の悪化・冷房負荷増大が予想された。この問題への取り組みが、計画時点からの大きなテーマであった。

京都ホテルプロジェクトでは、この西日対策として“切替ダンパー”を開発し、これを使用した“客室換気システム”が空調設備の特徴のひとつとなっている。

以下に、客室換気システムおよび客室部分における省エネルギー手法について述べる。

切替ダンパーと客室換気システム

スキンロード低減策のひとつとして、外壁回りのダブルスキン構造があり、事務所ビルなどでは、二重サッシや電動ブラインドによる事例が見受けられる。今回は、ホテル客室での新技術であり、客室の窓につけられる遮光カーテンによるダブルスキン構造を西日対策に利用し、客室環境の向上と空調負荷の低減を図っている。遮光カーテンにあたった日射は熱負荷に変わり、この熱をカーテンと窓面の間に設けられた排気口より、速やかに屋外に排出することが大きなポイントである。

スキンロード排出用に専用排気ダクトを設けるには、スペースのみならず、給排気バランス確保のための、外気導入量およびこれに伴う外気負荷の増加も問題となる。〔通常の換気＋α〕の換気量で、ユニットバス排気・熱排気の両方を有効に機能させる方法はないかを検討し、“切替ダンパー”の開発に至った。

“切替ダンパー”とは、２カ所の吸込口からの風量比の設定・切り替えを可能とした電動ダンパーで、今回の客室換気システムの要となっている（**図１**）。“客室換気システム”は、ユニットバス内に設けられた通常の排気口のほかに、カーテン・窓面間にスキンロード対応用の排気口を設け、これらの排気口の風量比を切替ダンパーにより切り替えるシステムである（**図２**）。

切替ダンパーの切り替えはフロントからのチェックイン・チェックアウト信号により行っており、チェックイン前は窓側からの排気を主とし、チェックイン後はユニットバス側からの排気を主とするように制御している。これにより、従来の客室あたりの排気量を大きく変えることなく、一般排気と熱排気の機能を両立させている。

チェックイン前の窓側熱排気により、室温および床・壁・天井の表面温度の上昇を防ぐとともに、空調の立ち上がりの良さを実現し、チェックイン時の室内環境の向上に役立っている。――ファンコイルを停止した状態で放置された客室で、ファンコイルの運転を開始し、室温が設定温度になった状態を想定したシミュレーションによれば、本システムにより、従来通りのシステムと比較して、PPD値（予測不満足率 Predicted Percentage of Dissatisfied）が、30.3から10.1（DB25℃、RH50%、気流0.5m/sec）に改善される結果となっている――。ファンコイル停止時の室温上昇による床・壁・天井の表面温度の上昇が、快適性に大きな影響を及ぼしているわけである。

今回は夏の西日対策として、このシステムを利用しているが、切替ダンパーのモードおよび風量設定を変更することで、冬季、夜間の窓からのコールドドラフト防止への効果も期待できる。

客室部分の省エネルギー

“客室換気システム”は、前述のように客室内環境の改善に寄与すると同時に、空調負荷低減の効果も狙っている。京都ホテルではこのほかにも、客室における省エネルギーについて、さまざまな検討を行った。次にあげるバルコニーも、そのひとつである。

客室階の外壁部分は、格子をモチーフとしたデザインがなされているが、この部分に避難用のバルコニーを取り込んでいる。このバルコニーについて、防災上・客室からの眺望・庇効果の各面から検討を行い、そのレベルを極力低くとり、窓面への日射時間を短くすることで、バルコニーの庇効果をより高いものにしている（**図３**）。

また、客室窓ガラスのペアガラス採用による、スキンロードの低減も図られている。

これら客室における省エネルギー手法によって、年間464Gcalのエネルギーが節約される試算結果を得ている。このエネルギー量は、総理府統計局の資料を参考にすると、約170世帯の家庭での一冬の暖房に必要なエネルギー量に相当する。

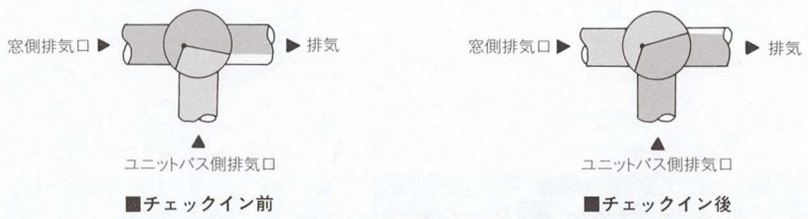


図１　切替ダンパー

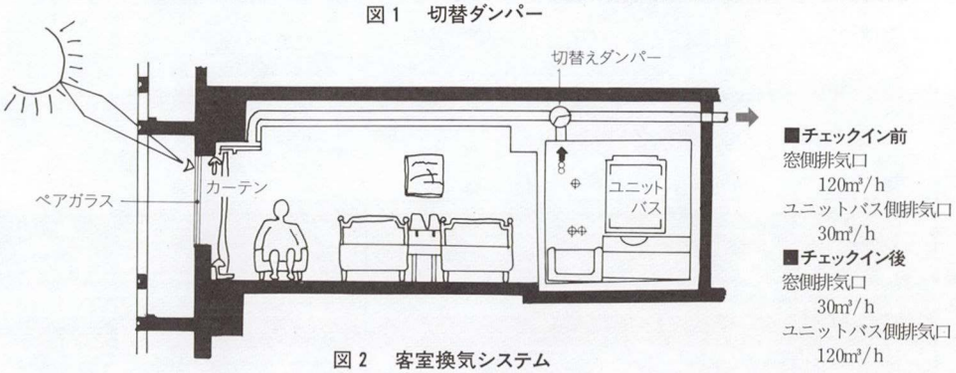


図２　客室換気システム

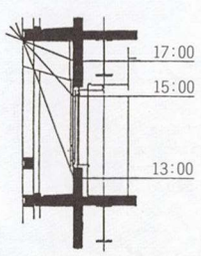
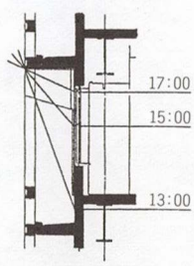
	バルコニーなし	バルコニーあり（FL±0）	バルコニーあり（FL−500）
			
外壁熱負荷	733.4Gcal/年	710.3Gcal/年	693.9Gcal/年
エネルギーメリット	0 Gcal/年	42.7Gcal/年	59.1Gcal/年

図３　バルコニーの庇効果

シーザー・ペリ展

コンセプトの端緒からどのようにデザインが発展し、完成に向かうのか、建築家シーザー・ペリの創造の過程を最近のプロジェクトを例に、模型、スケッチ、ドローイング、写真、映像等を通して紹介する「シーザー・ペリ展：アーキテクチュアオブレスポンス―建築と都市の対話をめざして―」が開催される。

また、ペリ自身が建築を語る講演会も予定されている。

■シーザー・ペリ展：アーキテクチュアオブレスポンス

会期　1995年1月13日(金)～3月13日(月)
10：00～18：00　休館日：木曜、2月19日休み

会場　フジタヴァンテ
東京都渋谷区千駄ケ谷4-6-15

主催　フジタヴァンテ、デルファイ研究所、シーザー・ペリ展実行委員会（委員長・磯崎新）

観覧料　一般800円、大高中生600円、小学生以下無料

内容　展示プロジェクト
NTT新宿本社ビル(1990～95年)、シーホークホテル&リゾート（1991～95年)、ワシントン・ナショナル空港ノース・ターミナル（1990～96年)、クアラルンプール・シティ・センター（1992～96年)、オハイオ舞台芸術センター（1991～95年）ほか

■シーザー・ペリ展開催記念講演会

シーザー・ペリ vs 槇文彦（司会：小林克弘）

日時　1995年1月19日(木)　18：30～20：30

会場　津田ホール／東京都渋谷区千駄ケ谷1-18-24

定員　490名［通訳付・参加無料・申込制・先着順］

申込　往復ハガキに希望者2名まで、各自の住所・氏名・勤務先（学校名）・電話番号・年齢と返信先住所を記入して、下記へ。
デルファイ研究所内「シーザー・ペリ講演会」
〒102 東京都千代田区四番町8-13
TEL 03-3222-5031

中国のタイル展―悠久の陶・塼史―

INAXギャラリー大阪の「中国タイル展」は、秦の始皇帝陵に立ち並ぶ兵馬俑の足元に敷かれ、漢の家々や墓を飾り、経典の宝庫・敦煌の莫高窟の床を覆い、また万里の長城を築いた「塼」を中心に、新石器時代から清朝にまで及ぶ中国陶磁史を、代表的な作例をもとに展開している。監修は山本正之氏（タイル研究家）。


千秋萬歳敷塼／漢代

会期　1994年12月9日(金)～1995年1月23日(月)
10：00～18：00
12月29日～1月4日休館

会場　INAX大阪ショールーム2F
TEL 06-539-3518

〈東孝光1966―1994〉展

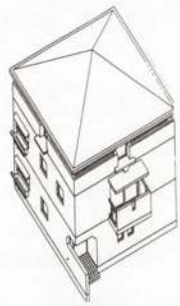
昨年、北九州市立美術館で約4カ月間のロングランとなった〈東孝光1966―1994〉展が、大阪へやって来る。1966年の自邸「塔の家1966」以来の約30年にわたる建築家東孝光の軌跡を、主要作品の紹介を通じて示し、ポリフォニー（多声音楽）になぞらえた氏の独自の設計哲学と美学を浮かび上がらせようというものである。

テーマ　「ポリフォニー：住居の原型を求めて／東孝光1966―1994」

会場　イトーキ・クリスタル・ホール
イトーキ大阪ニューオフィスギャラリー9F
大阪市中央区淡路町1-6-11
TEL 06-223-3181

会期　1995年2月2日(木)～14日(火)
10：00～18：00　土・日曜は休館

内容　塔の家1966から阿佐谷の家1994までの住宅作品を戸建て住宅10点、集合住宅2点に絞って600mm×600mmアルミフレームパネル40枚、タイトルパネル2枚に制作したものを展示。
会期中、スライドを用いた東孝光氏の講演会も予定されている。問い合わせは、東環境・建築研究所大阪へ。
（TEL 06-539-5239）



ル・コルビュジエのモチーフ：女性

ル・コルビュジエにとって重要なモチーフ、女性。単なる「美」の対象としてではなく、芸術を支えるモチーフとして女性を描き続けたル・コルビュジエの女性像の表現の変化は、彼の建築形態にも影響を与えた。今回の展覧会では、絵画（タブロー、コラージュ、スケッチ)、彫刻、文章に見られる女性表現の変化を軸に、造形活動の中に女性が果たした役割を考察する。

タイトル「ル・コルビュジエのモチーフ：女性」

会期　1995年1月23日(月)～3月10日(金)
10：00～17：00　土、日、祝日は休み

会場　ギャルリー・タイセイ　TEL 03-5381-5510
東京都新宿区西新宿・新宿センタービル

入場料　無料

展示内容　大成コレクションの作品の中から――
ル・コルビュジエとかかわりのあった女性を紹介し、女性たちからインスピレーションを受けたル・コルビュジエの仕事を紹介。
ジョセフィン・ベーカー（ダンサー）
イヴォンヌ・ガリ（ル・コルビュジエ夫人）
シャルロット・ペリアン（インテリアデザイナー）
アイリーン・グレイ（建築家）

「今、キリムがおもしろい!」

キリムは、トルコ、イラン、アフガニスタン、コーカサスの遊牧民が生み出した、ポータブルで実用的な手織りのテキスタイル。時間をかけ紡ぎ染め織ったその布地は、個性的で素朴な温かさをもち、最近、新しいインテリア素材として注目されている。

このキリムを扱う専門店ロゴバ（大阪府八尾市八尾木4-38、TEL 0729-23-7894)とハウジング・デザイン・センター神戸の主催でセミナーが企画されている。

テーマ　「今、キリムがおもしろい!」
●キリムの産地とデザイン／ナデール・モラディアン（「キリムのある部屋」著者）
●新しいインテリア素材・キリムの楽しみ方／西川純一（昭和設計、関西インテリアプランナー協会理事）

日時　1995年1月16日(月/休日)
14：00～16：00

会場　ハウジング・デザイン・センター神戸9F・HDCスタジオ

定員　80名（定員になり次第、締め切り）

受講料　一般1000円、HDC会員500円

申込み　はがき・FAXで下記まで。
ハウジング・デザイン・センター神戸
HDC神戸スペシャルセミナー係
神戸市中央区東川崎町1-2-2　〒650
FAX 078-366-2710　TEL 078-366-2700

SPACE DESIGN SYMPOSIUM

大阪ガス、大阪ガスインテリアデザインスクールの主催で、来るべき高齢化社会に備え、安心して住まえる環境づくりのために何をすればよいのか、ソフト、ハードの両面から考えるシンポジウムが開かれる。

テーマ　「長寿社会の住まいづくりと環境を考える～あらたな技術的可能性と問題点を探る」

日時　1995年1月19日(木)　14：00～16：30

会場　大阪ガス本社ビル・3Fホール
大阪市中央区平野町4-1-2

参加費　1000円

定員　250名（要予約・先着順）

申込先　大阪ガスインテリアデザインスクール
TEL 06-262-4089　FAX 06-262-7202

■基調講演
岩井一幸氏（東京家政学院大学教授）

■パネルディスカッション
コーディネータ／田中直人氏（神戸芸術工科大学助教授）
岩井一幸氏（東京家政学院大学教授）
石東直子氏（石東都市環境研究室）
市川禮子氏（特養老人ホーム「喜楽苑」施設長）
山藤　泰氏（大阪ガスエネルギー・文化研究所所長）

"ゆりかごから墓場まで"報告会

㈳日本病院建築協会の海外視察団は、昨年9～10月にイギリス、アイルランドの保健・医療・福祉施設を視察してきたが、その報告会が開かれる。

日　時　1995年2月20日(月)　14：00～16：30
会　場　建築会館ホール　東京都港区芝5-26-20
テーマ　イギリス・アイルランドの保健・医療・福祉施設―"ゆりかごから墓場まで"の理想と現実
講　師　上野　淳氏（東京都立大学教授）ほか
定　員　150名（先着順）
会　費　4000円（報告書代含む）
問合せ　㈳日本病院建築協会　TEL03-3453-9904
東京都港区芝5-26-20　建築会館

「福祉のまちづくり」アイデア募集

平成5年4月から施行されている「福祉のまちづくり条例」の趣旨のもとに設立された"「みんなでやさしいまちづくり」大阪府民会議"では、建物や道路、電車、バス、自動販売機など、街の中にあるものにちょっと工夫すれば、障害者や高齢者がもっと使いやすくなるのに…、そんな工夫についてのアイデアを募っている。

募集対象　まちの中にあるものを、障害者や高齢者がより使いやすくする工夫についてのアイデア（すでに商品化されたアイデアや、他のコンクールでの入賞作品は対象外）
応募資格　特になし。個人でも団体でも可。
応募締切　1995年2月14日(火)　当日消印有効
応募先　所定の応募用紙（アイディアカード）―大阪府内の府税事務所に用意―に必要事項を記入し、郵送で下記あてに。
大阪府福祉部福祉政策課福祉のまちづくり室　TEL06-941-0351（4145）
〒540 大阪市中央区大手前2-1-22
選　考　「みんなでやさしいまちづくり」大阪府民会議が設ける審査委員会で選考。審査結果は、1995年3月上旬に本人に通知。
賞　最優秀賞1点(賞状、副賞20万円、記念品)
優秀賞2点（賞状、副賞5万円、記念品）
佳作数点（賞状、副賞1万円、記念品）

給排水衛生設備における騒音・振動低減シンポジウム

給排水衛生設備の騒音・振動の、現状における問題点や検討事項を整理し、㈳空気調和・衛生工学会の統一した見解としてまとめた「給排水衛生設備騒音・振動低減設計・施工の手引」を解説するシンポジウムが、空気調和・衛生工学会の主催で開催される。

日　時　1995年3月17日(金)　13：30～17：30
会　場　工学院大学0312教室（3階）
東京都新宿区西新宿1-24-2
TEL03-3342-1211
定　員　150名（先着順）
参加費　4000円（テキスト代含む。当日支払い）
申　込　シンポジウム"給排水衛生設備における騒音・振動低減設計・施工"と表記し、氏名・勤務先・住所・電話番号を記入のうえ、ハガキまたはFAXで下記あてに。
㈳空気調和・衛生工学会給排水衛生設備委員会F係　〒169 東京都新宿区北新宿1-8-1
TEL03-3363-8261　FAX03-3363-8266

プログラム概要
- 騒音・振動に関わるクレームの現状／石井和俊氏（環境調査事務所）
- 低減設計の考え方／青木一義氏（西原衛生工業所）
- 建築・設備計画上の留意点／角田　明氏（総合設備コンサルタント）
- 各騒音別の低減設計・施工上の留意点／前田幸俊氏（新菱冷熱工業）
- 建築・設備各部位の設計・施工上の留意点／平松友孝氏（大成建設）

懸賞論文募集

㈳日本建築積算協会は社団法人として、今年7月には20周年を迎えるが、この20周年を記念して、一般と学生の部門に分けて懸賞論文を募集する。

応募資格　日本国内居住者に限る。
論文課題　イ）一般部門（大学院生を含む35歳まで）
「21世紀に向けた建築積算の使命」
ロ）学生部門（高校生、専門学校生を含む）
「次代の建築文化に何を期待するか」
提出締切　1995年3月31日（当日消印有効）
原稿提出　㈳日本建築積算協会・懸賞論文係(〒108 東京都港区芝5-26-20　TEL03-3453-9591 FAX03-3453-9597)へ簡易書留で郵送すること。
詳細問い合わせは、FAXで上記へ。

平成6年度「大阪市ハウジングデザイン賞」決定

魅力ある良質な民間の集合住宅を表彰する「大阪市ハウジングデザイン賞」に、オークプリオタワーとグラン・フェルティタ陽ケ丘が選定された。

また、平成6年度は、大阪の都心約15haの工場跡地に、18棟・約3500戸の集合住宅、ショッピングセンター、スポーツプラザ、美術館のひろがる「ベル・パークシティ」が、その事業内容を高く評価され、「ハウジングデザイン賞」制度創設以来初めて、大賞に選ばれている。

オークプリオタワー　大阪市港区弁天



グラン・フェルティタ陽ケ丘　大阪市天王寺区



大賞/ベル・パークシティ　大阪市都島区友渕町



Report

吹田市西尾家の建物と武田五一

足立　裕司

神戸大学助教授

日本建築学会によって全国に残る近代洋風建築の調査が行われてから既に15年が経つ。その間に多くのリストアップされた建物が失われた。その反面、時折ではあるが新しく発見される建物もある。特に和風建築についてはこの調査段階ではほとんどノーマークであったため、そうした嬉しい情報の多くが近代和風と呼ばれる建物に属しているようである。ここに紹介する西尾邸もこれまで知られていなかった建物であり、しかも最近では出色のものとして注目される。

西尾邸は吹田市の旧市街地の中心の内本町に位置するが、広大な敷地全体が高い塀で囲まれているため外部からは主屋の２階くらいしかみることができない。近代和風建築についても近年、日本建築学会を中心として調査が行われているが、和風建築は量も多く、また外部からその建物の価値を窺い知ることができないものが多く、この西尾邸などはその典型例ともいえそうである。

今年４月、武田五一の設計による建物が吹田にあるという大阪市立大学の北浦かおる先生、谷直樹先生の情報で始めてこの建物を訪れた。長屋門を入っての最初の印象はむしろ主屋の壮大さであった。武田五一が手掛けたという離れは平屋の数寄屋造であり、どちらかといえば目立たない建物であった。今は主屋との関係で裏側からのアプローチを取っているため、余計に印象が薄いのかも知れない。

近代の和風住宅は外観から判断しにくいといったが、内部を見てもまだ判らないことも多く、建設年代や建築家や大工、造園家といった建設経緯を知ることが必須の条件となる。近代和風の調査が一朝一夕には終わらない所以でもある。この離れも内部の洋室を見ない限り、取り立てて価値のある建物とは思われないかもしれない。和風には見立てというか、見る眼を要求されるが、それでもなお個性の痕跡は極めて乏しいため、逆に個性や特徴から設計者を判断することは至難の技と言わざるを得ない。

主屋について

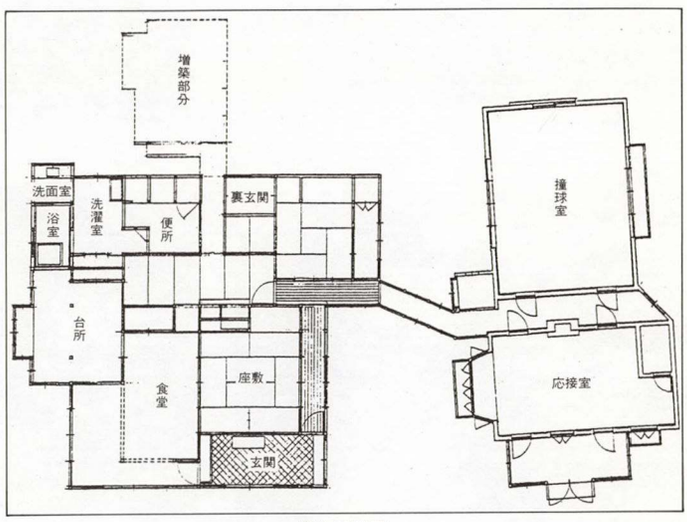
14代ご当主の西尾清司氏の案内で建物内部を拝見する。敷地内には配置図にもあるように長屋門、主屋、離れ、茶室、東屋、それに３棟の土蔵がある。その外に温室など今は使われてはいない建物がある。まず主屋を拝見する。桟瓦葺の入母屋屋根、本二階建の大規模な民家である。南側には式台付の玄関棟があり、この棟には接客用の６畳の茶室がある。ただ、この玄関を用いると奥の座敷には水屋を通らなければならず、ここからもう一度露地を通って茶室へ向かうのは良いとしても、奥の座敷へは土間からアプローチしたのであろうか、やや動線に疑問は残る。座敷は西側の奥に12畳半に床、床脇の付いた座敷、その手前に10畳の間があり、南側には幅１間の広々した縁が廻っている。後の改修であろうが、この縁側には全面カットガラスの嵌まった引き違い戸が建て込まれており、写真に見られるように極めて華やかな雰囲気を醸し出している。また座敷の柱や長押の木柄も整い、欄間や釘隠しなどにも近代以降の和風住宅にみられる。整然とした雰囲気がある。２階にも数室の整った和室が配されているが、箱階段を用いることになる。

武田五一と離れの意匠

主屋は後でもう一度ふれるが、この時は目当てが武田五一だったので早々に離れを案内していただいた。中を見て当初の外観から抱いた印象はまったく覆される。裏玄関を入って突き当たりにある飾り棚の繊細な意匠、武田好みの網代天井や桐材の建具など、紛れもなく武田五一の和風意匠を伝えるものであった。更に奥の座敷も床の間や違い棚に武田らしい簡潔ではあるが洗練された感覚が窺える。この座敷には表玄関がついており、円形の下地窓と腰掛け、磚を敷きつめた床等にそれらしい雰囲気が感じられた。全体としてゆったりとした印象は武田五一ならではのものであったが、それがこの当時では珍しい１メートル・モジュールによることを先代ご当主夫人から教えていただ



西尾邸配置図



離れ平面図

き、改めて武田五一の新しいもの好きを思わずにはいられなかった。実測した結果も１間がピッタリ２メートルと素晴らしい施工精度であった。

この離れの見所はやはりこの和館に続く応接室と玉突場であろう。外部こそ先程も述べたように数寄屋の造りであるが、内部は洋風の意匠である。それも野口孫市や武田五一ら明治の第二世代の建築家達が他に先駆けて試みてきた和洋折衷の技法が取り入れられている。その典型は応接室に付属するサンルームである。数寄屋風の意匠が洋風のサンルームの機能と一体になり、何とも言えない雰囲気を醸しだしている。化粧野地裏、繊細な建具など、正しく西宮の芝川邸で試みた「茶室の気分を取り入れた」と彼が言うところの和洋折衷の意匠である。こうした武田五一の試みは現在では芝川邸や京都の稲畑邸くらいに残るのみであり、大変貴重な遺構である。

この応接室には、西の出窓の上部とサンルームとを隔てる東の窓上の欄間に素晴らしいステンドグラスが用いられている。これも武田五一のデザインによるのであろうか、花と鳥をあしらったアール・ヌーヴォー風の質の高い意匠である。また、照明器具もオリジナルが残っており、やはりセセッション風であり、いずれも武田五一の自家薬籠中のものである。

この他、やや目立たない所ではあるが、武田五一の住宅改善についての提案を具体化したような水回りの工夫がみられる。台所はかなり改造されてしまっているが、流しと一体となった開放的な出窓や通風への配慮、明るく清潔な洗面所や風呂、洗濯場など今でも十分に使用していける配慮がなされている。さらに、水洗便所のための浄化槽などにもそうした傾向がよく現れている。

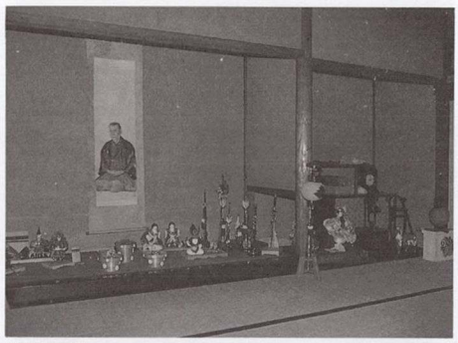
この離れは11代のご当主が隠居用として建てられたものだそうだが、そのご当主はこの建物を利用せずして亡くなられたとか。そうした時間的な伝聞からこの建物が大正14年頃に完成したのだろうと言われている。内部意匠の雰囲気からすればもう少し時代が逆上ってもと思われるが、大正期末というのはほぼ間違いないであろう。問題は何故、武田五一がこの建物を手掛けたかということであるが、第11代のご夫人が和歌山のご出身であり、その郷里の関係から後に武田五一の後妻となられる琴夫人（元の苗字は木下）を早くに引き取られて育てられた。そのご縁から武田五一が設計することになったという。彼の設計は迅速さをもって聞こえるが、この小住宅の設計にはかなりの時間をかけたとか、この時期の武田五一の多忙さを考え併せると異例である。夫人の実家同様の意味をもつ西尾家の依頼とあって自分自身で全てを取り仕切ったのであろう。この時期であれば通常は弟子が手伝っているはずであり、そうであればチェックできるはずの作品集からこの作品が抜け落ちてしまっているのは、そうした経緯を物語っているのではないだろうか。

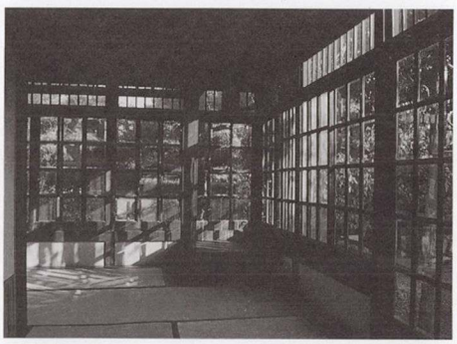
この小住宅は離れとはいっても258㎡もあり、中流住宅程度の規模を有している。しかし、和室と洋室を廊下で結びつけた配置はやや古い手法である。この頃の新しい中流住宅やあるいは彼自身も自邸で試みたように和室と洋室が一つの屋根の下に完全に融合しておらず、この頃には一般的であった和洋折衷住宅と一線を画している。その意味では生活自体を追求する住宅ではなくやはり大庄屋の離家の格式と言うべきだろうか。

主屋と茶室の建設経緯

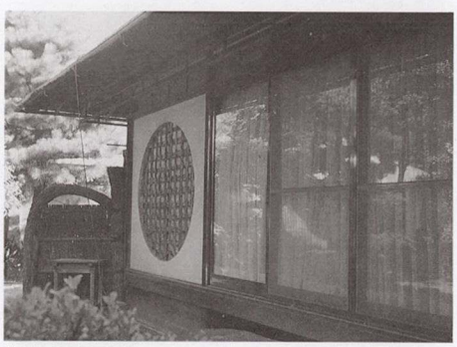
ところで、最初にも触れた主屋と茶室であるが、最初の訪問では離れに時間を取られてあまり詳しくは見ていなかったが、離れに劣らず大変興味深い存在である。茶室については京都工芸繊維大学名誉教授の中村昌生先生が訪問され調査が進行している。一方の主屋についてはまだ調査が十分とはいえないが、初めての訪問の後に何枚かの図面と文書が見つかり、建設年代等の推測が可能となっている。覚書として認めたとみられる文書には次のような記載がある。「一　本宅建築　旧本家已ニ三百年餘ヲ保存老朽殆ント堪ヘサルニ至ココ二十一代義成謹テ建築改造ノ任ニ當ル屋上棟木ハ先代ノ木財ヲ用ユ」とあり、明治28年５月11日に上棟、６月15日「新宅ニ初入」と記されている。ただ、上棟からの日数からみてこの「新宅ニ初入」


主屋を見る


座敷床の間


主屋の縁


主屋から離れを見る


離れの西南の円窓


離れのサンルーム

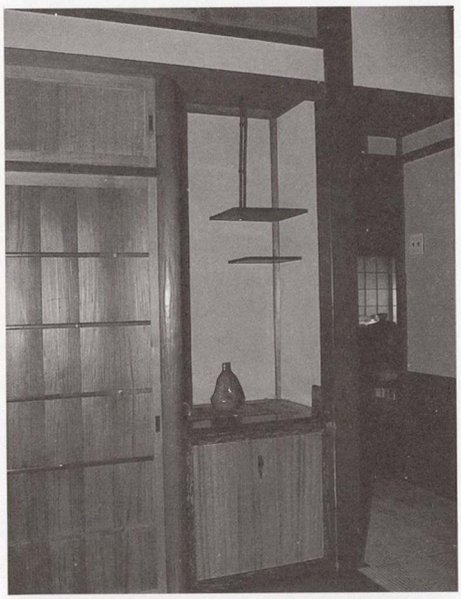
が竣工とは考えにくく、竣工の時期はこの翌年くらいとみられる。また、主屋の「改造」がどの程度であったのかは詳らかではないが、工事に先立ち裏に仮屋を設けて移っていることからも、かなり全面的な工事であったことが窺われる。それは残された何枚かの図面と見比べても柱割が著しく変化していること、棟木にだけ「先代ノ木材」を用いたことをわざわざ記載していることからも江戸時代初頭とみられる旧家屋はあまり面影を止めていないとみるのが順当と思われる。

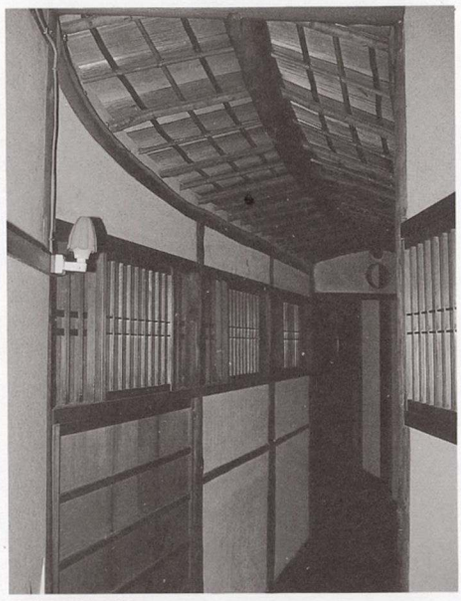
このとき改造に当たった11代当主西尾輿右衛門は33歳、別の文書には先の三代が家の修理を怠ったために屋敷全般の大改修となったと記している。この主屋の建設に先立ち、明治25年に「蔵納屋」の新築を開始、同26年5月15日には茶室、明治26年には「戌亥土蔵」を着工、その他門塀など息をつく間もないほどの普請続きであったことが窺える。大工は茶室を除き全て出入りの柳川儀兵衛とその子元次郎（後に古川姓となる）が手掛けている。そのうち主屋はおそらくこの時初めて一人前と認められたのであろう元次郎が取り仕切ったようである。茶室は庭を含め中村先生のご推察の通り、休々斎の指導の下に出入りの大工、庭師によって造られている。

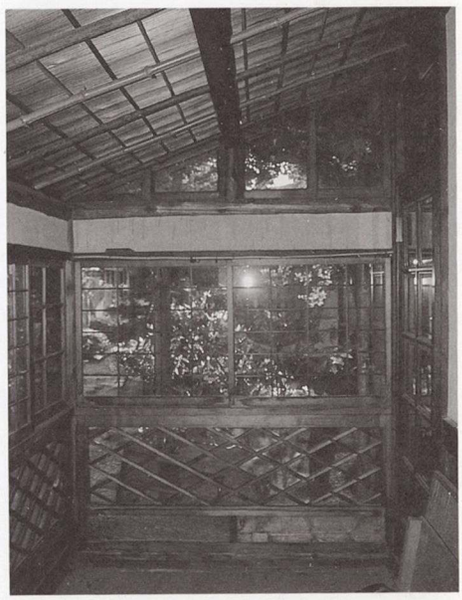
茶室は中村先生のご診断によると薮内家の燕庵の写しと雲脚席の写しからなり、積翠庵と称した。特に燕庵は相伝を受けた人に限ってしか写しを認めないものとされているとか、11代輿右衛門はこのときまだ30歳を過ぎたばかりであることを考えると異例である。伝聞では西尾家は薮内家に対しかなりの援助をしていたというから、その援助に報いる意味もあったのであろう。

明治期は文明開花の潮流に押され、茶道は衰退の一途であったが、明治20年代に入り漸く婦女子の教育・作法として見直す動きがみられるようになる。そうした衰退期の茶道をバックアップした11代輿右衛門と当時の建築界では誰も見向きもしなかった茶室研究を始めた武田五一。数寄者と日本の美の最初の発見者との不思議な邂逅というべきであろう。新しく西欧に興りつつあったアール・ヌーヴォー、ウィーン・ゼツエッションに茶室の美を重ねた武田五一の造形は、晩年になってもう一度メンデルゾーンなどの国際建築との関係を見いだすことになる。その意味では生涯茶室と離れることはなかったともいえる。おそらく再婚に際して立ち寄ったであろう西尾家の積翠庵を見て、織部好みを伝える燕庵を武田五一はどの様に感じたのであろうか。残念ながら武田五一の卒業研究であり、日本最初の茶室研究である「茶室建築について」にはあまり詳しく織部についての記載はない。ただ、これほど身近に名席のある建物での設計だけに武田五一にとってかなりの水準を意識した仕事ではなかったかと推察される。

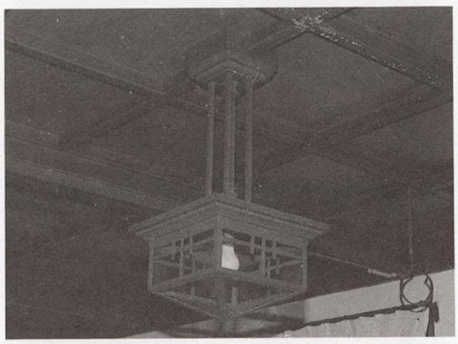
それにしてもこの西尾家を母の実家とする音楽家・貴志康一がやがてベルリン・フィルで活躍することを考えるとなお興味をそそられずにはいられない。そして貴志康一もその作曲に日本的な伝統を見据えつつ、西洋と日本を架け渡す作品を創造しようとしていたことに音楽と建築の違い、世代の違いを超えて共通性を感じざるを得ない。


離れの飾り棚


応接室を結ぶ廊下


サンルーム


離れのステンドグラス


応接室の照明器具


撞球室の照明器具

日本建築協会

月間の動き

【平成6年11月分】

評議員会

第2回定時評議員会
24日・5時～5時半・於本会会議室
出席者　鶴田議長ほか37名（委任状共）
議　事　(1)平成7年度評議員選出数決定の件
　　(2)団体会費改定（経営改善関連）に関する件

理事会

第4回常任理事会
24日・4時～4時半・於本会会議室
出席者　市川会長ほか14名
議　事　(1)平成6年度第2回定時評議員会提出議案の件
　　(2)協賛名義使用承認の件
　　(3)入退会者承認の件
　　(4)事業報告その他

編集委員会

第8回会員企画小委員会
1日・6時半～8時・於本会会議室
出席者　稲木副委員長ほか5名
議　事　(1)「建築と社会」（シリーズもの）の報告と掲載予定
　　(2)新しい企画案について
第8回広告企画小委員会
2日・4時～5時・於本会会議室
出席者　勝副委員長ほか4名
議　事　(1)11月号「構造美」・「集合住宅リニューアル」特集広告途中経過報告
　　(2)12月号「第41回青年技術者」・「関西国際空港」特集広告途中経過報告
　　(3)1月号「光がつくる空間の風合」特集・「謹賀新年」広告途中経過報告
　　(4)3月号以降の独自特集
　　(5)収支状況報告
第8回構造分科会
9日・6時～8時半・於本会会議室
出席者　二宮幹事ほか5名
議　事　(1)「構造美」特集の経過報告
　　(2)2月号以降の「構造の頁」の企画
第8回編集委員会
10日・6時～8時・於本会会議室
出席者　荒井委員長ほか5名
議　事　(1)11月号「構造美」・「集合住宅団地」特集経過報告
　　(2)12月号「青年技術者」・「関西国際空港」特集経過報告
　　(3)1月号「光がつくる風合の世界」特集経過報告
　　(4)2月号「音―騒音から操音／創音」特集経過報告
　　(5)3月号以降の独自特集報告
　　(6)作品作風、会員企画、その他
　　(7)来年の表紙デザインの検討
　　(8)収支状況報告
第8回設備分科会
17日・6時～9時・於本会会議室
出席者　村上幹事ほか4名
議　事　(1)次の特集の企画
　　(2)「設備の頁」の企画
　　(3)来年度の分科会委員構成
第5回計画系―インテリア・住宅―分科会
24日・7時～9時・於本会会議室
出席者　中村幹事ほか7名
議　事　特集内容検討
第9回作品作風小委員会
24日・6時半～10時半・於本会会議室
出席者　富田副委員長ほか4名
議　事　(1)作品の掲載状況・掲載予定の報告
　　(2)作品の選定
　　(3)「Gallery」掲載報告・予定
　　(4)「SKETCH BOOK」掲載予定
第5回 being 欄企画打合会
25日・7時～10時・於大阪マルビル「カラット」
出席者　高橋幹事ほか4名
議　事　「建築と社会」誌面"being"欄の来年以降の企画
第7回施工材料分科会
29日・4時～5時半・於本会会議室
出席者　小椎八重幹事ほか4名
議　事　平成7年度特集企画検討
第2回計画系分科会―計画系―
29日・6時～8時45分・於本会会議室
出席者　吉村幹事ほか4名
議　事　来年4月号の計画特集の企画

事業委員会

第7回若い会員の集い小委員会
1日・7時～9時・於本会会議室
出席者　松隈幹事ほか1名
議　事　今後の予定について
第5回広報小委員会
2日・6時半～8時10分・於本会会議室
出席者　奥村幹事ほか6名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)第1第2、分科会からの報告と検討
　　(3)事業委員会懇親会の企画について
第5回見学会小委員会
10日・6時～7時半・於本会会議室
出席者　南副委員長ほか3名
議　事　(1)前回事業委員会の報告
　　(2)実施報告及び今後の予定
第5回事業委員会
16日・4時～6時10分・於本会会議室
出席者　三好副委員長ほか5名
議　事　(1)各小委員会からの報告と検討
　　(2)事業委員総会について

出版委員会

第7回出版委員会
17日・5時～6時半・於西本町インテスビル
出席者　山田副委員長ほか7名
議　事　(1)＜プロのノウハウ＞と特装本の経過報告
　　(2)今後のテーマと執筆者選定について
　　(3)「プロのノウハウ」講座シリーズについて

見学会

木造三階建共同住宅　メープルコート見学会
8日・11時～13時・参加者51名
京都の近代建築にふれる―三条通り界隈を中心として
26日・13時～17時・参加者39名

30's EYE―21世紀へのエスキス

長坂　大「設計についての方法論的考察」
25日・6時半～9時・参加者34名

11月の入会者（敬称略）

〔団体会員8社〕
(株)淺沼組名古屋支店　　朝日電気工業(株)
川崎設備工業(株)　　新晃工業(株)名古屋支店
戸田建設(株)名古屋支店　　東光電気工事(株)中部支社　　ナミレイ(株)名古屋支店　　能美防災(株)名古屋支社

〔個人会員17名〕

稲葉　茂穂（大成建設）	加藤亜紀子（綜合デザイン）	岸本　充弘（川崎設備工業）
隈元　護（戸田建設）	佐武　和幸（東光電気工事）	笹川　健二（大林組）
杉浦　譲治（二葉積算）	竹島　秀雄（大成建設）	瀧本　高茂（鴻池組）
中平　和人（竹中工務店）	福島　友則（ナミレイ）	松下　福郎（淺沼組）
水野不二雄（新晃工業）	宮川　浩（日建設計）	森　啓亮（淺沼組）
森　瑞生（大成建設）	吉澤　幹夫（日建設計）	

〔準会員2名〕

秋吉　慎司（大阪工業大学）	曺　圭貞（大阪芸術大学）

◀会員の訃報
須賀　　孝（須賀工業）10月27日死亡
渡辺　幸蔵（名誉会員）11月6日死亡
石上　立夫（日本国土開発）11月11日死亡
白井　周二（名誉会員）12月6日死亡

（訂正）
11月号作品作風欄に掲載した石央文化ホールの内観写真が違っておりましたので本号に再掲いたします。



新年のご挨拶

平成７年元旦

(50音順)

青山幸夫

株式会社 青山建築積算事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀1-10-19江南ビル 電話06(443)0430
〒610-11 自宅・京都市西京区大原野上里勝山町14-6
電話075(331)8082

名誉正会員
浅井泰

〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町13－5 電話0797(22)5291

浅海伸之

浅海電気株式会社 代表取締役社長
〒530 大阪市北区西天満３丁目７番４号 電話06(362)8701
〒665 自宅・宝塚市栄町２丁目10番26－712号
電話0797(81)1174

泉沢哲史

株式会社 泉沢建築設計事務所 代表取締役
〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号 電話06(543)2281

会長
市川宏

株式会社 東畑建築事務所 取締役社長
〒541 大阪市中央区伏見町４－４－10 電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手４丁目４－32
電話078(811)0216

今井忠臣

イマキ建設工業株式会社 代表取締役
〒547 大阪市平野区加美北5丁目11番12号
電話06(792)4425代
〒547 大阪市平野区平野北2丁目9番15号
電話06(796)1839

今西祥郎

財団法人 大阪住宅センター 理事長
〒542 大阪市中央区南船場4丁目4番3号
御堂筋アーバンライフビル4F
電話06(253)0071～3
〒591 自宅・堺市新金岡町3丁1－23－102 電話0722(51)1902

今村祐三郎

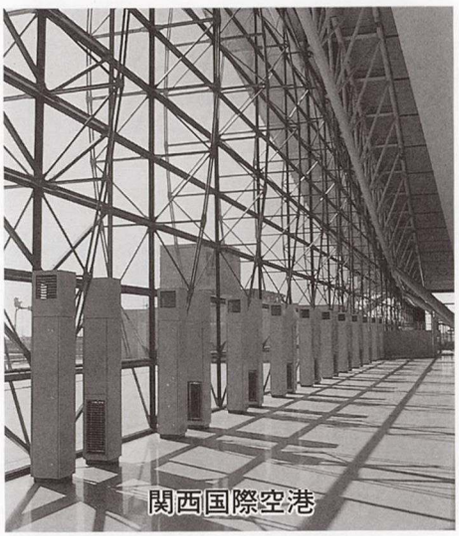
社団法人 大阪建設業協会 専務理事
〒540 大阪市中央区北浜東1番30号 電話 06(941)4821
〒630 自宅・奈良市南永井町344－8 電話0742(62)0784

岩橋重文

株式会社 岩橋設計 代表取締役
〒640 和歌山市中之島1672 電話0734(31)7859
〒640 自宅・和歌山市中之島1661 電話0734(28)2389

上西圭治

株式会社 大気社 代表取締役会長
〒530 大阪市北区中之島３－２－18 住友中之島ビル７階
電話06(448)3603
〒659 自宅・兵庫県芦屋市浜町12－14 電話0797(22)5949


関西国際空港

植野知雄

株式会社 寿建築積算事務所 所長
〒542 大阪市中央区東心斎橋１丁目16-29つるのすビル
電話06(244)1561代
〒588 自宅・堺市大美野５－９ 電話0722(37)1162

歌俊美

株式会社 歌建築設計事務所 代表取締役
〒649-64 和歌山県那賀郡打田町打田315 電話0736(77)2711
〒649-64 自宅・和歌山県那賀郡打田町打田315
電話0736(77)2711

尾亀清四郎

株式会社 三晃空調 取締役会長
〒540 大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー11階
電話06(949)1371
〒573 自宅・枚方市岡山手町15－４ 電話0720(41)3427

尾原重信

株式会社 コアプラン設計 代表取締役
〒550 大阪市西区新町２丁目３番８号米澤ビル８F
電話06(531)4488
〒532 自宅・大阪市淀川区十三東3-14-13 電話06(302)1051

多井(オオイ)幸男

多井建築研究所 所長
〒657 神戸市灘区曽和町３丁目１－11 電話078(821)6133

取締役会長 岡繁
代表取締役 川瀬清十郎
取締役 豊田健一

住鋼エンジニアリング株式会社
〒540 大阪市中央区徳井町2-2-11 電話06(949)0651

岡澤勇

岡澤建築設計事務所 所長
〒530 大阪事務所・大阪市北区西天満4丁目4番12号
近藤ビル６F 電話06(362)6082代表
FAX06(362)6084
〒567 茨木市藤の里２丁目16番６号
電話0726(43)5230・8953

岡野節壽

日本電設工業株式会社 大阪支店 常務取締役 支店長
〒531 大阪市北区豊崎３丁目17－15 電話06(372)3533
〒560 自宅・豊中市蛍池東町２－６－11 電話06(841)3832

副会長
岡本行善

株式会社 昭和設計 代表取締役社長
〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号 四ツ橋ビル
電話06(532)3421代
〒659 自宅・芦屋市翠ヶ丘町6-16-403 電話0797(31)3201

新年のご挨拶

平成７年元旦

(50音順)

名誉正会員

沖田誠一

財団法人　建設工学研究会　事務局長
音響・風・構造・コンサルタント

〒105 東京都港区虎ノ門二丁目6番7号 和孝第十ビル内
電話03(3502)8017
FAX03(3502)8019
〒195 自宅・東京都町田市鶴川5−1−14−104
電話0427(35)8297

恩庄治郎

大阪化工株式会社　代表取締役社長
〒565 吹田市山田東1−12−12　電話06(876)2334
〒565 自宅・吹田市山田東1−12−12　電話06(877)1406

数井利美

株式会社　西村建築事務所　取締役社長
〒652 神戸市兵庫区荒田町2丁目1-8 楠六パレスビル
電話078(521)0205〜0207
〒654-01　自宅・神戸市須磨区白川台２丁目39−13
電話078(792)5862

亀井晃治

株式会社 A.R.I.(ありー)建築事務所　代表取締役
〒542 本社事務所・大阪市中央区谷町7丁目3番4−203
新谷町第３ビル２Ｆ　電話06(768)1771代
〒577 アトリエ・東大阪市上石切町2−14−35
電話0743(73)6137
〒542 アリックスタイムスクエア・大阪市中央区谷町7-3-4-105
新谷町第３ビル・１Ｆ　電話06(764)1089
〒631 自宅・奈良市藤ノ木台3丁目33番5号 電話0742(43)1226

学校法人　修成学園
修成建設専門学校
理事長 **鎌谷秀男**

〒555 大阪市西淀川区大和田5丁目19-30　電話06（474)1644
〒665 自宅・宝塚市千種３丁目８−23　電話0797(72)1380

河合芳市

第一工業株式会社大阪支店　常務取締役支店長
〒530 大阪市北区西天満3丁目6番14号　電話06(364)6661

河裾和夫

螢光産業株式会社　代表取締役
〒531 大阪市北区本庄西３丁目９番20号
電話06(371)5146代
〒560 自宅・豊中市中桜塚4丁目6-4　電話06(852)4148

小西弘治

日本住宅パネル工業協同組合　理事長
〒113 東京都文京区本駒込6丁目15番7号
六義園ビルディング 電話03(3945)2311代表

取締役会長 **小西岬**
取締役副会長 **橋本正章**
取締役社長 **小西照男**

株式会社　小西設計
〒550 大阪市西区立売堀１丁目12−16　電話06(532)4051

名誉会長

佐野正一

株式会社 安井建築設計事務所 代表取締役会長
〒540 大阪市中央区島町２丁目4番7号　電話06(943)1371代
〒662 自宅・西宮市雲井町４の９　電話0798(72)1569



斉藤國義

株式会社　斉藤工業所　代表取締役
〒557 大阪市西成区岸里2丁目6番5号　電話06(661)3325代
〒557 自宅・大阪市西成区岸里東１丁目21番３号
電話06(652)0208

城口庸平

株式会社　大阪城口研究所　取締役社長
〒530 大阪市北区角田町２番15号　電話06(372)7151代

須賀好富

社団法人　日本建築積算協会関西支部　支部長
〒540 大阪市中央区農人橋2-1-10　大阪建築会館５階
電話06(947)5222
近畿大学理工学部建築学科　教授
〒577 東大阪市小若江３−４−１　電話06(721)2332
内線4519
〒631 自宅・奈良市鶴舞西町２−10−E501
電話0742(41)0623

関口典良

一級建築士事務所
株式会社　関口建設　専務取締役
〒582 大阪府柏原市大県１−10−13　電話0729(71)2281
〒582 自宅・大阪府柏原市上市3-12-16　電話0729(72)1308

田中忠明

大阪エスピー紙工株式会社　代表取締役社長
〒540 大阪市中央区玉造２丁目25番20号 電話06(765)5650代
FAX06(765)5655
〒614 自宅・八幡市八幡福禄谷98-7　電話075(971)0395

田中優

株式会社 ユソニアン一級建築設計事務所　代表取締役
〒530 大阪市北区天神橋2丁目5番25号 若杉グランドビル10Ｆ
電話06(354)2781
〒112 東京都文京区大塚５丁目17番1号富士見坂ビル
電話03(5976)2781
〒536 大阪市城東区成育４丁目20番２号　電話06(931)8857

田村真二

株式会社　竹中工務店　取締役副社長
〒541 大阪市中央区本町４丁目１−13　電話06(252)1201
〒663 自宅・西宮市浜甲子園2丁目5−19　電話0798(41)4300

取締役会長 **高橋慶夫**
取締役社長 **上田宏二**
株式会社　高橋上田設計事務所
〒550 本社・大阪市西区新町1-13-16 瀬戸松ビル
電話06(533)0972
〒550 大阪事務所・大阪市西区新町1-4-21 大幸ビル
電話06(533)0971
〒162 東京事務所・東京都新宿区揚場町1-21 飯田橋升本ビル
電話03(5261)8081
〒802 九州事務所・北九州市小倉北区京町4-6-18
電話093(551)5543
京都事務所・東播事務所

立野一郎

株式会社　ユニオン　会長
〒550 大阪市西区南堀江２丁目13番22号
電話06(532)3731代

新年のご挨拶

平成７年元旦

(50音順)

谷　　進

浦安工業株式会社　常務取締役支店長

〒530 大阪市北区天満２丁目３－５　電話06(351)7502
FAX06(353)2160

〒530 自宅・大阪市北区天神橋3丁目10-30-507
電話06(358)6900

名誉正会員
知見義夫

元・本会理事

〒601 自宅・京都市南区西九条春日町48　電話075(691)3860

津村芳範

オリエンタルメタル株式会社　代表取締役社長

〒335 埼玉県蕨市塚越５丁目６番32号　電話048(442)3115
FAX048(443)0975

〒660 尼崎市長洲中通３丁目24番35号　電話06(487)2121代
FAX06(487)2129

辻本　豊

株式会社　ツジモトユタカ設計事務所　代表取締役

〒640 和歌山市東長町中ノ丁20番地　電話0734(26)2030代
FAX0734(26)2032

〒640 自宅・和歌山市東長町中ノ丁20番地
電話0734(26)0576

傳馬正明

ムツミ産業株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区靱本町１丁目17番15号
電話06(441)0378大代

〒557 自宅・大阪市西成区岸里東2丁目13番22－507
電話06(651)0566

名誉会長・名誉正会員
東畑謙三

株式会社　東畑建築事務所　取締役会長

〒541 大阪市中央区伏見町４－４－10　電話06(202)0391
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手4-4-35　電話078(851)5043

徳岡昌克

株式会社徳岡昌克建築設計事務所　代表取締役

〒530 大阪市北区西天満6丁目3番11－205号　電話06(314)1688
〒661 尼崎市次屋３丁目６番60号　電話06(499)0701
〒810 福岡市中央区大名1丁目8番33-703号　電話092(716)5110
〒520-06 滋賀県滋賀郡志賀町北小松1157番地　電話0775(96)1149
〒532 自宅・大阪市淀川区新高6丁目6番18号　電話06(391)1438

内藤正克

株式会社　内藤建築設計事務所　代表取締役会長

〒675-13 兵庫県小野市上本町240 小野ビル　電話0794(62)4757代
〒675-13 自宅・兵庫県小野市久保木町1063　電話0794(62)4668

中原英雄

株式会社　創美設計　代表取締役

〒530 大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKHビル
電話06(881)1778

長澤孝行

日本住宅パネル工業協同組合　理事
大阪支所長

〒553 大阪市福島区大開２丁目３番１号　電話06(462)1600
〒598 自宅・大阪府泉佐野市佐野台20-52　電話0724(63)1260



西田一好

株式会社 教育施設研究所　大阪事務所所長

〒530 大阪市北区東天満1丁目6番6号オーセンビル４階
電話06(354)3960
FAX06(354)3963

〒591 大阪府堺市新金岡町2丁5番14-213号
電話0722(52)6227

蜷川守男

大阪装飾株式会社　代表取締役

〒550 大阪市西区京町堀1丁目13番24号　電話 06(444)1410
〒665 自宅・兵庫県宝塚市社町3番10号　電話0797(72)6045

林唯夫

株式会社　昭和設計　代表取締役副社長

〒550 大阪市西区新町１丁目５番７号　四ッ橋ビル
電話06(532)3421

〒565 自宅・吹田市青山台３丁目41－11　電話06(872)3608

伴昭秀

株式会社 西原衛生工業所大阪店 代表取締役社長

〒531 大阪市北区中津６丁目８番４号　電話 06(458)3628
〒563 自宅・池田市石橋３－11－14　電話0727(61)8652

平田勝久

株式会社　平田タイル　取締役社長

〒550 大阪市西区阿波座１丁目１番10号 電話06(532)1231代
〒658 自宅・神戸市東灘区住吉山手５丁目17－21
電話078(841)4725

福谷　剛

株式会社　ゼネラルプリンティング　代表取締役社長

〒542 大阪市中央区東平1丁目4－17　電話 06(763)2541
〒666-01 川西市緑台１丁目８－７　電話0727(93)0409

福原裕治

財団法人　大阪市建築技術協会　理事長

〒541 大阪市中央区伏見町2-1-1 住友銀行高麗橋ビル８階
電話06(203)2900

〒573 枚方市釈尊寺町28-18-202　電話0720(54)7189

堀亀久治

三機工業株式会社　顧問

〒541 大阪市中央区北浜二丁目２番21号　電話06(202)3071
〒664 自宅・伊丹市北本町１丁目110番１号
伊丹パークホームズ２－406　電話0727(75)3095

牧英二

日建設計　取締役社長

〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

新年のご挨拶

平成７年元旦

(50音順)

松田恒彦

株式会社 ART建築設計事務所　代表取締役所長
〒530 大阪市北区東天満２丁目３－10 トップス天満ビル
電話06(357)5351代
〒546 大阪市東住吉区西今川2丁目8－7　電話06(701)4571

松原満佐子

有限会社 柳　々　堂　代表取締役
〒550 大阪市西区京町堀１－12－３　電話06(443)0167～8
FAX06(443)1826
営業所：鴻　池　ビ　ル１階 電話・FAX 06(251)8233

松本　弘

西日本建設業保証株式会社　取締役社長
〒550 大阪市西区立売堀２丁目１番２号　電話06(543)2553

三谷忠義

株式会社 三 谷 設 計　代表取締役社長
〒694 島根県大田市久手町波根西777の１
電話08548(2)8121代
〒694 自宅・島根県大田市久手町波根西225-2
電話08548(5)8320

薬袋公明

日　建　設　計　取締役会長
〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目6番2号　電話06(203)2361

村石　全

浪速合板株式会社
ミユキ建設株式会社　代表取締役社長
〒556 大阪市浪速区幸町2丁目5番3号　電話06(568)3671
〒659 自宅・芦屋市岩園町25番15号　電話0797(34)0835

森　淳

三和電気土木工事株式会社　取締役社長
〒530 大阪市北区南森町1丁目4番19号　電話06(361)6451代
〒596 自宅・大阪府岸和田市別所町2丁目3番5号
電話0724(22)7710

八木重喜

YAGISO BRICKS
八木惣株式会社　常務取締役
〒593 堺市津久野町３丁28－10　電話0722(62)3838
〒593 自宅・堺市津久野町3丁28－10　電話0722(62)0722

矢野卓生

中央電気工業株式会社　取締役社長
〒530 大阪市北区太融寺町３番24号 電話06(312)8881代表

山内恒男

株式会社 石本建築事務所　取締役 大阪支所長
〒542 大阪支所・大阪市中央区島之内1-20-19 白水ビル
電話06(251)7507
〒102 本社・東京都千代田区九段南4-6-12 電話03(3262)7161
札幌・名古屋・九州・東北・横浜・PORTLAND



山地英雄

株式会社　オオバ大阪支店　常任顧問
〒540 大阪市中央区釣鐘町２丁３番11号
電話06(943)5161(代表)
〒565 自宅・豊中市新千里北町3－16－1　電話06(872)3746

山本貴士

朝陽電気株式会社　代表取締役
〒530 大阪市北区中之島3丁目2番4号　電話06(385)1361代
朝日ビルディング内
〒565 自宅・吹田市藤白台４丁目23番８号
電話06(871)0851

横尾義貫

財団法人 日本建築総合試験所　理事長
〒565 本所・吹田市藤白台５－８－１
電話06(872) 0391
〒531 大淀分室・大阪市北区長柄西２－１－18
電話06(351)7217
〒592 堺分室・堺市浜寺石津町西２－１－34
電話0722(44)3912
〒612 京都分室・京都市伏見区中島前山町24－２
電話075(622)0713
〒675-01 加古川分室・加古川市別府町新野辺字畑下1311-3
電話0794(35)5811

和田眞一

株式会社 東　和　組　代表取締役
〒530 大阪市北区西天満４丁目５番14号　電話06(363)4051
〒659 自宅・芦屋市公光町３番８号　電話0797(22)3282

和中　勝

株式会社 和 中 商 店　取締役会長
〒531 大阪市北区豊崎５丁目８番11号　電話06(371)0731～5
〒150 東京都渋谷区桜丘町11－５電話03(3464)9723
〒453 名古屋市中村区黄金通３丁目34番地
電話052(481)7338
〒662 自宅・西宮市大畑町10-22　電話0798(67)0386

渡部慶一

株式会社 松田平田 大阪事務所常務取締役所長
〒530 大阪市北区曽根崎新地2-5-3堂島 TSS ビル
電話06(344)7821
〒659 自宅・兵庫県芦屋市大桝町1-10
電話0797(38)7938

事務局一同

社団法人 日本建築協会

新年のご挨拶

平成7年元旦

設計事務所有志

株式会社
A.R.I 建築事務所
代表取締役所長　亀井晃治

本社事務所　大阪市中央区谷町7丁目3番4-203号 新谷町第3ビル2F　TEL(06)768-1771(代)
FAX(06)768-1406
アトリエ　東大阪市上石切町2丁目14－35　TEL(0743)73—6137
アリックスタイムスクェア　大阪市中央区谷町7-3-4-105　新谷町第3ビル・1F　TEL(06)764—1089

株式会社 伊東建築設計事務所
代表取締役　岡本清彦

〒556 大阪市浪速区元町2丁目12番30号 難波KIビル　電話 大阪(06)646-0161㈹

株式会社 伊藤建築設計事務所
代表取締役社長　鋤納忠治

名古屋市中区錦二丁目2番13号(名古屋センタービル)　電話<052>222-8611
東京　東京都千代田区神田美土代町五番地二(第2日成ビル)　電話<03>3294-6061

株式会社石本建築事務所
代表取締役社長　古畠誠一
取締役大阪支所長　山内恒男

本　社　〒102 東京都千代田区九段南4－6－12　電話03(3262)7161
大阪支所　〒542 大阪市中央区島之内1-20-19(白水ビル)　電話06(251)7507代
支　所　札幌・名古屋・九州　事務所　東北・横浜・PORTLAND

株式会社 泉沢建築設計事務所
代表取締役　泉沢哲史

〒550 大阪市西区北堀江1丁目2番27号　TEL(06)543-2281㈹

URABESEKKEI
株式会社 浦辺設計
URBAN DESIGN & ARCHITECTURE FOR BEAUTIFUL ENVIRONMENT

代表取締役 松村慶三

大阪市北区梅田1丁目12番39号・新阪急ビル〒530 電話 06(341)1680
岡山事務所 岡山市磨屋町10-12・交通オアシスビル〒700 電話 086(233)6010

K. C綜合設計コンサルタント
株式会社 川口建築事務所

代表取締役 川口敏光

大阪市東淀川区東中島1—18—27 新大阪丸ビル新館9階
TEL 06-324-0012㈹ FAX 06-324-2100

SHOWA SEKKEI
株式会社 昭和設計

代表取締役社長 岡本行善
代表取締役副社長 林唯夫

本社 〒550 大阪市西区新町1—5—7 四ッ橋ビル Phone 06—532—3421

株式会社 AAA(スリーエース) 総合設計

代表取締役社長 浅井潤一

大阪市北区本庄西1丁目9番15号(朝日プラザ北梅田1F) 〒531 電話 06(359)7230 FAX 06(359)7229

株式会社 瀬戸本淳建築研究室

代表取締役 瀬戸本淳

〒650 神戸市中央区北野町2丁目7—1—120 TEL 078-222-1665(代)

株式会社 創美設計

代表取締役 中原英雄

大阪市北区天神橋3丁目2番10号/TKHビル〒530 TEL.(06)881-1778代表

株式会社 大建設計

取締役社長　吉田　周

大阪市西区京町堀1丁目13番20号 大建設計大阪ビル　電話06－449－6800㈹
東京・横浜・名古屋・京都・福岡・長野・北九州・札幌・仙台・広島

一級建築士事務所

株式会社 IAO竹田設計

IAO TAKEDA ARCHITECTS ASSOCIATES

代表取締役　竹田秀道

大阪事務所	〒541 大阪市中央区博労町1丁目8番8号堺筋ISビル8F	☎ 06(260)0726㈹
東京事務所	〒150 東京都渋谷区神宮前5丁目3番21号ZUKKI 2F	☎ 03(5467)3227㈹
高松事務所	〒760 香川県高松市塩上町3丁目2番4号中村第一ビル5F	☎ 0878(37)7725㈹

アルパック
株式会社 地域計画建築研究所

代表取締役会長　三輪 泰司
代表取締役社長　金井 萬造

本社・京都事務所・〒600 京都市下京区四条通高倉 大和銀行京都ビル6F
PHONE.075-221-5132㈹　FAX.075-256-1764
東京事務所・〒160 東京都新宿区新宿2-5-16 霞ビル401号
PHONE.03-3226-9130㈹　FAX.03-3226-9560
大阪事務所・〒540 大阪市中央区城見1丁目4番70号 住友生命OBPプラザビル15F
PHONE.06-942-5732㈹　FAX.06-941-7478
名古屋事務所・〒460 名古屋市中区丸の内3-18-30 ツボウチビル2F
PHONE.052-962-1224　FAX.052-962-1225
九州事務所・〒810 福岡市中央区天神1丁目15番1号 日之出ビル6F
PHONE.092-731-7671　FAX.092-731-7673

株式会社 東海設計

代表取締役社長　小坂忠勝

本　社　名古屋市中区栄2丁目6番1号(白川ビル別館)　〒460 TEL052-202-1241(代表)
東京事務所　東京都中央区築地4丁目7番4号(築地ファーストビル)　〒104 TEL03-3248-0474(代表)

東西建築サービス株式会社

取締役社長　山口幸治

本　社　〒541 大阪市中央区高麗橋4丁目7番6号　電話 06-202-3626㈹
支　社　〒103 東京都中央区日本橋馬喰町2丁目1番1号　電話 03-3663-1765㈹
(住友銀行浅草橋ビル4階)

株式会社 東畑建築事務所

取締役会長　東畑謙三
取締役社長　市川宏

本社 大阪事務所　大阪市中央区伏見町4丁目4番10号 電話(06)202-0391
東京事務所　東京都千代田区永田町2丁目4番3号(永田町ビル) 電話(03)3581-1251
名古屋事務所　名古屋市中区錦1丁目13番26号(三井生命伏見ビル) 電話(052)223-3931
九州事務所　福岡市博多区博多駅前2-2-1(福岡センタービル) 電話(092)472-8737

建築・土木の設計監理

日建設計

代表取締役会長　薬袋公明
代表取締役社長　牧　英二

大阪	541	大阪市中央区高麗橋4丁目6－2	電話（06）203-2361
東京	112	東京都文京区後楽1丁目4－27	電話（03）3813-3361
名古屋	460	名古屋市中区栄4丁目15－32	電話（052）261-6131
支所・その他		東北・神奈川・北陸・神戸・広島・九州・シンガポール・ソウル・クアラルンプール	

株式会社 日積サーベイ

会長　生島道春
社長　加藤哲也

本社	〒540	大阪市中央区谷町3－1－9（MG大手前ビル） TEL(06) 944—2755代表
SSDセンター	〒554	大阪市此花区島屋4－2－7（島屋ビジネス・インキュベータ） TEL(06) 466—7736代表
東京支所	〒110	東京都台東区台東4－14－8（シモジン・パークビル） TEL(03)3836—1271代表
日積設計監理㈱	〒550	大阪市西区京町堀1－10－8（福岡ビル） TEL(06) 444—2706
㈱京都日積	〒602	京都市上京区今出川通室町東入今出川町333番地（第2高橋ビル） TEL(075)441—5690

株式会社 安井建築設計事務所

取締役会長　佐野正一
取締役社長　椚座正信

本社　大阪市中央区島町2丁目4番7号　電話 06(943)1371(大代)



新年のご挨拶

平成7年元旦

建設業有志

株式会社 あめりか屋

取締役会長　前野慶太郎
取締役社長　前野　脩

〒530　大阪市北区中之島四丁目3番25号　電話（06）444－1501

ANDO 安藤建設

空間に新しいエナジー

取締役社長　長澤光一　　取締役支店長　飛岡宏佳

本　社　東京都港区芝浦3丁目12－8　電話(03)3457－0111(代)
大阪支店　大阪市福島区福島6丁目3－21　電話（06)453－2190(代)

株式会社 今西組

IMANISHI

取締役社長　今西壽雄

本　社　大阪市天王寺区上本町6丁目6番23-309号　電話06（779）3361
支　店　東京都新宿区内藤町1番地　電話03(3354)0581
営業所　京都・奈良・西宮・神戸・埼玉

大之木建設株式会社

取締役社長　大之木晴樹
支社長　大之木雄次郎

本社　呉市中央3丁目12番4号　電話　0823(26)1511番
支社　広島市中区本川町3丁目1番5号　電話　082(231)5244番
支店　東京都港区麻布台2丁目2番12号 三貴ビル4F　電話　03(3585)3655番
〃　福岡市城南区神松寺2丁目13番24号　電話　092(863)7171番

株式会社 奥村組

取締役社長　奥村俊夫

本　社　大阪市阿倍野区松崎町2の2の2　電話 大阪(06) 621-1101(大代表)
東京本社　東京都港区元赤坂1の3の10　電話 東京(03)3404-8111(大代表)
支　社　東京・関西
支　店　札幌・仙台・北関東・横浜・東関東・北陸・名古屋・神戸・広島・四国・九州・福岡

鹿島
KAJIMA CORPORATION

代表取締役社長　宮崎　明
専務取締役 大阪支店長　小島　雄

本　社　東京都港区元赤坂1－2－7　電話 03(3404)3311(大代)
大阪支店　大阪市西区阿波座1－3－15　電話 06 (536)3311(大代)

海原建設株式会社
kaibara
KAIBARA CONSTRUCTION CO.,LTD

代表取締役　海原　壹一

〒530 大阪市北区梅田1丁目2番2－300号(大阪駅前第2ビル3F)　電話06(346)1900番

株式会社 柄谷工務店
KARATANI

取締役社長　柄谷順一郎

本　社　尼崎市玄番南之町4番地　電話大阪 06(415) 2 8 0 0 (大代)
支　店　大阪・神戸　営業所　西宮・三田・高砂・西播磨

共立建設株式会社 大阪支店

専務取締役支店長　加藤毅夫

支　店　大阪市中央区内本町2－2－5　TEL 06－942－2491 (代表)
本　社　東京都渋谷区道玄坂1－16－10　TEL 03－3461－6141 (代表)

株式会社 熊谷組 大阪支店

取締役社長　熊谷太一郎
専務取締役 大阪支店長　磯俣敏行

本　社　東京都新宿区津久戸町2番1　電話03(3260)2111番(大代表)
大阪支店　大阪市都島区片町2丁目10番5号　電話06 (353)2516番

コーナン建設株式会社

代表取締役　原眞一

大阪市淀川区十三本町2丁目4番28号　電話(06)308－1551大代表
東京都中央区京橋3丁目13番10号(中島ゴールドビル)　電話 (03)3564－5711代表
神戸市中央区磯上通6丁目1番9号(KOBE MKビル)　電話 (078)221－6293代表

公成建設

代表取締役社長　絹川　治

本　　社　〒600 京都市下京区五条通西洞院西入　☎075-365-8300
大阪支店　〒531 大阪市北区豊崎2丁目4番3号　☎ 06-375-1121
東京営業所　〒141 東京都品川区上大崎3－3－9－215　☎03-3442-1100
名古屋営業所　〒453 名古屋市中村区若宮町3丁目48　☎052-471-1223

株式会社 金剛組

代表取締役　金剛利隆

本　　社　〒543 大阪市天王寺区四天王寺1丁目14番29号　TEL 大阪06（779）7731㈹
FAX 大阪06（779）7133
関東支店　〒350-02 埼玉県鶴ヶ島市脚折町1丁目40番12号　TEL 埼玉0492（87）0301
FAX 埼玉0492（87）0300

佐田建設株式会社 大阪支店

SATA

取締役社長　佐田武夫
常務取締役 大阪支店長　茂木康永

本　　社　〒371 群馬県前橋市元総社町1丁目1番地の7　電話 0272（51）1551〈代表〉
大阪支店　〒540 大阪市中央区谷町2丁目9番3号（近鉄大手前ビル11階）　電話 06（941）1451〈代表〉

三和建設株式会社

取締役社長　森本晴夫

本　社　大阪市淀川区加島1丁目55番6号　電話 06(301)6636
支　店　東京都荒川区東日暮里4丁目10番10号　電話03(3891)8871
支　店　京都市右京区西院高田町31番地1　電話075(311)8897

清水建設株式会社

SHMZ

専務取締役 関西総支配人　田邊　剛

大阪支店 近畿営業本部　大阪市中央区本町3－5－7　電話 06（263）2800

積水ハウス株式会社

SEKISUI HOUSE

代表取締役社長　奥井　功

本　　社　〒531 大阪市北区大淀中1丁目1番88号（梅田スカイビル）　☎06（440)3111
東京支社　〒160 東京都新宿区西新宿1丁目6番1号（新宿エルタワー）　☎03(3346)6500

大地への愛　人間への愛

錢高組

社長 錢高一善

本　　社　大阪市西区西本町2丁目2番11号
なにわ筋ツインズ　ウエスト
大阪(06)531—6431
東京本社　東京都千代田区一番町31番地
東京(03)3265—4611
支社・支店　大阪・東京・北海道・東北・北関東・千葉
横浜・北陸・名古屋・神戸・広島・四国
九州

限りない未来への挑戦

大日本土木株式会社

専務取締役
大阪支店長　牧野　保

大阪支店　〒530 大阪市北区堂島二丁目2番2号 近鉄堂島ビル　電話 06 (341) 5211
東京本社　〒162 東京都新宿区市ヶ谷田町2丁目35番地　電話 03 (3268)5511

株式会社 竹中工務店

取締役社長　竹中統一

〒541 大阪市中央区本町4丁目1－13　電話 大阪 (252) 1201番(大代表)

信用と技術の

鉄建

TEKKEN

常務取締役大阪支店長　東田敏男

大阪支店　〒541 大阪市中央区瓦町3－3－7　電話 06 (201)1881(代表)
本　　社　〒101 東京都千代田区三崎町2－5－3　電話 03(3262)3411(代表)

戸田建設株式会社

代表取締役社長　戸田守二
常務取締役
大阪支店長　西川秀信

本　　社　東京都中央区京橋1丁目7番1号　TEL東京03(3562)6111
大阪支店　大阪市西区西本町1丁目13番47号　TEL大阪06 (531)6095
支　　店　東京・千葉・関東・横浜・北陸・名古屋・札幌・東北・広島・四国・九州

南海建設

取締役社長　芝谷昭

本　　社　大阪市浪速区難波中3丁目5番19号　電話 06 (644)7823番
東京支店　東京都千代田区神田須田町1丁目5(新須田町ビル)　電話 03(3251)8431番
岸和田支店・和歌山支店・神戸支店　営業所　堺・泉佐野・橋本・枚方・京都南・西宮

西松建設

代表取締役社長　柴田　平
取締役関西支店長　宗澤修郎

本　社　東京都港区虎ノ門１－20－10　電話03(3502)0232
関西支店　大阪市中央区釣鐘町２－４－７　電話06（942)1131

株式会社 日興

NIKKO
CORPORATION NIKKO

取締役会長　平本俊秋
取締役社長　平本俊友

本　社　広島市中区国泰寺町1丁目8番4号　電話（082）244－2111番

日本建設株式会社

NIHON
KENSETSU

取締役社長　積山吉興

大阪本社　大阪市中央区備後町１丁目６番15号　TEL（06）226-0630(代表)
東京本社　東京都文京区小石川２丁目６番22号　TEL（03)3818-6081(代表)
支　店　東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・広島・福岡

野村建設工業株式会社

取締役社長　石川芳夫

本　社　大阪市中央区高麗橋２丁目１番２号 電話（226）９５０２代表
東京本店　東京都千代田区大手町２丁目１番１号 電話（3249）１４１３代表

長谷工 コーポレーション

HASEKO

取締役副社長　中村俊雄

大阪市中央区平野町１丁目５番７号　電話　06(203)1500

株式会社フジタ 大阪支店

FUJITA

常務取締役
支店長　西東茂之

大阪支店　大阪市北区堂島２丁目１番16号　電話06(348）4510
本　社　東京都渋谷区千駄ヶ谷4丁目6番15号　電話03(3402)1911

不動建設株式会社

取締役社長　式村　健

大阪本社　大阪市中央区平野町4丁目2番16号　電話 06（201）9203番
東京本社　東京都台東区台東1丁目2番1号　電話 03（3837）6009番
支　店　北海道・東北・千葉・横浜・名古屋・神戸・広島・四国・南四国・九州・北九州

FUJIKI

株式会社 藤木工務店

取締役社長　藤木鐵三

本　社　〒550 大阪市西区新町2-4-2　☎06-539-8301㈹
東京本社　〒160 東京都新宿区三栄町23-4　☎03-3357-1600㈹
本支店　大阪・東京・倉敷・京都・四国・福岡

豊國建設株式会社

代表取締役　松丸哲也

本　社　〒530 大阪市北区天満橋2丁目3番1号　☎06(353)1001㈹
支　店　東京・東北　FAX06(353)1091・1092
営業所　北上・新井・福井・京都・舞鶴・加古川・益田・福岡

Matsumura

株式会社 松村組

取締役社長　福田耕作

本社・大阪本店　大阪市北区東天満1丁目10番20号　電話 大代表 大阪(353) 1131
東京本店　東京都千代田区内幸町1丁目1番2号　電話 大代表 東京(3502)1211
支　店　名古屋・札幌・東北・広島・九州・神戸・京都

三井建設 株式会社 大阪支店

支店長　山崎一郎

大阪支店　大阪市中央区本町4－4－25(本町三井ビル)　TEL　06—243—3411
本　店　東京都千代田区岩本町3－10－1　TEL　03—5821—7061

MICHIDA

株式会社 道田工務店

代表取締役　道田泰平

本　社・兵庫県川西市中央町18番21号　電話0727(57)9777番

海と陸の明日を拓く技術のムラズミ

村角建設株式会社

代表取締役社長　土山喜代士

本社　大阪市住之江区浜口西2丁目12-9　TEL 06－675－8101
支店　北海道・東京・横浜・大阪・京都・神戸・四国

望月建設株式会社

代表取締役社長　望月小太郎

本　社　大阪市北区中崎西２丁目３番12号　電話 大阪（375）2345(代表)

株式会社　森　組

取締役社長　森　幸彦

本　社　大阪市中央区道修町４丁目５番17号　電話２０１－２７６１
大阪本店　大阪市中央区道修町４丁目５番17号　電話２０１－２７６２
支　店　東京・東北・横浜・北陸・名古屋・奈良・神戸・中国・四国・九州
営業所　滋賀・京都・和歌山・紀泉・西宮・松山・熊本

保存と
開発に
取り組む…

数寄屋建築

株式会社　安井杢工務店

代表取締役　安井洋太郎

本　社　〒617 京都府向日市上植野町御塔道42　TEL（075）933－0012㈹　FAX（075）933－4931
東京事務所　東京都練馬区東大泉3-22-11-401　TEL・FAX（03）3925－0798

YAMAOKA

山岡建設株式会社

代表取締役　山岡週治

大阪市中央区船越町２丁目２番１号　TEL 06-941-2590

株式會社米田工務店

代表取締役会長　米田良男
代表取締役社長　米田高明

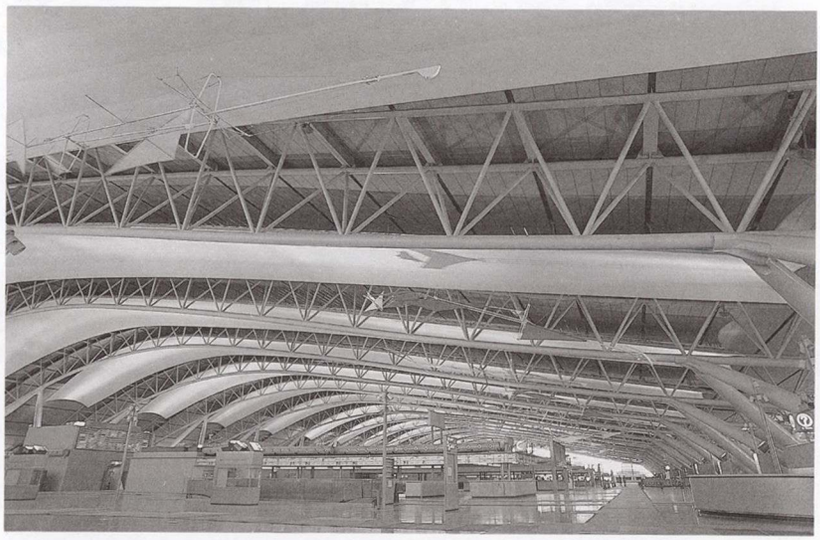
本　社　〒543 大阪市天王寺区逢阪1丁目1番7号　TEL 大阪(06)771-7771代表
FAX 大阪(06)779-2676代表

YSC

寄神建設株式会社

取締役社長　寄神茂之

本社	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3121
東京支店	〒103 東京都中央区日本橋茅場町1—6—12	☎03—3668—1871
横浜支店	〒231 横浜市中区翁町1—6—4（新翁ビル）	☎045—681—5085
名古屋支店	〒456 名古屋市熱田区森後町8—27	☎052—681—8661
大阪支店	〒553 大阪市福島区福島7—6—7(山陽ビル8F・9F)	☎ 06—451—9111
神戸支店	〒652 神戸市兵庫区七宮町2—1—1	☎078—681—3123
姫路支店	〒672 姫路市飾磨区須賀294(姫路ポートセンタービル)	☎0792—35—7748
広島支店	〒773 広島市西区観音本町1—1—20（辻ビル202）	☎082—233—3458
九州支店	〒812 福岡市博多駅前1-15-20(日本団体生命ビル9F)	☎092—482—4300
営業所	岡山・四国・淡路・横須賀・北九州・熊本	



新年のご挨拶

平成7年元旦

団体・報道・建材・設備工事有志

財団法人 大阪建築防災センター

理事長　小西　岬

〒540 大阪市中央区農人橋2－1－10(大阪建築会館5F)　電話 06(943)7253

社団法人 日本建築協会京都支部

支部長　井手正己

〒604 京都市中京区押小路通柳馬場東入 建設会館別館　電話075(211)2857・2877

社団法人 日本建築協会中国支部

支部長　平本俊秋

〒730 広島市中区国泰寺町1丁目8-4日興ビル内　TEL 082(244)2111

社団法人 日本建築協会東海支部

支部長　森口雅文

〒460 名古屋市中区栄4丁目3－26(昭和ビル5階)　電話052(261)1451

社団法人 日本建築協会和歌山支部

支部長　小池康雄

〒640 和歌山市卜半町38番地 建築士会館内　電話0734(23)2562

社団法人

日本建築材料協会

会長　大森正男

〒550　大阪市西区京町堀１丁目８番３号　電話06(443)0345

もっとも信頼され、読まれている情報紙

創業40年

株式会社 建設日報社

代表取締役社主　重村登龍

本　社　〒550 大阪市西区江之子島1-7-3　TEL06(444)2405-9
別　館　〒550 大阪市西区江之子島1-6-2　TEL06(444)6431-4

株式会社 日刊建設通信新聞社関西支社

取締役副社長　兼平賢司
関西支社長　霜﨑等

〒540 大阪市中央区内本町１－３－５　電話 06(944) 9191代表
内本町山森・住友生命ビル　ＦＡＸ 06(944) 9197
本　社・〒105 東京都港区西新橋２－11－４　電話 03(3502)8581代表

大阪府耳順会

(大阪府ＯＢ建設技術研究会)

会長　山地英雄(オオバ)　副会長　牧田顯治(羽沢建設)　名手宏彦(ミサワホーム)
幹事　上野勇(栗本建設)　恒吉正樹(西田工業)　豊田忠男(大末建設)　野村昌史(松村組)　林貞夫(鉄建建設)
広畑哲(不動建設)　兵本宣弘(東急建設)　八木常美(大都工業)　両国寛(鴻池組)
会計幹事　辻田幸治(矢崎総業)　石橋輝雄(大鉄工業)　監事　辻信(青木建設)　森岡瀞(日本コムシス)
会合場所　㈳日本建築協会　☎06－348－0635

会員の親睦と講演――――――入会歓迎!!

社団法人 日本建築協会

建築クラブ

代表　佐野正一
事務局　日本建築協会
〒530 大阪市北区梅田1-1-3-2100　大阪駅前第３ビル21階
電　話 (06) 348－０６３５　ＦＡＸ (06) 348－０６３４

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依藤孝行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351—5428㈹
FAX(06)351—5299

UMEHIKO

株式会社　梅彦

代表取締役　二野為之助

本　社　大阪市北区中崎西3丁目1番2号　電話06（377）3500大代
FAX06（377）3501大代
工　場　茨木市豊川3丁目1番6号　電話0726（43）5185代

特殊耐酸被覆鋼板

オリエンタルメタル株式会社

代表取締役会長　津村芳仁
代表取締役社長　津村芳範

本社及び東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5-12-2　TEL（048）442-3115（代）
西日本支社　〒660 尼崎市長洲中通3丁目24番35号　TEL（06）487-2121（代）
関東支店・東北支店・名古屋支店・大阪支店・広島支店・九州支店

TOF（フッ素樹脂積層被覆鋼板）、COM（耐酸被覆鋼板）製造及び責任施工
金属製屋根、外装工事業

JIS表示許可工場

大島応用化学工業株式会社

代表取締役社長　貞利政和

本社／大阪本店　大阪市旭区太子橋1-15-22　TEL 06-954-6521
支店、営業所　東京・名古屋・新居浜・四日市・岡山・広島・宇部・福岡
工　場　新居浜・寝屋川

建築用板硝子販売施工

キムラ硝子建材株式会社

代表取締役　木村雅秀

〒540 大阪市中央区内平野町3丁目2番11号　電話 06（941）4181代

結露防止に卓効のある　湿度を調節する断熱建材

KFK

防火 防音 **モクセン板** 防腐 防虫

〝コンクリート建物の水準向上に〟

神戸不燃板工業株式会社

〒673-05 兵庫県三木市志染町三津田　TEL（0794）87—3121代

人と文化のふれあいをつくる

三精輸送機株式会社

代表取締役　太田昭比古

本　　社：大阪府吹田市江坂町1丁目13-18 〒564　☎ 06（385）5621（代）
東京支店：東京都渋谷区千駄ヶ谷5の29の11　☎ 03（3356）5651（代）
福知山工場：福知山市長田野町2丁目45番地　☎ 0773（27）1211（代）
営　業　所：札幌・青森・秋田・仙台・名古屋・金沢・広島・九州・沖縄

よりよき環境へ技術で挑む

株式会社 精研

クリーンルーム
実験動物室空調
設計施工

代表取締役社長　大川一善

本　　社　大阪市中央区瓦屋町2丁目11番16号　電話06—768—5031(大代)
東京支店　東京都文京区小石川1丁目12番14号(日本生命小石川ビル)　電話03—5689—2351㈹
四国営業所　徳島県鳴門市撫養町小桑島前浜264　電話0886—85—0924㈹

TAJIMA 株式会社 タジマ

東京営業本部　〒101 東京都千代田区岩本町3-11-13　電話(03)5821-7731　FAX(03)3862-5908
大阪営業所　〒550 大阪市西区京町堀1－10－5　電話(06) 441-5951　FAX(06) 444-2596

田島ルーフィング株式会社
東西アスファルト事業協同組合

東　京：〒101　東京都千代田区岩本町3－11－13　電話 (03)5821—7711
大　阪：〒550　大阪市西区京町堀1－10－5　電話 (06) 443—0431

DIC 大日本インキ化学工業株式会社

常務取締役
支社長　土屋隆夫

建設資材
販売促進プロジェクト

〒541 大阪市中央区久太郎3丁目5—19
TEL (06) 252-6161

TOYO Shutter 東洋シヤッター株式会社

取締役社長　岡田　敏

本　　社　〒540 大阪市中央区南新町1-2-10(TSビル) 電話(06) 943—6571㈹
東京本社　〒106 東京都港区六本木6-3(第一地所麻布ビル)電話(03)3497—2911㈹

造園土木　設計施工

株式会社 西川造園

〒573 大阪府枚方市北中振3丁目27番17号
TEL 0720—33—8998代

株式会社 西原衛生工業所大阪店

代表取締役社長　伴　昭秀

本　　社　大阪市北区中津6丁目8番4号　電話 大阪(06)458—3628
支店･営業所　福岡・京都・神戸・天理・川西

日本電植株式会社

代表取締役社長　松村信人

本　　社　〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3･4F　TEL 06-352-7502㈹
印刷工場　〒530 大阪市北区天満1丁目10番8号 TEL 06-357-1908

マルエス印▲ルーフィング▲シングル▲メルタン21(トーチ工法)

日新工業株式会社 大阪支店

大阪支店長　佐々木通博

本社営業所　東京都足立区千住東2－23－4　☎東京(3882)2424（代）
大阪支店　大阪市西区新町1丁目12番22号　☎大阪(533)3191大代表
出張所　名古屋・広島・福岡・札幌・山形・工場／東京・埼玉・山形

日本アスファルト防水工業 協同組合 関西支部

大阪市西区新町1丁目12番22号　日新工業株式会社大阪支店内
電話（533）3191　大代表

造園の設計と施工

富士造園土木株式会社

〒665 宝塚市山本東2－6－17
TEL（宝塚）0797－88－0501㈹
FAX 0797－88－0507

合理的な
三好式ガラス防煙垂壁『M式ツリコ』

製造発売元 株式会社ミヨシ

本社／〒730 広島市中区紙屋町2丁目2-38　☎082-248-0344　FAX082-247-3479
関西／〒646 奈良県磯城郡田原本町新町　☎07443-3-4431　FAX077476－4907

三協アルミニウム工業株式会社代理店　日立化成工業株式會社代理店
立山アルミニウム工業株式会社代理店　新明和工業株式會社代理店
豊和工業株式會社代理店　近畿車輌株式会社代理店
信越ユニット株式会社代理店　住友ゴム工業株式会社代理店

ムツミ産業

ムツミ産業株式会社

代表取締役　傳馬正明

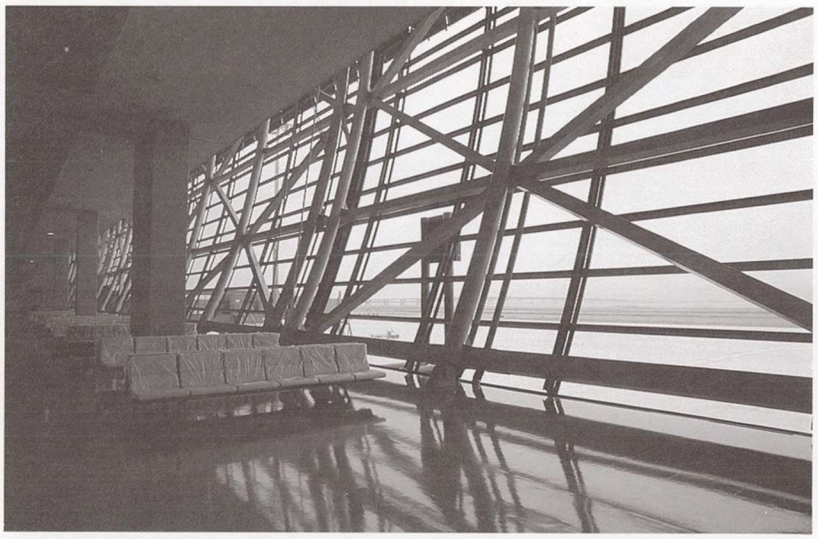
〒550 大阪市西区靭本町1丁目17番15号　電話（06）大代表 441－0378番
出張所：東京・京都・北九州

建設環境金属製品の

株式会社ユニオン

代表取締役　立野純三

本　　社　大阪市西区南堀江2-13-22　〒550 電話 06(532)3731(代)
東京支店　東京都江東区白河2－9－5　〒135 電話03(3630)2811(代)
名古屋営業所　名古屋市中川区舟戸町3-20　〒454 電話052(363)5221(代)



空調・衛生・クリーンルーム設備
（設計・施工）

朝日工業社

本社・本店　東京都港区浜松町1-25-7　電話03(3432)5711
大阪支社　大阪市淀川区加島1-58-59　電話 06(302)2270
支　　店　北海道/東北/北関東/横浜/名古屋/中国/九州

商品は空気です。

熱と空気のエンジニア
株式会社
大気社

●営業種目
空気調和設備　給排水衛生設備　塗装設備　公害防止関連設備の設計・製作・施工

本社・東京本店　東京都新宿区西新宿2-6-1　☎03－3344－1851(大代)　大阪本社☎06－448－3603(代)
大阪支社　☎06－448－5851(代)　名古屋支店　☎052－211－1535(代)　中国支店　☎082－247－5541
九州支店　☎092－431－2147(代)　営業所：北関東・横浜・神戸・京都・岡山・四国

電気・空調・衛生・防災・産業廃水設備
設　計　施　工

ダイダン株式会社

本店・大阪本社　〒550 大阪市西区江戸堀1丁目9番25号　電話(06)441-8231
東京本社　〒102 東京都千代田区富士見2丁目15番10号　電話(03)3261-8231
支　　社　名古屋・福岡
支　　店　札幌・仙台・新潟・大宮・千葉・横浜・金沢・京都・神戸・天理・岡山・広島・高松・熊本
営業所　帯広・函館・青森・秋田・盛岡・前橋・長野・静岡・豊田・津・富山・福井・徳山・松山・高知・北九州・鹿児島・那覇
出張所　旭川・福島・川崎・松江・徳島・下関・長崎・大分・宮崎
海外支店　シンガポール・ホンコン
技術研究所　〒354 埼玉県入間郡三芳町大字北永井390番地　電話(0492)58-1511

ガス設備の設計・施工のご相談は
大阪ガス指定工事会社・大阪ガス住設機器特約店

大晃設備株式会社

本　　社
大阪営業所　大阪市此花区西九条2丁目13番28号　電 06－466－2268
枚方営業所　枚方市甲斐田東町９－３　電0720－49－2128

空気調和設備　産業設備
給排水設備　水処理施設
電気設備　環境施設

三機工業株式会社

取締役社長　大島　剛
取締役大阪支店長　三田村　嘉也

大阪支店　大阪市中央区北浜2—2—21　電話06(202)3071(代表)
本社・東京本店　東京都千代田区有楽町1-4-1　電話03(3502)6111(大代)
支　　店　名古屋・九州・北海道・中国・東北・北陸・神戸・四国

給・排水・衛生・消火・空調設備

株式会社 西原衛生工業所大阪店

大阪市北区中津6丁目8番4号　電話大阪(458)3628番
支店・営業所　福岡・京都・天理・川西・神戸

空気調和設備
衛生設備 設計施工

三建設備工業株式會社

大阪支店　大阪市北区紅梅町３番５号　電話（352）１１３１(代)
本　　社　東京都中央区日本橋蠣殻町２－22　電話(3667)3431(大代)
支　　社　名古屋・仙台・札幌・広島・福岡・金沢・新潟・横浜

OKUJU
スペース クリエイター

建築に革命をもたらした技術がある

「大規模天井無足場工法」

内外装創作パネル・システム天井・間仕切
株式会社 オクジュー

本　社
大阪市北区西天満5丁目3番7号 〒530
TEL(06)312-4131　FAX(06)312-7998
東京・九州・横浜・名古屋・仙台・宮崎・京都

空気調和・衛生設備・設計施工

株式会社 三晃空調

本　　社　大阪市中央区城見２丁目１番61号ツイン21MIDタワー　電話 06-949-1371
東京本店　東京都新宿区西新宿　新宿住友ビル　電話03-3344-1911
大阪本店　大阪市北区西天満３丁目13番20号　電話 06-363-1371
支　　店　仙台・横浜・名古屋・京都・神戸・広島・福岡
営業所　札幌・松江
出張所　青森・秋田・盛岡・大宮・千葉・川崎・山梨・富山・福井
和歌山・鳥取・岡山・高松・下関・熊本・宮崎・鹿児島・沖縄

技術と信頼で人と企業に貢献する

青葉印刷株式会社

代表取締役社長　依　藤　孝　行

〒534 大阪市都島区中野町2丁目10番11号　TEL(06)351－5428(代)
FAX(06)351－5299

空調衛生・冷凍冷蔵・地盤凍結
よりよき環境へ技術で挑む

株式会社精研

本　　社　大阪市中央区瓦屋町２丁目11番16号(オートセンタービル１・２階)
郵便番号542　電話 大阪（06）768－５０３１　代表
メンテナンス部　電　話　大阪（０６）　７６８－　１６５１　代表
東京支店　東京都文京区小石川１丁目12番14号（日本生命小石川ビル７階）
郵便番号112　電話（０３）５６８９－２３５１代表

空調・衛生・防災設備　設計並施工

日本管工業株式会社

本社及京都支店　京都市南区西九条豊田町20番地の1
電話(681)5101～5・夜間専用(691)1045
大阪支店　大阪市北区天満1-5-20　電話 (06)352-3501㈹
三重支店　津市栄町2－111　電話(0592)26-3610㈹
四日市営業所　四日市市西末広町　電話(0593)53-7431㈹
滋賀営業所　大津市中央2丁目4-28　電話(0775)22-9738㈹

Carrier

冷暖房はキャリア

東洋キャリア工業㈱デストビューター関西地区

日本冷熱工産株式会社

本社及大阪営業所　吹田市豊津町40番38号
電話 大阪 (384) 1201～7

夢×技=∞

無限大

何時もあなたの街で
お会いしている
クリハラの技術



電気・計装・空調・土木

栗原工業株式会社

本社/〒530 大阪市北区角田町1-1(東阪急ビル)
TEL 06(313)1101

創業1919

電気設備　設計施工

朝陽電気株式会社

代表取締役　山本貴士

本　社　〒530 大阪市北区中之島三丁目2-4(朝日ビル) 電話06 (385)1361㈹
大阪営業所　〒564 吹田市垂水町3丁目34-6 電話06 (385)1361㈹
京都営業所　〒615 京都市右京区西京極葛野町21 電話075(311)1185㈹
神戸営業所　〒650 神戸市中央区浪花町59(神戸朝日ビル) 電話078(333)7756㈹

電気工事設計施工

株式会社 三興社

代表取締役 土井敏裕

本　社　大阪市北区西天満2丁目6－8(堂ビル5階)
電　話　06(361)3671(代)
支　店　東京都中央区日本橋茅場町2丁目17番3号
電　話　03(3666)1478(代)
営業所　堺・泉州・泉南・滋賀

電気設備工事設計施工

東光電気工事株式会社

関西支社

支社長　馬田栄

大阪市中央区高麗橋4丁目3番7号　電話 大阪 (202)0325～9番
本　社　東京都千代田区西神田1丁目4番5号
支　社　北海道・東北・丸ノ内・新宿・神奈川・東関東・中部・九州

人と都市の快適な環境をつくります

営業種目 設計・施工・監理

- ●電気設備
  - 受変電・幹線
  - 動力・制御装置
  - 電話、放送、インターホン
  - 防犯、防災
  - 中央監視制御
  - システム計装
- ●空調・給排水・衛生設備
  - 空気調和
  - 工場配管
  - 水処理
  - コージェネレーション
  - クリーンルーム
- ●プラント
  - プラント計装
  - システムエンジニアリング
- ●情報通信設備
  - 情報通信ネットワーク
  - 情報処理
  - 通信システム
  - 放送システム
- ●電力流通設備
  - 受変電
  - 架空送配電
  - 地中送配電

あたと地方にあふれるクリエイティブカンパニーをめざす。

住友電設株式会社

大阪本社 〒550 大阪市西区阿波座2-1-4 ☎(06) 537-3400
東京本社 〒105 東京都港区芝2-2-17 ☎(03)3454-7311

電気設備・計装制御設備・空調設備・クリーンルーム設備・プラント設備
給排水衛生設備・エネルギー集中監視システム…設計施工

三宝電機株式会社

SANPO

取締役社長　嘉納秀一

本　社　〒530 大阪市北区西天満2-6-8(堂ビル)　TEL 06(364)1471・FAX 06(364)5533
東京支社　〒105 東京都港区新橋2-16(ニュー新橋ビル)　TEL.03(3504)0231・FAX 03(504)0268
名古屋支店　〒462 名古屋市北区金城3-12-14　TEL.052(991)5131・FAX052(914)7535
神戸支店　〒657 神戸市灘区岩屋中町1-2-9(エビスビル)　TEL.078(881)5571・FAX.078(871)6261
堺研究所　〒590 大阪府堺市三宝町七丁369　TEL.0722(27)8408・FAX0722(27)1424

＊奉仕感謝の店

タイル及び規格石一式施工

株式会社 川岸窯業商店

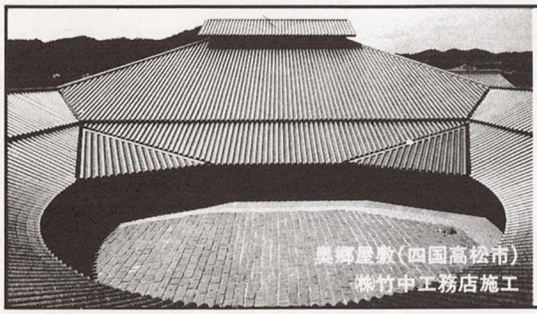
本　社　大阪市西区西本町1の13の33
TEL.06－532－0461(代表)
FAX.06－535－5181
天理営業所　天理市丹波市新町49

学校建築のトータルアドバイザー

二葉工業株式会社

黒板・掲示板・家具
電動黒板装置・サイン・スクリーン

〒547 大阪市平野区加美北3－4－5
TEL.06(792)5858　FAX.06(792)2810



奥郷屋敷(四国高松市)
㈱竹中工務店施工

ナニワ瓦株式会社

あらゆる屋根工事の相談は、

〒556 大阪市浪速区塩草一丁目二番三号
☎ 五六一～七四一六
ファックス 五六一～七四五四

新鮮

情報処理／編集・企画／印刷・製本

ハード&ソフト…プリンティングの先端を拓きます。

ND

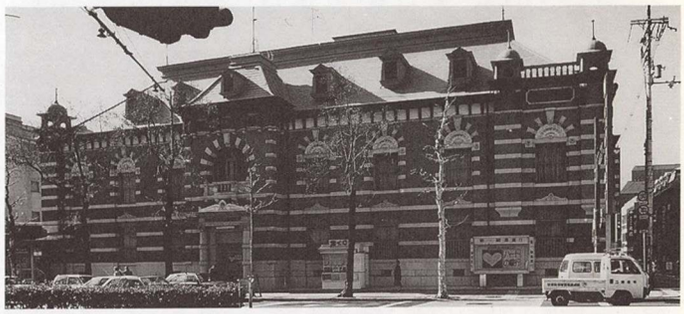
日本電植株式会社

〒530 大阪市北区天満1丁目19番4号 センチュリーパーク東天満3・4F
TEL. 06-352-7502㈹ FAX. 06-352-7486

特殊壁装材製造販売　和室に最適
●聚楽壁紙●ホクシノン(無機質壁紙)
(株)ホクシンクロス
〒583 大阪府羽曳野市島泉８－173－１
TEL(０７２９)３９－３６１０
工場　〒580　大阪府松原市三宅中8丁目1番9号
第一　〒639-11奈良県大和郡山市小泉町２７４４
第二　〒597　大阪府貝塚市王子５０１

Construction chemistry for the future.
コンクリート用混和剤／コンクリート用補修材
高性能無収縮材／コンクリート用高性能床材
Master Builders Technologies
株式会社エヌエムビー
株式会社ポゾリス物産
本　社：東京都港区六本木３－16－26
大阪支店：大阪市中央区北浜3-2-23(信愛ビル)
TEL06-202-3294

省エネルギー時代の断熱用シート防水材
日立バイナリーシートP
日立バイナリーシートPは，日立防水シートに発泡ポリエチレンを独自の貼り合わせ技術で積層した，二重構造の断熱兼用二重防水シートです。
日立電線株式會社 本社 東京都千代田区丸の内2丁目1番2号(千代田ビル)



デンカCSAファミリー製品

●デンカCSA（膨張性混和材）　コンクリートのひびわれ防止に
●デンカタスコン（グラウト用無収縮材）　鉄骨ベース、逆打部の充塡モルタルに
●デンカキューテックス（止水・補修用急硬セメント）　コンクリート軀体の漏水補修に
●デンカES（土質安定用急硬材）　地盤補強用薬注入
●デンカΣ1000（製品用超高度混和材）　コンクリートパイルの早期出荷とハイモメント製造用に

電気化学工業株式会社
近畿地区販売店

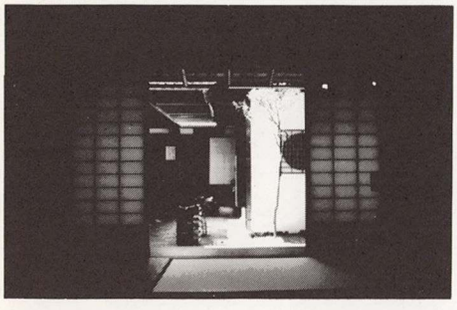
浜宗産業株式会社
TEL 本社・京都・網野（０７７２７）２－２２２０
舞鶴（０７７３）７６－０１３３

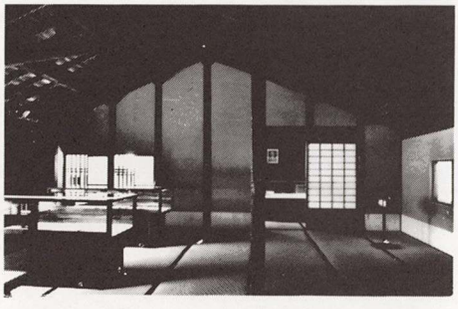
金森藤平商事株式会社
TEL 大阪（０６）３３２－６８６１
TEL 東京（０３）３２７２－８５０１

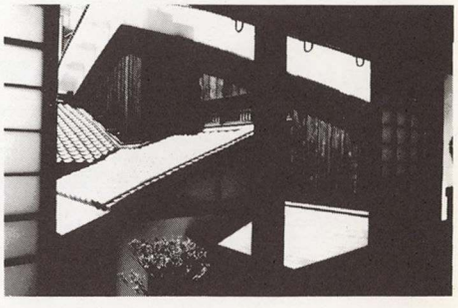
小浦産業株式会社
TEL 大阪（０６）４４３－６１８１

光洋物産株式会社
TEL 大阪（０６）２５２－６０００

東郷化成株式会社
TEL 滋賀・守山（０７７５）８３－２３８１
TEL 大阪（０６）８７７－１５８１







テトカッパー防水層

カッパー防水帯 ―――― コーパータイト／オクロン防水帯

資料をご請求下さい。

奥山化工業株式会社

本　社 東京都中央区銀座8-4-9 奥山ビル　TEL03(3571)2703㈹ FAX03(3571)0264

大阪事務所 TEL06(391)1081～2 FAX 06(395)2109　名古屋出張所 TEL052(811)3660

横浜営業所 TEL045(320)4832　FAX045(320)4765　厚木出張所 TEL0462(21)1761 FAX0462(23)1341

埼玉営業所 TEL048(774)2845　茨城出張所 TEL0292(28)0878 FAX0292(28)2614

新しい時代の、新しい扉をひらきたい。

TOYO Shutter

東洋シヤッター株式会社

本　社　〒540 大阪市中央区南新町1－2－10（TSビル）
TEL（06）943－6571（代）

■東京/横浜/盛岡/仙台/水戸/静岡/岡崎/名古屋/富山/大津/京都/神戸/広島/高松/福岡/他全国主要都市

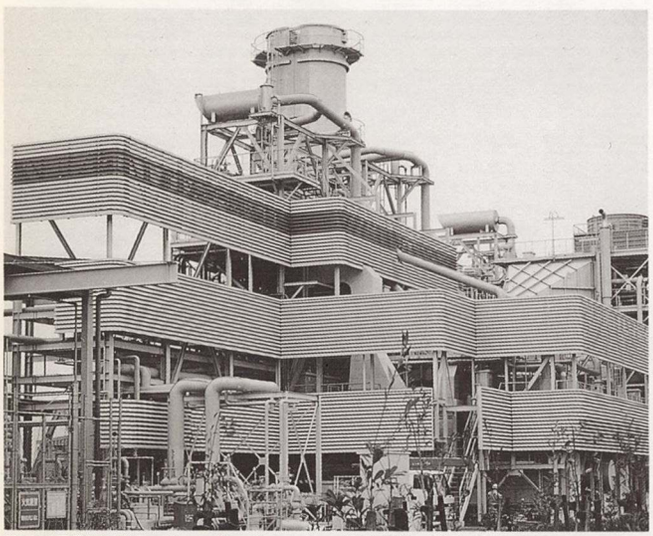
特　許・耐酸被覆鋼板
耐久建築屋根・外壁材料

オリエンタルメタル

半世紀の実績が誇る技術とアフターケア！

長尺物・色彩豊富・責任施工

品　種・オリエンタルエターノコア（ETC-F）
・オリエンタルスチールライト（STL）
・オリエンタルユニライト（UNL）



関西国際空港エネルギーセンター景観壁工事

波板規格　S小波・S大波・V波・ボックス波・Wジャンボ波・Vデッキ
SVジャンボ波・ボルトレスルーフBL・其の他

用　途　平板・波板・棟包・雨押類・谷樋・竪樋・軒樋
各種換気装置〔モニター・ベンチレーター・ムーバー・エキゾスター（強制）〕
ボーロイド（断熱材）D.G.　※カタログをご請求ください。

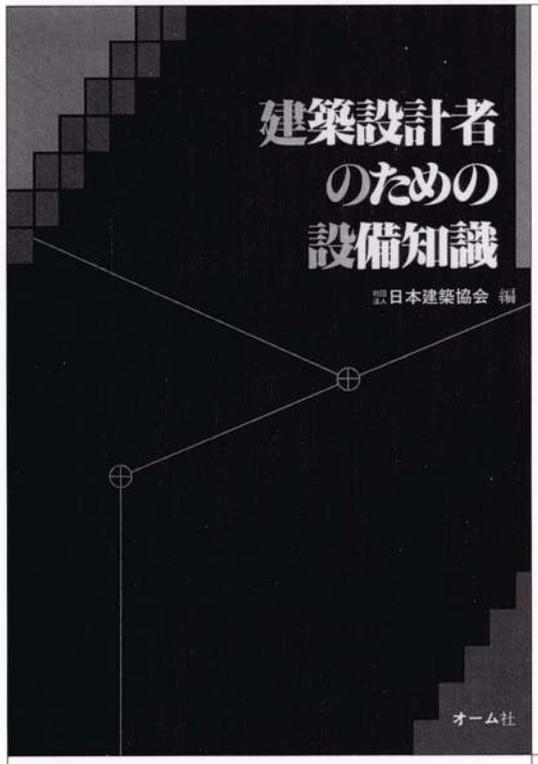
オリエンタルメタル株式会社

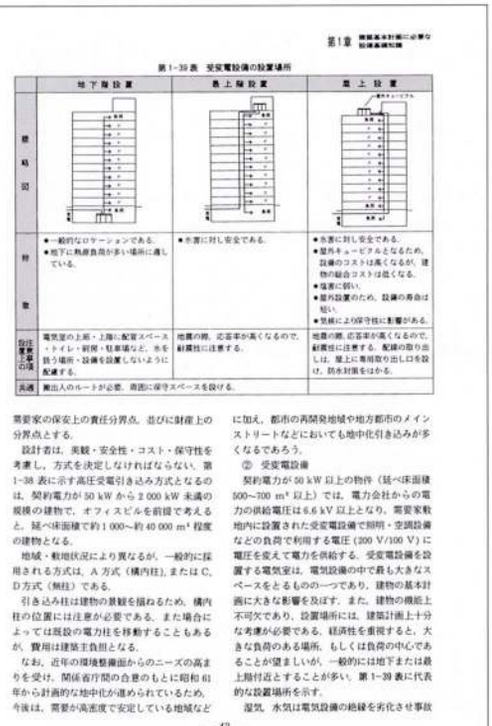
本　　社　〒335 埼玉県蕨市塚越5―12―2 TEL（048）442-3111
東日本支社　〒335 埼玉県蕨市塚越5―12―2 TEL（048）442-3115
西日本支社　〒660 兵庫県尼崎市長洲中通3―24―35 TEL（06）487-2121
支　　店　関東、東北、大阪、名古屋、広島、九州
工　　場　熊　谷・東　条・姫　路

㈳日本建築協会編／オーム社発行

建築設計者のための設備知識 —— 発売中 ——

B5判　220頁　上製本　定価5000円（本体4854円）'93・9月30日刊行





第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識

第1-39表　受変電設備の設置場所

	地下階設置	最上階設置	屋上設置
概略図			
特徴	●一般的なロケーションである。 ●地下に熱源負荷が多い場合に適している。	●水害に対し安全である。	●水害に対し安全である。 ●屋外キュービクルとなるため、設備のコストは高くなるが、建物の総合コストは低くなる。 ●騒音に弱い。 ●屋外設置のため、設備の寿命は短い。 ●気候により保守性に影響がある。
設計上の注意点	電気室の上部・上階に配管スペース・トイレ・厨房・駐車場など、水を扱う場所・設備を設置しないように配慮する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。	地震の際、応答率が高くなるので、耐震性に注意する。配線の取り出しは、屋上に専用取り出し口を設け、防水対策をはかる。
共通	搬出入のルートが必要。商図に保守スペースを設ける。		

需要家の保安上の責任分界点、並びに財産上の分界点とする。

設計者は、美観・安全性・コスト・保守性を考慮し、方式を決定しなければならない。第1-38表に示す高圧受電引き込み方式となるのは、契約電力が50 kWから2 000 kW未満の規模の建物で、オフィスビルを前提で考えると、延べ床面積で約1 000～約40 000 m²程度の建物となる。

地域・敷地状況により異なるが、一般的に採用される方式は、A方式（構内柱）、またはC、D方式（無柱）である。

引き込み柱は建物の景観を損ねるため、構内柱の位置には注意が必要である。また場合によっては既設の電力柱を移動することもあるが、費用は建築主負担となる。

なお、近年の環境整備面からのニーズの高まりを受け、関係省庁間の合意のもとに昭和61年から計画的な地中化が進められているため、今後は、需要が高密度で安定している地域などに加え、都市の再開発地域や地方都市のメインストリートなどにおいても地中化引き込みが多くなるであろう。

② 受変電設備

契約電力が50 kW以上の物件（延べ床面積500～700 m²以上）では、電力会社からの電力の供給電圧は6.6 kV以上となり、需要家敷地内に設置された受変電設備で照明・空調設備などの負荷で利用する電圧（200 V/100 V）に電圧を変えて電力を供給する。受変電設備を設置する電気室は、電気設備の中で最も大きなスペースをとるものの一つであり、建物の基本計画に大きな影響を及ぼす。また、建物の機能上不可欠であり、設置場所には、建築計画上十分な考慮が必要である。経済性を重視すると、大きな負荷のある場所、もしくは負荷の中心であることが望ましいが、一般的には地下または最上階付近とすることが多い。第1-39表に代表的な設置場所を示す。

湿気、水気は電気設備の絶縁を劣化させ事故



第6章　事務所ビルの設計例

第6-3表　空調システム例（3）

方式	概系統	概特徴	概評価
E 空調機＋ファンコイル方式（中小熱源併用）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はファンコイルで負担する。空調機の送風量はペリメーター分だけ少なくすることができるので、納まりはよい。温度制御は、ゾーニングができているためよい。南面の冬季の日射負荷対応には、ファンコイルの配管を冷水・温水の4管とする必要がある。	

エネルギー	電気または ガス	熱源設備	兼用可
熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様
空調機械室	1フロア 1 600×800×2 5台		
PS	ファンコイル 0.200× 20 機械室兼用		
DS	不要		

保守	騒音	温度制御	スペース
◎	◎	◎	○
運転	コスト	プラントの契約	外気冷房
○	○	●	可

方式	概系統	概特徴	概評価
F 空調機＋パッケージ方式（個別熱源中小熱源併用）		インテリア負荷は空調機、ペリメーター負荷はウォールスルー型パッケージで負担する。ダクトサイズは、E方式同様小さい。ゾーニングができているため、温度制御性はよい。南面の冬季日射負荷には、個別対応が可能。時間外には中央熱源を運転しなくてもパッケージで冷暖房が可能（室面より6 m程度）。	

エネルギー	電気＋ 電気またはガス	熱源設備	兼用可
熱源機械室	不要	屋上設置機器	方式Cと同様
空調機械室	1フロア 1 600×800×2 5台		
PS	機械室兼用		
DS	不要		

保守	騒音	温度制御	スペース
◎	◎	●	○
運転	コスト	プラントの契約	外気冷房
◎	○	◎	可

■目次

序　論　建築設計のための設備

第1章　建築基本計画に必要な設備基礎知識
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備

第2章　事務所ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備

第3章　商業ビルの設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／貸方基準

第4章　集合住宅の設備基礎知識
給排水衛生設備（＋ごみ処理）／電気設備／昇降機設備／電気エネルギー設備／ガスエネルギー設備

第5章　意匠設計者による設備の打ち合わせ
現地調査／官庁打ち合わせ事項／建築主打ち合わせ事項／法規チェックリスト

第6章　事務所ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／モデルビル設備概要

第7章　商業ビルの設計例
給排水衛生設備／空気調和設備／電気設備／昇降機設備／ごみ処理設備／モデルビル設備概要

第8章　建築と設備の接点
外壁，屋根／ドアガラリー／機械室／屋上，屋外／天井／DS，PS／EPS／フロアダクト／設備更新／騒音・振動の防止／住宅用メーターボックス／各種機器の納まり／配管スペース

本著書は、㈳日本建築協会機関誌「建築と社会」に3回にわたり特集した内容をベースに、環境問題にゆれる現在の社会状況を織り込み、最新の技術情報を盛り込むべく新たに書き起こしたもので、執筆には、東畑建築事務所、日建設計、安井建築設計事務所、大阪ガス、関西電力の設備設計者が当たり、編集委員会で推敲を重ねました。

第一線で活躍する設備設計者が、実務において、建築と設備のかかわりあう場で直面した問題を掘り起こしその解決を選択肢で示した本書は、意匠設計者のみならず、初歩の設備設計者にも好個の資料になるものと思います。

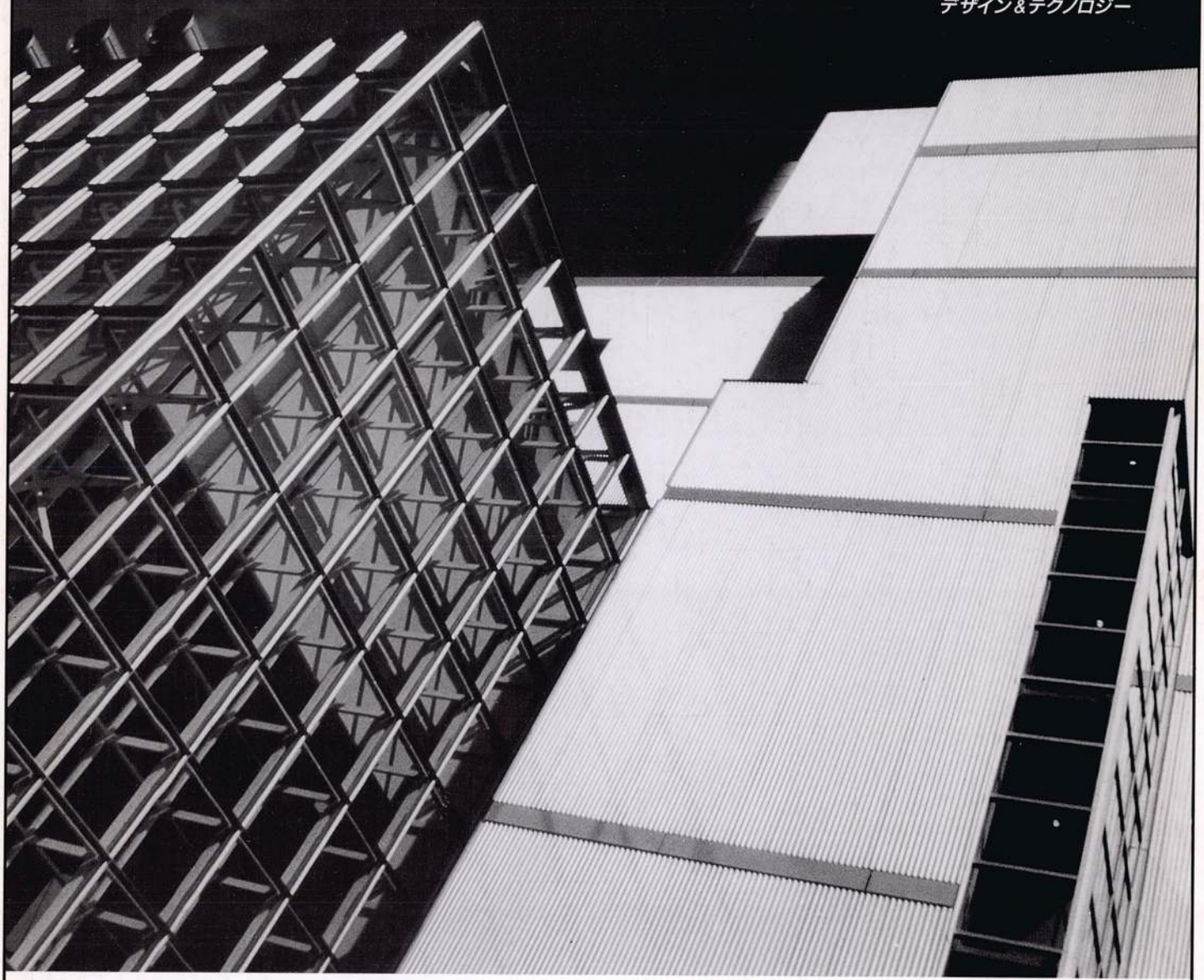
本書のお求めは、全国の書店で!!

㈳日本建築協会（〒530大阪市北区梅田1-1-3-2100TEL06-348-0635、FAX06-348-0634）では、割引価格（＋送料実費）で販売しますので、本会までご注文下さい。

建築と社会
第76輯1号

Design & Technology

デザイン&テクノロジー



都市の景観を構成する建物の表情は時代の変容とともに、つねに変化しています。
それは、建物の機能がその時代のニーズに対応しつづけているからと言えます。
YKK APは、そんな建物の表情を構成する開口部のアルミサッシやカーテンウォールなど、
完成度の高い建築パーツをトータルなシステムで建築に融合させること、
つまり、現代建築が求める時代のニーズに［デザイン&テクノロジー］の
設計対応でお応えすることを企業テーマに掲げています。
精度の高い製作・施工はもちろんのこと、その建物の設計コンセプトを、
鋭いデザイン力と高度なエンジニアリングで解決・具現化しています。

YKK ap

YKKアーキテクチュラルプロダクツ株式会社

本社／東京都千代田区神田和泉町1
大阪支店／大阪府大阪市中央区谷町4-8-7

社団法人 日本建築協会 〒530 大阪市北区梅田1の1の3の2100 電話大阪06(348)0635 FAX06(348)0634

振替口座 大阪一一三九七五番
正会員の購読料は会費に含めて徴収
定価1、200円（本体1、165円 消費税35円 送料共）

雑誌 03379-1